

官ノ認可ヲ受ケ必要ニ應シ豫備役後備兵卒中憲兵上等兵適任證書ヲ有スル者ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

前項ノ場合ニ於テ戰地ニ在リテハ憲兵長ハ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ受ケルモノトス

第八十六條 陸軍補充令第七十條ニ該リ砲兵工長候補者ヲ當該工長ニ任スル手續ハ第四十八條ノ規定ヲ準用ス

第八十七條 陸軍補充令第七十二條及同令第七十三條ニ該ル看護卒ノ候補者ヲ選定シ之ヲ命スル手續ハ第五章第二款ヲ準用ス

第七章 雜則

第八十八條 朝鮮及滿洲ニ駐節スル部隊獨立守備大 臺灣守備隊並基隆 澎湖島 旅順 鎮海 海軍砲兵隊下士兵卒ヨリ憲兵下士上等兵ヲ補充スルトキ之ニ要スル手續ハ第三章第一款 第五章第一款ノ規定ヲ準用ス

第八十九條 陸軍補充令第八十五條ニ該ル者ヲ續 靴工長ニ任スルニハ聯隊長其ノ人名及列序ヲ師團經理部長ニ移シ經理部長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ三等續靴工長ニ任スヘシ

第九十條 陸軍補充令第八十六條及同令第八十七條ニ該ル者ヲ下士ニ任スルニハ聯隊長其ノ人名及列序ヲ師團經理部長、師團醫務部長又ハ之ト同等以上ノ權アル當該部長ニ送付シ該部長ハ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ當該三等工長ニ任スヘシ

第九十一條 下士候補名簿ハ認可決定ノ日ヨリ次年ノ下士候補名簿決定ノ日迄之ヲ用ウヘシ

下士補充上ノ必要アルトキハ下士候補名簿ニ追加スルコトヲ得共ノ取扱ハ各本條ノ例ニ準ス

第九十二條 下士候補名簿又ハ憲兵上等兵候補名簿ニ管轄シタル者及下士候補者又ハ憲兵上等兵候補者ニシテ採用前其ノ候補者ヲラシムヘカヲサレ事由ヲ生シタルトキ、所屬ヲ轉換シタルト

キ其ノ他身上異動ヲ生シタルトキハ本人ノ所屬長官ヨリ其ノ事由ヲ關係部隊ノ長官ニ通報又ハ上申スヘシ

第九十三條 本令中師團長トアルハ朝鮮駐節軍司令官臺灣總督關東都督、旅團長トアルハ臺灣守備隊司令官、師團經理部長トアルハ朝鮮駐節軍經理部長臺灣總督府陸軍經理部長關東都督府陸軍經理部長、師團醫務部長トアルハ朝鮮駐節軍醫務部長臺灣總督府陸軍醫務部長關東都督府陸軍醫務部長、師團獸醫部長トアルハ臺灣總督府陸軍獸醫部長聯隊長トアルハ獨立隊長聯隊區司令官トアルハ對馬警備隊司令官及沖繩警備隊區司令官、聯隊トアルハ獨立隊ヲ包含ス

第九十四條 本令中師團長ヨリ聯隊長ニ達シ又ハ聯隊長ヨリ師團長ニ上申提出スヘキモノハ旅團内ノ聯隊ニ在リテハ總テ旅團長ヲ經由スヘキモノトス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○陸軍省令第十號

陸軍一年志願兵條例施行細則中左ノ通改正ス

明治四十四年十月二十六日

陸軍大臣 男爵石木新六

第二十二條ノ三 條例第四條但書ニ依リ外泊ヲ願出テムトスル者ハ願書ニ證據書類ヲ添ヘ本籍地市町村長島司郡長、聯隊區司令官ヲ經テ聯隊長ニ差出スヘシ

市町村長ハ前項ノ願書ニ證明ヲ爲スヘキモノトス

第二十六條 削除

附錄第十樣式 削除

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

陸軍省令第十三號陸軍一年志願兵條例施行細則(明治三十七年三月二十九日)抄錄  
第二十六條 一年志願兵募集試驗及軍醫書生試驗ハ各部隊ニ於テ調製スルモノトス

○陸軍省令第十一號

陸軍召募規則左ノ通改正ス

明治四十四年十月二十六日

陸軍大臣 男爵石本新六

陸軍召募規則

第一章 總則

第一條 本令ハ士官候補生、主計候補生、陸軍中央幼年學校豫科生徒、陸軍地方幼年學校生徒、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、衛生部獸醫部依託學生、同依託生徒、砲兵工長候補者、陸軍戸山學校軍樂生徒ノ召募並陸軍中央幼年學校本科生徒ノ入校及納金ニ關スル手續ヲ定ム  
見習醫官、見習藥劑官及見習獸醫官ノ召募ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ外陸軍大臣召募ノ權之ヲ定ム

第二條 士官候補生、主計候補生、陸軍中央幼年學校豫科生徒、陸軍地方幼年學校生徒、砲兵工長候補者及陸軍戸山學校軍樂生徒ノ召募人員ハ陸軍大臣召募ノ權度之ヲ告示ス

第三條 左ノ各號ノ一ニ該ル者ハ採用セス

- 一 妻アル者見習醫官見習藥劑官見習獸醫官衛生部及獸醫部依託學生同依託生徒志願者ヲ除ク
- 二 本人又ハ父若ハ戶主家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者及身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
- 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 四 素行修ラサル者

第四條

志願者ハ左ニ掲クル年齡及身長ナルコトヲ要ス但シ年齡ハ入隊又ハ入校ノ年見習醫官見習藥劑官及依託生徒志願者並衛生部獸醫部依託學生及依託生徒志願者ニ在リテハ出願ノ年ノ三月三十一日ヲ以テ之ヲ定メ身長ハ身檢検査當時ニ於ケルモノトス

士官候補生及主計候補生

年齡滿十七年以上二十一年未滿現役下士ロリ志願スル者  
身長五尺以上

陸軍中央幼年學校豫科生徒及陸軍地方幼年學校生徒

年齡滿十三年以上十五年未滿

身長四尺四寸以上但シ陸軍地方幼年學校條例第十三條ニ依リ特待生タルノ資格アル者ハ身長本文ノ定限ニ達セサルモ士官候補生ト爲ル迄ニ該定限ニ達スヘキ見込アル者

見習醫官、見習藥劑官及見習獸醫官

年齡滿二十年以上三十年未滿

帝國大學又ハ外國ノ大學ヲ卒業シタル者ニ在リテハ滿二十年以上三十五年未滿

身長五尺以上

衛生部、獸醫部依託學生及依託生徒

年齡滿十八年以上二十八年未滿

身長五尺以上

砲兵工長候補者

年齡滿十七年以上二十三年未滿

身長五尺以上

陸軍戸山學校軍樂生徒

年滿十七年以上二十年未滿  
身長四尺九寸以上

第五條 陸軍補充令第四條第一號又ハ同令第十六條第一號ニ依リ士官候補生又ハ主計候補生ヲ志願シ得ヘキ者左ノ如シ

- 一 中學校卒業者
- 二 學習院中等學科卒業者其ノ他文部大臣ニ於テ各專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル學校卒業者
- 三 高等學校在學者並同卒業者
- 四 專門學校音樂及美術ニ關スル專門學校ヲ除ク本科在學者並同卒業者
- 五 實業專門學校本科在學者並同卒業者

第六條 入隊又ハ入校期日左ノ如シ

士官候補生  
主計候補生  
砲兵工長候補者  
陸軍戸山學校軍樂生徒  
陸軍中央幼年學校豫科生徒  
陸軍地方幼年學校生徒

十二月一日  
九月一日

第七條 檢査ヲ分チテ身體檢査及學科試驗トシ學科試驗ハ身體檢査合格者ニ付之ヲ行フ  
陸軍補充令第四條但書及同令第十六條但書ニ依リ學科試驗ヲ省略スヘキモノニ付テハ陸軍大臣之ヲ告示ス

第八條 左ノ各號ノ一ニ該ル者ハ檢査ヲ停止ス但シ第一號ニ該ル者ハ爾後出願スルモ採用セス

一 身體檢査又ハ學科試驗ノ際不正ノ所爲アリタル者

二 檢査場ヘ規定外ノ物品及筆記類ヲ携ヘタル者

三 身體檢査又ハ學科試驗ニ關係者ハ遅刻シタル者

第九條 志願者ハ本人ノ父母其ノ他ニシテ一家ヲ爲シ身元確實ナル者二人ヲ以テ保證人ト爲シ願書格式ニ戶籍謄本及履歷書格式ヲ添ユヘシ但シ志願者ハ相互ニ保證人ト爲ルコトヲ得ス

出願當時二十歲未滿ノ志願者ニ在リテハ保證人ノ中一人ハ親權者又ハ後見人ナルコトヲ要ス  
陸軍部内ノ志願者ニ在リテハ保證人ヲ要セス但シ出願當時二十歲未滿ノ者ニ在リテハ親權者又ハ後見人願書ニ連署スルコトヲ要ス

第十條 志願者ハ檢査期日前檢査地ニ到着シ書面ヲ以テ其ノ止宿所ヲ指定ノ場所ニ届出ヘシ但シ檢査地ニ現住スル者ト雖陸軍部外ノ志願者ニ在リテハ本文ニ準シ届出ヘシ

第十一條 陸軍部内ノ志願者ヲ除クノ外士官候補生、主計候補生又ハ砲兵工長候補者志願者及陸軍中央幼年學校豫科生徒、陸軍地方幼年學校生徒志願者ハ新ニ撮影シタル手札形ノ寫眞一枚ヲ身體檢査ノ際檢査官ニ差出スヘシ  
前項ノ寫眞ハ單獨半身脫帽ニテ撮影シタルモノニシテ其ノ裏面ニ本人ノ府(縣)族稱氏名ヲ自書スヘシ

第十二條 志願者ハ學科試驗ノ際毛筆、鉛筆、消ゴム、硯、硯池、小刀ヲ携フヘシ但シ士官候補生、主計候補生志願者ニ在リテハ圖引具三邊板ノ一、ペン、及黒、インキ、砲兵工長候補者志願者ニ在リテハ圖引具三邊板ノ一、ペン、及黒、インキヲモ携フヘシ

第十三條 志願者願書ヲ差出シタル後入隊又ハ入校迄ノ間ニ於テ轉籍、轉住、氏名變更、犯罪、死亡其ノ他願書類ニ記載シタル事項及保證人等ニ異動ヲ生シタルトキハ本人又ハ保證人ヨリ最初願

出ノ手續ニ依リ速ニ届出ヘシ但シ陸軍部内ノ志願者ニシテ轉隊派遣其ノ他本文ノ異動ヲ生レタルトキハ部隊長ヨリ報告スヘシ

前項ノ届書ニハ本籍地現住地族稱氏名及検査場ヲ記載スルコトヲ要ス

入隊後若ハ入校後保証人ヲ變更シタルトキハ隊長又ハ學校長ニ届出ヘシ

第十四條 入隊又ハ入校ノ命ヲ受ケタル者傷病若ハ疾病其ノ他已ムコト得サル事故ヲ生シ入隊又ハ入校延期ヲ願出テムトスルトキハ其ノ願書ニ何日間猶豫ヲ受ケタキ旨ヲ記シ傷病若ハ疾病ノ者ニ在リテハ醫師ノ診断書其ノ他ノ者ニ在リテハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ隊長又ハ學校長ニ差出スヘシ但シ陸軍部内ノ出身者ニシテ入隊又ハ入校延期ヲ要スヘキ者ハ所屬部隊長ニ於テ其ノ日數ヲ定メ隊長又ハ學校長ニ通報スヘシ

入隊又ハ入校ノ途中ニ於テ前項ノ事故ヲ生シ期日ニ到着シ難キ者ハ電信ヲ以テ電信ノ便ナキトキハ他ノ手段ヲ以テ速ニ隊長又ハ學校長ニ届出ヘシ其ノ事故止ミ入隊又ハ入校ノ際傷病若ハ疾病ニ依ル者ニ在リテハ醫師ノ診断書其ノ他ノ者ニ在リテハ市町村長ニ差出スヘシ

第一項又ハ第二項ノ事故ニ依リ入隊又ハ入校期日ヨリ二十日以内ニ到着セサル者ハ除名スルコトアルヘシ

入隊又ハ入校當日身體検査ノ結果ニ依リ傷病若ハ疾病ノ爲候補生候補者又ハ生徒タルニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ隊長又ハ學校長之ヲ除名シタル後速ニ狀ヲ具シテ報告ヲ要スレハ補闕ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 入隊又ハ入校ヲ命セラレタル者無届ニテ期日ニ到着セズ又ハ自己ノ不注意ニ依リ期日ニ後レタル者ハ入隊又ハ入校スルコトヲ許サズ

第十六條 陸軍部外又ハ一年志願兵ヨリ志願ノ者ハ検査ノ爲往復及滞在ノ費用其ノ採用後入隊

又ハ入校迄ノ費用ハ一切自辨トス但シ砲兵工長候補者及陸軍戸山學校軍樂生徒ニ採用セラレタル者ニハ其ノ現住地検査時ヨリ入隊又ハ入校地迄ノ里程ニ應シ陸軍旅費規則ニ依リ旅費ヲ官給ス

第十七條 將校生徒試験臨時委員其ノ他ノ試験官ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一 試験ノ日割及順序ハ一切之ヲ變更セズ

二 第八條ニ該ル者アルトキハ本人ノ検査ヲ停止ス

三 試験問題ニ付受験者ノ質問ニ説明ヲ與ヘス

第十八條 將校生徒試験臨時委員其ノ他ノ試験官ハ試験書類ニ左ノ報告書ヲ添附スヘシ

一 試験ノ景況

二 受験者ノ品格

三 試験ニ關スル意見

第十九條 本令中師團長トアルハ臺灣ニ在リテハ臺灣總督、聯隊區司令官トアルハ警備隊區ニ在リテハ警備隊司令官若ハ警備隊區司令官、郡長トアルハ島廳ヲ設ク島嶼ニ在リテハ島司、北海道ニ在リテハ支廳長、市長トアルハ東京市京都市大阪市名古屋市古尾市並北海道及沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長、町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戶長及之ニ準スヘキ者、郡長市町村長トアルハ臺灣ニ在リテハ廳長ニ該當ス

聯隊區、聯隊區司令部トアルハ警備隊區ニ在リテハ警備隊區、警備隊司令官若ハ警備隊區司令部ニ該當ス

第二十條 召集ニ關シ一時本令ノ規定ニ依ラサルモノアルトキハ之ヲ告示ス

第二章 士官候補生、主計候補生、陸軍中央幼年學校本科生、同豫科生徒及陸軍地方幼年學校生徒

第一款 士官候補生及主計候補生

第二十一條 士官候補生及主計候補生志願者ノ學科試驗ハ中學校卒業ノ程度ニ於テ之ヲ行フ但シ外國語學ハ英佛獨露清語ノ内本人ノ希望スル一種ヲ限リ試驗ス

第二十二條 左ノ各地ニ検査場ヲ設テ陸軍部外ノ志願者ハ便宜ノ検査場ヲ選定シ之ヲ願書ニ記載スヘシ但シ本籍地若ハ現住地所在師管外ノ検査場ヲ選定スルコトヲ得ス

第一師管	東京	横須賀	佐倉	甲府
第二師管	仙臺	福島	若松	山形
第三師管	名古屋	津島	桑名	岐阜
第四師管	大坂	堺	和歌山	山崎
第五師管	廣島	岩國	山口	松山
第六師管	熊本	八代	鹿兒島	都立
第七師管	札幌	函館	盛岡	旭川
第八師管	弘前	青森	盛岡	秋田
第九師管	金澤	高岡	富山	江田
第十師管	姫路	神戸	福知山	鳥取
第十一師管	善通寺	丸龜	高知	徳島
第十二師管	小倉	大分	中津	徳島
第十三師管	高田	新潟	村松	福岡
第十四師管	宇都宮	高崎	熊谷	松戸
第十五師管	豊橋	飯田	静岡	水戸
第十六師管	京都	奈良	大津	濱松

編知

沖紀

第十七師管 岡山 福山 濱田 松江  
第十八師管 久留米 佐賀 大村 高瀬

前項検査場ノ外適宜ノ場所ニ臨時検査場ヲ設クルコトアルヘシ

第二十三條 學科試験ハ四月十一日ヨリ之ヲ行フ

第二十四條 陸軍部外ノ志願者ハ第九條ニ定ムル書類ヲ検査ヲ受クヘキ前年ノ十一月三十日迄ニ本籍地ノ市町村長ニ差出シ學校長ニ成績證明ヲ願出ヘシ

第二十五條 市町村長ハ前條ノ書類ヲ調査シテ證明ヲ爲シ町村長ハ之ヲ郡長ニ差出シ郡市長ハ之ヲ二月二十日迄ニ之ヲ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

市町村長ハ身元明細書ヲ作り町村長ハ之ヲ郡長ニ差出シ郡市長ハ三月三十一日迄ニ之ヲ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第二十六條 聯隊區司令官ハ前條ノ書類ヲ調査シ同條第一項ノ書類ニ在リテハ一月十日迄同條第二項ノ書類ニ在リテハ之ニ意見ヲ附シ六月三十日迄ニ師團長ニ差出スヘシ

本籍地以外ノ現住地ニ於テ検査ヲ受ケムル者アルトキハ聯隊區司令官ハ其ノ本籍地現住地族稱氏名生年月日及検査場ヲ記載シタル人名書ヲ作り現住地聯隊區司令官ヲ經テ一月十日迄ニ現住地所管ノ師團長ニ差出スヘシ

第二十七條 陸軍部内ノ志願者ハ第九條ニ定ムル書類ヲ検査ヲ受クヘキ前年ノ十二月十日迄ニ所屬部隊長ニ差出スヘシ

部隊長ハ前項ノ書類ヲ調査シ願書ニ證明ヲ爲シ之ニ保證書ヲ添ヘ一月十日迄ニ所管師團長ニ差出シ身元明細書ヲ作り六月三十日迄ニ同師團長ニ差出スヘシ

近衛師團ニ在リテハ該師團長前項ノ書類ヲ取換メ願書及其ノ他ノ書類ハ一月十五日迄身元明細書ヲ作り六月三十日迄ニ同師團長ニ差出スヘシ

細書ハ七月五日迄ニ第一師團長ニ移スヘシ

第二十八條 學校長ハ志願者ヨリ成績證明ヲ願出タルトキハ證明書式ヲ作り検査ヲ受クヘキ前年ノ十二月二十日迄ニ之本籍地ノ聯隊區司令官ニ送付ス

第二十九條 市町村長又ハ部隊長ハ身元明細書ヲ作りタル後第四十條ニ依リ採用人名ノ公示アル迄身元明細書ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ旨ヲ順序ヲ經テ速ニ教育總監ニ付テ陸軍大臣以下同シニ届出ヘキ其ノ採用ノ告達ヲ受ケタル者ニ關シ入隊迄ニ生シタル異動ニ付亦同シ

第三十條 第五條第一號第二號ニ掲グル學校卒業ニ至ラズト雖入隊スヘキ年ノ召集試験前途ニ卒業スヘキ者ハ陸軍補充令第四條第一號ニ該ル者ニ準テ願出ルコトヲ得

前項ノ志願者ニシテ當該學校卒業試験ヲ終リタルトキハ速ニ學校長ヨリ其ノ成績同級生及之ニ對スル列序及第又ハ第ニ本籍地聯隊區司令官ニ通報シ聯隊區司令官ハ師團長ヲ經テ五月三十一日迄ニ之ヲ教育總監ニ差出スヘシ

第三十一條 陸軍部内ノ志願者ノ身體検査及學科試験ハ其ノ所屬部隊所在地ノ検査場ニ於テ之ヲ行フ但シ検査場設置地外ニ在ル者ハ其ノ所屬部隊ニ於テ身體検査及學科試験ヲ受ケシムルコトヲ得

第三十二條 陸軍部外ノ志願者中願書ヲ差出シタル後現住地ヲ轉シタル爲検査場ノ變更ヲ望ム者ハ新舊検査場及新舊住地族稱氏名生年月日ヲ記載シタル願書ヲ以テ最初願出ノ順序ニ依リ願出ヘシ但シ其ノ願書二月十日迄ニ教育總監部ニ在リテハ陸軍省ニ到着セサルモノハ其ノ變更ヲ許可セス

前項ノ新検査場他師團長ニ屬スルトキハ師團長ハ其ノ願書ヲ新検査場所管ノ師團長ニ移シ同師團長ハ之ヲ教育總監ニ差出スヘシ

第三十三條 師團長ハ近衛師團長以下同シハ聯隊區司令官及部隊長ヨリ差出シタル書類ヲ審査シ検査場臨時検査場ニ二分テタル志願者人名書ヲ作り同人名書及願書其ノ他ノ書類ハ一月三十一日迄身元明細書ハ七月十日迄ニ教育總監ニ之ヲ差出スヘシ

第三十四條 師團長ハ検査場最寄地方ノ志願者少數ナルトキハ他ノ検査場ニ於テ検査ヲ受ケシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ志願者ニ達シ且前條ノ書類ヲ差出ストキ之ヲ教育總監ニ報告スヘシ

第三十五條 師團長ハ將校生徒試験臨時委員ハ主計候補生志願者ニ在リテ及身體検査場官シ命シ教育總監ヨリ受ケタル試験問題及志願者選名簿ニ檢査表ヲ添ヘテ之ニ下付シ試験ニ關スル必要ノ訓示ヲ與フヘシ

第三十六條 主計候補生試験臨時委員ハ將校生徒試験臨時委員ニ之ヲ命スルヲ例トス

第三十七條 師團長ハ試験期日前ニ身體検査ヲ終ル如ク期日ヲ定メテ志願者ヲ召集シ身體検査場官ヲシテ身體検査ヲ爲サシムヘシ

試験臨時委員ハ前項ノ身體検査ニ參列スヘシ

第三十八條 身體検査場官検査ヲ終リタルトキハ志願者選名簿ニ合格不合格體格等位及身長其ノ他所要ノ記入ヲ爲シ合格者ノ寫真ト共ニ之ヲ試験臨時委員ニ移スヘシ

第三十九條 試験臨時委員ハ試験ヲ終リタルトキハ其ノ答解書ヲ密封シ志願者選名簿ニ所要ノ記入ヲ爲シ試験實施報告書及試験全濟者ノ寫真ト共ニ之ヲ師團長ニ差出シ師團長ハ之ヲ覆覽メ自

己ノ意見ヲ附シ五月五日迄ニ教育總監ニ差出スヘシ

第四十條 陸軍大臣主官候補生又ハ主計候補生ヲ採用シタルトキハ陸軍部外ヨリ採用ノ者ニ在

リテハ本籍地所管ノ師團長聯隊區司令官市町村長陸軍部内ヨリ採用ノ者ニ在リテハ所管長官

明治四十四年十月 省令 陸軍省第十一號 陸軍官制規則

四八七

部隊長ヲ經テ之ヲ本人ニ達ス  
前項ノ採用人名ハ之ヲ公示ス

第二款 陸軍中央幼年學校本科生徒

第四十一條 陸軍中央幼年學校豫科及陸軍地方幼年學校ヲ卒業シタル者ハ其ノ年九月一日陸軍中央幼年學校本科ニ入學セシム

第四十二條 陸軍中央幼年學校本科生徒ノ納ムヘキ金額左ノ如ク

半特待生 月額四圓

自費生 月額八圓

前項ノ納金ハ之ヲ寶數ト看做シ追徴又ハ還付セス但在學中退校又ハ死亡ノ場合ニ在リテハ其ノ退校又ハ死亡ノ月以後ニ係ル既納金額ヲ返戻ス

第四十三條 入校當月ノ納金ハ入校ノ前月二十八日迄爾後毎月ノ納金ハ其ノ前月二十八日迄ニ保證人ヨリ陸軍中央幼年學校ニ納付スヘシ但便宜二月以上ノ納金ヲ前納スルコトヲ得

前項ノ納金ハ陸軍中央幼年學校ニ於テ歳入納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三款 陸軍中央幼年學校豫科生徒及陸軍地方幼年學校生徒

第四十四條 陸軍中央幼年學校豫科生徒、陸軍地方幼年學校生徒志願者ノ學科試験ハ中學校第一學年終業ノ程度ニ於テ之ヲ行フ其ノ試験科目左ノ如ク

讀書 漢字交リ文ノ誦讀

作文 漢字交リ文、書翰文

算術 複比例迄

地理、歴史 日本地理、日本歴史ノ大要

第四十五條 試験合格者ハ概ネ左ノ區分ニ基キ入校セシム

第一第十三及第十四師管内ノ者ハ

陸軍中央幼年學校

第二第七及第八師管内ノ者ハ

仙臺陸軍地方幼年學校

第三第九及第十五師管内ノ者ハ

名古屋陸軍地方幼年學校

第四第十及第十六師管内ノ者ハ

大阪陸軍地方幼年學校

第五第十一及第十七師管内ノ者ハ

廣島陸軍地方幼年學校

第六第十二及第十八師管内ノ者ハ

熊本陸軍地方幼年學校

第四十六條 學科試験ハ四月十九日ヨリ之ヲ行フ

第四十七條 志願者ハ第九條ニ定ムル書類ヲ檢査ヲ受クヘキ前年ノ十一月三十日迄ニ本籍地ノ市町村長ニ差出シ學校長ニ成績證明ヲ願出ヘシ

志願者中陸軍地方幼年學校條例第十三條ニ該ル者ニ在リテハ其ノ父ノ略歴ヲ願書ニ添附シ任官後十五年以上上隊附職務ニ精勤シ滿期歸郷又ハ死歿ノ際軍隊官衙學校ノ長官ヨリ勤務證明書ヲ與ヘラレタル陸軍下士ノ兒子ニ在リテハ其ノ父ノ略歴ノ外勤務證明書寫ヲ願書ニ添附スヘシ

第四十八條 陸軍中央幼年學校豫科生徒及陸軍地方幼年學校生徒ノ召募ニ關シテハ第二十二條第二十五條第二十六條第二十八條第二十九條第三十二條乃至第三十五條及第三十七條乃至第三十九條ヲ準用ス

第四十九條 志願者中採用スヘキ者ハ教育總監ノ傳達ニ依リ本籍地所管ノ師團長ヨリ聯隊區司令官、郡市町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ達スヘシ

前項ノ採用人名ハ之ヲ公示ス

第五十條 入校ヲ命ゼラレタル者ヲ特待生ト除クハ其ノ親權者又ハ後見人ヨリ入校期日前ニ保證人ノ連署ヲ以テ納金證書ヲ當該學校長ニ差出スヘシ

第五十一條 陸軍地方幼年學校長ハ陸軍地方幼年學校條例第二十五條ニ依リ陸軍中央幼年學校ニ

入學ヲ命シタルトキハ當該生徒ノ前條ニ依ル納金證書ヲ該學校長ニ送付スヘシ

第五十三條 生徒ノ納金ニ關シテハ第四十二條及第四十三條ヲ準用ス

特待生及半特待生中自己ノ便軍ヲ以テ退校ヲ願出ル者アルトキハ其ノ事情ニ依リ自費生ノ納金額ニ準シ在學中ノ費用ヲ納メシムルコトアルヘシ

第三章 見習醫官、見習藥劑官及見習獸醫官

第五十二條 陸軍補充令第二十七條第四號ニ該ル者ニシテ見習醫官又ハ見習藥劑官、同令第三十二條第四號ニ該ル者ニシテ見習獸醫官ヲ志願スル者ハ第九條ニ定ムル書類ノ外卒業證書寫ヲ添ヘ之ヲ本籍地市町村長ニ差出スヘシ

第五十四條 市町村長ハ前條ノ書類ヲ調査シテ證明ヲ爲シ身元明細書<sup>第三</sup>ヲ作リ之ニ添附シ町村長ハ志願者ヨリ該書類受領ノ日ヨリ十五日以内ニ郡長ニ差出シ郡市長ハ遂ニ之ヲ志願者現住地所管師團ノ軍醫部長<sup>見習獸醫官志願者ニ在リテニ差出スヘシ</sup>ニ提出スヘシ

第五十五條 師團軍醫部長ハ前條ノ書類ヲ審查シ本人ノ學力、志操、性行等ヲ調査シ師團長ノ認可ヲ受ケ志願者ヲシテ最寄部隊附軍醫ノ身體検査ヲ受ケシメ共ノ體格検査表及一切ノ書類ヲ取纏メ師團長ニ提出シ師團長ハ之ニ意見ヲ附シ速ニ陸軍大臣ニ提出スヘシ

第五十六條 陸軍一年志願兵中軍醫生、藥劑生ニシテ見習醫官又ハ見習藥劑官、獸醫生ニシテ見習獸醫官ヲ志願スル者ハ第九條ニ定ムル書類ヲ六月十日迄ニ隊長ニ差出スヘシ

第五十七條 隊長ハ前條ノ書類ヲ調査シ身元明細書<sup>第三</sup>及保證書<sup>第五</sup>ヲ添ヘ六月三十日迄ニ師團軍醫部長ニ送付スヘシ

第五十八條 師團軍醫部長ハ前條ノ書類ヲ審查シ本人ノ學力、志操、性行等ヲ調査シ一切ノ書類ヲ取纏メ師團長ニ提出シ師團長ハ之ニ意見ヲ附シ七月三十一日迄ニ陸軍大臣ニ提出スヘシ

第五十九條 陸軍大臣見習醫官、見習藥劑官又ハ見習獸醫官ヲ採用シタルトキハ陸軍部外コリ採用ノ者ニ在リテハ本籍地所管ノ師團長郡市町村長、陸軍部内コリ採用ノ者ニ在リテハ所管長官部隊長ヲ經テ之ヲ本人ニ達ス

前項ノ採用人名ハ之ヲ公示ス

第四章 衛生部獸醫部依託學生及依託生徒

第六十條 衛生部、獸醫部依託學生及依託生徒ノ要員ハ陸軍大臣陸軍補充令第二十七條第一號第二號、同令第三十二條第一號第二號ニ該ル分科大學長又ハ學校長ニ通牒シ志願者ヲ召募ス

衛生部依託生徒ハ當該學校第二學年以上ノ者ヨリ召募スルヲ例トス

第六十一條 志願者ハ第九條ニ定ムル書類ニ證書<sup>第八</sup>ヲ添ヘ本籍地市町村長ニ差出スヘシ

第六十二條 市町村長ハ前條ノ書類ヲ調査シ證明ヲ爲シ身元明細書<sup>第三</sup>ヲ作リ之ニ添附シ町村長ハ志願者ヨリ該書類ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ郡長ニ差出シ郡市長ハ速ニ之ヲ當該分科大學長又ハ學校長ヲ經テ當該分科大學又ハ學校所在地所管師團ノ軍醫部長<sup>獸醫部依託學生及依託生徒ニ在リテハ師團長以下同シ</sup>ニ差出スヘシ

師團軍醫部長ハ前項ノ書類ヲ審查シ本人ノ學力、志操、性行等ヲ調査シ師團長ノ認可ヲ受ケ志願者ヲシテ最寄部隊附軍醫ノ身體検査ヲ受ケシメ共ノ體格検査表及一切ノ書類ヲ取纏メ師團長ニ提出シ師團長ハ之ニ意見ヲ附シ速ニ陸軍大臣ニ提出スヘシ

第六十三條 陸軍大臣ハ志願者中採用スヘキ者ヲ定メ當該分科大學又ハ學校所在地所管ノ師團長、當該分科大學長又ハ學校長ヲ經テ本人ニ達シ且之ヲ公示ス

第六十四條 依託學生ハ當該分科大學、依託生徒ハ當該學校一般ノ規程ニ從ヒ修學セシム

第六十五條 依託學生又ハ依託生徒ハ情願ヲ以テ依託學生又ハ依託生徒ヲ辭スルコトヲ許サズ

第六十六條 依託學生又ハ依託生徒ニシテ左記各號ノ一ニ該ル者アリタルトキハ當該分科大學又



ハ學校所在地所管師團ノ軍醫部長ハ當該分科大學長又ハ學校長ヨリ其ノ通報ヲ受ケ師團長ニ上申シ師團長ハ之ヲ陸軍大臣ニ上申スヘシ

一 品行不正、學業懈怠若ハ規則違反等ノ故ヲ以テ帝國大學總長若ハ當該學校長ニ於テ退學ノ處分ヲ爲スヘキ者

二 成業ノ目途ナキ者

三 傷痍若ハ疾病ノ爲休學六月以上ニ至リ仍治愈ノ見込ナキ者

第六十七條 陸軍大臣ハ依託學生、依託生徒中前條ニ該ル者又ハ其ノ性行見習醫官、見習藥劑官又ハ見習獸醫官ト爲スニ適セスト認メタル者アルトキハ依託學生又ハ依託生徒ヲ免レ當該分科大學又ハ學校所在地所管ノ師團長、當該分科大學長又ハ學校長ヲ經テ本人ニ達シ且之ヲ公示ス

第六十八條 依託學生又ハ依託生徒ニハ授業其ノ他一切ノ費用ニ充ツル爲左ノ金額ヲ支給ス

依託學生 月額二十圓

依託生徒 同 十五圓

第六十九條 依託學生又ハ依託生徒ニシテ第六十六條第一號ニ該リ依託學生又ハ依託生徒ヲ免レラレタル者アルトキハ其ノ翌月盡日迄ニ依託學生又ハ依託生徒間前條ニ依リ支給レタル金額ヲ返納セシム

第七十條 依託學生又ハ依託生徒ノ身上其ノ他戶籍ニ異動ヲ生シタルトキハ本人若ハ保證人ヨリ最初願出ノ順序ニ依リ之ヲ陸軍大臣ニ届出ヘシ

第七十一條 依託學生又ハ依託生徒其ノ課程ヲ卒ヘ卒業試験ヲ終リタルトキハ當該分科大學又ハ學校所在地所管師團ノ軍醫部長ハ當該分科大學長又ハ學校長ヨリ其ノ試験ノ成績等ニ關スル通報ヲ受ケ速ニ師團長ニ上申シ師團長ハ之ヲ陸軍大臣ニ上申スヘシ

第五章 砲兵工長候補者

第七十二條 砲兵工長候補者志願者ノ學科試験ハ高等小學校卒業ノ程度ニ於テ之ヲ行フ共、試験科目左ノ如シ

- 讀書 漢字交リ文ノ講讀
- 作文 漢字交リ文書簡文
- 圖畫 用器畫自在畫
- 地理歴史 日本地理、日本歴史ノ大要
- 理科 初歩
- 算術 求積迄

第七十三條 現役初年兵ヨリ志願ノ者ハ第九條ニ定ムル書類ヲ六月三十日迄ニ所屬隊長ニ差出スヘシ

隊長ハ前項ノ書類ヲ調査シ證印ヲ爲シ採否ノ參考ト爲ルヘキ事項有リハ特ニ調査シテ之ニ添附シ聯隊區司令部所在地東京府成ニ在ル軍隊ニ屬スル者ニ在リテハ其ノ地ノ聯隊區司令部ノ經、其ノ他ノ者ニ在リテハ七月三十一日迄ニ直接之ヲ砲兵工科學校長ニ送付スヘシ

第七十四條 陸軍部外ノ志願者ハ第九條ニ定ムル書類共ノ他ノ書類ヲ三月十五日迄ニ現住地ノ市町村長ニ差出スヘシ

市町村長ハ前項ノ書類ヲ調査シテ證印ヲ爲シ町村長ハ之ヲ郡長ニ差出シ郡市長ハ之ヲ三月三十一日迄ニ現住地所管ノ聯隊區司令部ニ差出スヘシ

第七十五條 聯隊區司令部ハ前條ノ書類ヲ審査シ徵兵検査ノ際志願者ヲ便宜ノ検査場ニ呼出シ徵兵醫官ヲシテ身體検査ヲ行ハシメ合格者連名簿ヲ作り願書共ノ他ノ書類ト共ニ七月三十一日迄ニ之ヲ陸軍砲兵工科學校長ニ送付スヘシ

第七十六條 學科試驗ハ九月十四日ヨリ之ヲ行フ

第七十七條 陸軍砲兵工科學校長ハ學科試驗問題 試驗日割及試驗施行ノ方法ヲ定メ其ノ書類ヲ 祕封シテ八月三十一日迄ニ隊長及聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第七十八條 兵卒ノ學科試驗ハ東京衛戍地ニ在ル軍隊ニ屬スル者ニ在リテハ東京市ニ於テ陸軍砲 兵工科學校長 聯隊區司令官 麻布本館聯隊區 所在地ニ在ル軍隊ニ屬スル者ニ在リテハ其ノ地ニ 於テ聯隊區司令官 其ノ他ノ軍隊ニ屬スル者ニ在リテハ所屬隊ニ於テ隊長之ヲ行フ

陸軍部外志願者ノ學科試驗ハ現住地所管ノ聯隊區司令官該司令部所在地ニ於テ之ヲ行フ

第七十九條 各隊長及聯隊區司令官試驗ヲ終リタルトキハ其ノ答解書ヲ祕封シテ之ニ志願者連名簿 第六様式ヲ添ヘ九月二十日迄ニ陸軍砲兵工科學校長ニ送付スヘシ

第八十條 陸軍砲兵工科學校長ハ第七十五條ノ書類並志願者ノ試驗成績ヲ審査シ採用スヘキ者 ヲ定メ之ニ砲兵工長候補者及其ノ入校ヲ命シ 隊長若ハ聯隊區司令官 郡市長及町村長ヲ經テ之 ヲ本人ニ達スヘシ

前項ノ採用人名ハ之ヲ公示ス

第八十一條 陸軍部外ノ志願者ニシテ入校ヲ命セラレタル者ノ旅費ハ本人現住地所管團經理部 ヲリ之ヲ支給ス

第六章 陸軍戸山學校軍樂生徒

第八十二條 陸軍戸山學校軍樂生徒志願者ノ學科試驗ハ高等小學校卒業ノ程度ニ於テ之ヲ行フ其 ノ試験科目左ノ如シ

- 讀書 漢字交リ文ノ講讀
- 作文 書簡文
- 算術 分數迄

前項ノ外洋琴等ニ依リ二三音符ノ呂律ヲ判別セシメテ聽官ヲ檢シ其ノ他音聲等ニ關スル試験ヲ 行フ

第八十三條 陸軍戸山學校軍樂生徒ハ特ニ齒列正シクシテ齶齒ナキ者ニ非サレハ採用セス

第八十四條 志願者ハ第九條ニ定ムル書類ヲ三月二十日迄ニ現住地ノ市町村長ニ差出スヘシ

市町村長ハ前項ノ書類ヲ調査シテ證明ヲ爲シ町村長ハ之ヲ郡長ニ差出シ郡市長ハ之ヲ三月三十 一日迄ニ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第八十五條 聯隊區司令官ハ前條ノ書類ヲ審査シ徵兵検査ノ際志願者ヲ便宜ノ検査場ニ呼出シ徵 兵検査ヲシテ身體検査ヲ行ハシメ合格者連名簿ヲ作り願書共ノ他ノ書類ト共ニ検査終了後直ニ 之ヲ陸軍戸山學校長ニ送付スヘシ

第八十六條 陸軍戸山學校長ハ前條ノ書類ヲ審査シ各師管毎ニ試驗場ヲ設ケ試驗期日及試驗場ノ 位置共ノ他必要ノ事項ヲ市町村長ヲ經テ志願者ニ達スヘシ

志願者ノ人員僅少ナル師管ニ在リテハ試驗場ヲ設ケス最寄師管ノ試驗場ニ於テ試験ヲ行フコト ヲ得

第八十七條 陸軍戸山學校長ハ試驗區域ヲ定メ一試驗區域毎ニ樂長若ハ樂長補一人ヲ試驗官ト爲 シ之ニ樂手一人宛ヲ附屬シ試驗ヲ行ハシムヘシ

前項ノ試驗官及職員ハ陸軍戸山學校軍樂生徒隊及軍樂隊ヨリ選定ス但シ軍樂隊ヨリ選定セムト スルトキハ陸軍戸山學校長ノ上申ニ依リ教育總監之ヲ當該師團長ニ達スヘシ

第八十八條 試驗官ハ試驗ノ成績ヲ調査シ試驗成績表ヲ作り十月十五日迄ニ陸軍戸山學校長ニ差 出スヘシ

陸軍戸山學校長ハ前項ノ書類ヲ審査シ其ノ成績ニ依リ採用スヘキ者ヲ定メ之ニ軍樂生徒及其ノ 入校ヲ命シ現住地ノ聯隊區司令官 郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ達スヘシ

前項ノ採用人名ハ之ヲ公示ス  
第八十九條 入校ヲ命セラレタル者ノ旅費ハ本人現住地所管師團經理部ヨリ之ヲ支給ス

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一様式ノ一(用紙美濃白紙)  
士官候補生(主計候補生)願

士官候補生(主計候補生)志願ニ付御許可被成下度御採用ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ暫ク陸軍ニ從事可仕候仍テ戸籍簿本籍區  
將相添へ此段奉願候也

年月日

氏名 氏 年月日生

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)郡地  
現住地 府(縣)郡(市)町(村)郡地  
戸主 氏(姓) 子(氏) 族(姓) 職業(官職等)

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)郡地  
現住地 府(縣)郡(市)町(村)郡地  
族(姓) 職業(官職等)

親權者又ハ後見人(二十歳以上) 氏名 氏 名印

同 氏 名印

同 氏 名印

陸軍大臣爵氏名殿

追テ左ノ通希望致候也

受檢外國語

受檢算術(算術一級ノ級)

受檢兵種學識(軍士一級ノ級)

年月日

府(縣)郡(市)町(村)長 氏 名印

第一様式ノ二(用紙美濃白紙)

陸軍中央幼年學校豫科(陸軍地方幼年學校)生徒願

陸軍中央幼年學校豫科(陸軍地方幼年學校)生徒志願ニ付御許可被成下度御採用ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ暫ク陸軍ニ從事可仕  
候仍テ戸籍簿本籍區將相添へ此段奉願候也

年月日

氏名 氏 年月日生

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)郡地  
現住地 府(縣)郡(市)町(村)郡地  
戸主 氏(姓) 子(氏) 族(姓) 職業

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)郡地  
現住地 府(縣)郡(市)町(村)郡地  
族(姓) 職業(官職等)

親權者又ハ後見人 氏名 氏 名印

同 氏 名印

同 氏 名印

教育總監爵氏名殿

追テ左ノ通希望致候也

希望學校

第一 何幼年學校

第二 何幼年學校

第三 何幼年學校

受檢算術

入校後ノ外國語學

年月日

佛(指)寫(寫)

府(縣)郡(市)町(村)長 氏 名印

明治四十四年十月 省令 陸軍省第十一號 陸軍召募規則

第一様式ノ三(用紙美濃白紙)

見習醫官(見習藥劑官)(見習獸醫官)(衛生部依託學生)  
(衛生部依託生徒)(獸醫部依託學生)(獸醫部依託生徒)願

見習醫官(見習藥劑官)(見習獸醫官)(衛生部依託學生)(獸醫部依託生徒)(志願ニ付御許可  
被成下度御採用ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ醫ヲ陸軍ニ從事可仕候仍テ戸籍謄本(附屬書寫)相送ハ此取  
奉願候也

年月日

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地  
現住地 府(縣)郡(市)町(村)番地  
戸主 子 族務(職業)(官職等)

氏名 備  
年月日生

親權者又ハ後見人(二十歳以上) 保護人 氏 名印

陸軍大臣爵氏名殿

府(縣)郡(市)町(村)長 氏 名印

年月日  
(陸軍部内ノ志願者ニ在リテハ市町村長ノ證明及保護人ヲ要セス)  
第一様式ノ四(用紙美濃白紙)  
砲兵工長候補者願

砲兵工長候補者志願ニ付御採用被成下度入校ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ醫ヲ陸軍ニ從事可仕候仍テ戸籍謄本(附屬書寫)相送ハ此  
取奉願候也

年月日

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地  
現住地 府(縣)郡(市)町(村)番地  
戸主 子 族務(職業)(官職等)

氏名 備  
年月日生

親權者又ハ後見人(二十歳以上) 保護人 氏 名印

陸軍砲兵工科學校長爵氏名殿

府(縣)郡(市)町(村)長 氏 名印

追テ左ノ通告致候也  
添置工科  
第一何工科  
第二何工科  
年月日

(陸軍部内ノ志願者ニ在リテハ保護人ヲ要セス)  
第一様式ノ五(用紙美濃白紙)  
陸軍戸山學校軍樂生徒願

陸軍戸山學校軍樂生徒志願ニ付御採用被成下度入校ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ醫ヲ陸軍ニ從事可仕候仍テ戸籍謄本(附屬書寫)相  
送ハ此取奉願候也

年月日

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地  
現住地 府(縣)郡(市)町(村)番地  
戸主 子 族務(職業)(官職等)

氏名 備  
年月日生

陸軍戸山學校長爵氏名殿

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地  
現住地 府(縣)郡(市)町(村)番地  
族稱(職業)官職等)  
親權者又ハ後見人 保證人 氏 名印  
同 保證人 氏 名印  
府(縣)郡(市)町(村)長 氏 名印

第二様式(用紙美濃白紙)

年月日

履歴書

- 一 何年月日何學校へ入学何年月日同校卒業
  - 一 何年月日何學校何年學級ヨリ何學校何年學級ニ入学何年月日同校卒業
  - 一 何年月日何所ニ於テ何研究
  - 一 何年月日何ニ從事ス
  - 一 何年月日何ニ依リ賞(罰)等
- (右ノ例ニ依リ履歴ニ關スル事項ハ悉ク記スヘシ)  
右之通相違無之候也

年月日

第三様式(用紙美濃白紙)

府縣族稱何之誰身元明細書

身	本人ノ品行	氏名職業ノ種類 (假ハハ商ニ在リテハ其ノ種類、官吏公吏ニ在リテハ何官何職何所事務等詳細明記シ死者ニ付テモ生前ノ職業ヲ記入スヘシ)
父	養父繼父アル者ハ各別ニ記入スヘシ	

本人 氏 名印  
保證人 氏 名印  
保證人 氏 名印

分	母 ハ各別ニ記入スヘシ 前記以外ノ者月主ナルトキ	右ニ準ス
兄	弟 姉 妹	右ニ準ス 右ニ準ス但シ戸籍内ニ在ル者ニ限ル
罰	犯罪及處刑有無	本人ハ父母月主兄弟姉妹何罪ヲ犯シ何年月日何刑ニ處セラルル其ノ他何罪ヲ犯シ密議中等未タ處刑セラレタル者ニ在リテモ其ノ旨ヲ併セテ詳記スヘシ
家及政家ノ計及現況	家政ニハ家庭ノ數否家庭内外ノ教育狀態、職業、近隣ノ毀譽等成ルヘク其ノ真相ヲ知り得ル如ク明瞭ニ記述シ家計ニハ本人月主及月主以外ノ扶養者ニ分テ「財産」トシテ動産不動産各見積價額所得金トシテ一年ノ收入額ヲ事ケ之ニ依リテ生活スル家族ノ人員及當該地方一般ノ生活費用其ノ他負債ノ有無、家事經濟ノ狀況ヲ詳細ニテ詳細意見ヲ記入スヘシ	
右之通調査證明候也	全部扶養ナルカ又ハ一部ノ補助ナルカヲ明ニスルヲ要ス	
聯隊區司令官ノ所見	聯隊區司令官 氏 名印	
府(縣)郡(市)町(村)長 氏 名印		

第一 中央幼年學校豫科生徒、地方幼年學校生徒志願者ニ在リテハ本書身分ノ欄交ノ下ニ左ノ事項ヲ記述スヘシ

一 戦死及戦傷ニ依リ死没シ又ハ戦役中危難ヲ冒シタルニ基因シテ死没シタル陸海軍將校同相賞官、高等文官、陸軍准士官下士若ハ現職中公務ノ爲ニ死没シタル陸海軍將校同相賞官若ハ増加恩給權ヲ得テ死没シタル陸海軍將校同相賞官若ハ恩給權ヲ得テ死没シタル陸海軍將校同相賞官ハ年月ヲ分テ其ノ略歴

一 前項ノ事由以外ニ於ケル高等官タリシ死者ハ特ニ國家ニ功勞アリタル事項ニ對シ年月ヲ分テ其ノ略歴



露	不 <sup>△</sup> 四 <sup>△</sup> 五 <sup>△</sup> 尺一寸分					
佛	合 <sup>△</sup> 乙 <sup>△</sup> 五 <sup>△</sup> 尺二寸三分					
獨	尺 寸 分 無 厘 不 差					
合 計	八 人					
備	一 身體合格者					
	二 身體不合格者					
	三 身體検査ヲ受ケサル者					
	四 學科全科目或ハ若干科目ノ試験ヲ受ケサル者					
	五 不正所爲ノ爲ニ試験停止					
	六 受験全済者					
		△五	△二	△二	△二	△二
		人	人	人	人	人

第七様式(用紙美濃白紙)

納金證書(收入印紙貼用)

右者陸軍中央幼年學校預科(陸軍地方幼年學校)生徒被命候ニ付テハ入校中(御校及陸軍中央幼年學校入校中)ノ費用ハ勿論陸軍召集規則第五十二條第二項ニ依リ納金ヲ命セラレ候節ハ御規定ノ通り相納萬一事情ニ依リ納金被命候節ハ保證人ニ於テ可相納候

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地  
 現住地 府(縣)郡(市)町(村)番地  
 族稱(職業)(官職等)  
 何某親權者(後見人) 氏 名 印

第八様式(用紙美濃白紙)

證書(收入印紙貼用)

衛生部(醫務部)係託學生(生徒)被命候後陸軍召集規則第六十九條ニ依リ納金ヲ被命候節ハ御規定ノ通り相納萬一事情ニ依リ納金被命候節ハ保證人ニ於テ可相納候

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地  
 現住地 府(縣)郡(市)町(村)番地  
 族稱(職業)(官職等)  
 本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地  
 現住地 府(縣)郡(市)町(村)番地  
 族稱(職業)(官職等)  
 何某親權者(後見人) 氏 名 印  
 保證人 氏 名 印

○海軍省令第七號

明治三十二年海軍省令第十三號海軍造船船造兵生徒規則中第五條ヲ削除ス  
 明治四十四年十月二十日 海軍大臣 男爵齋藤實

〔参照〕

海軍省令第十三號海軍造船部兵生徒規則(明治三十二年五月二十五日)抄録  
第五條 海軍造船部兵生徒ニシテ海軍造船部兵生徒條例第五條ノ諸項ニ該當スルモノアルトキハ當該部ニ工業部  
校長ハ之ヲ海軍造船部兵生徒ニシテ通告シ該局長ハ生徒ヲ免ス

○海軍省令第八號  
海軍内國旅費規則第七表中舞鶴ト各地間ノ欄日數夜數及金員ヲ附表ノ如ク改メ明治四十四年十一  
月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十月三十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

地名	等級	日數	夜數	金員	地名	等級	日數	夜數	金員
三津濱	九等	二	一	五二〇	平戸	九等	三	二	九二〇
多度津	九等	一	一	六一〇	伊萬里	九等	三	二	九二〇
高松	九等	一	一	六一〇	呼子	九等	三	二	九二〇
三田尻	九等	二	一	五二〇	唐津	九等	三	二	九二〇
徳山	九等	二	一	五二〇	郷ノ浦	九等	三	二	九二〇
玖波	九等	二	一	五二〇	博多	九等	三	二	九二〇
宮島	九等	二	一	五二〇	門馬	九等	三	二	九二〇
宇品	九等	二	一	五二〇	江田島	九等	三	二	九二〇
地名	等級	日數	夜數	金員	地名	等級	日數	夜數	金員
三津濱	九等	二	一	五二〇	平戸	九等	三	二	九二〇
多度津	九等	一	一	六一〇	伊萬里	九等	三	二	九二〇
高松	九等	一	一	六一〇	呼子	九等	三	二	九二〇
三田尻	九等	二	一	五二〇	唐津	九等	三	二	九二〇
徳山	九等	二	一	五二〇	郷ノ浦	九等	三	二	九二〇
玖波	九等	二	一	五二〇	博多	九等	三	二	九二〇
宮島	九等	二	一	五二〇	門馬	九等	三	二	九二〇
宇品	九等	二	一	五二〇	江田島	九等	三	二	九二〇

○司法省令第二十四號  
商法第五百三十四條ノ二ノ規定ニ依リ別表ノ手形交換所ヲ指定ス

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十四年十月二日  
(別表)

司法大臣 松田正久

名	稱	所在地
東京	交換所	東京府東京市
京都	手形交換所	京都府京都市

福江	九等	二	一	五二〇	臺北	九等	三	二	九二〇
長崎	九等	二	一	五二〇	安南	九等	三	二	九二〇
嚴原	九等	二	一	五二〇	安南	九等	三	二	九二〇
竹敷	九等	二	一	五二〇	安南	九等	三	二	九二〇
鹿兒島	九等	二	一	五二〇	安南	九等	三	二	九二〇
志布志	九等	二	一	五二〇	安南	九等	三	二	九二〇
基座	九等	二	一	五二〇	安南	九等	三	二	九二〇



大阪手形交換所	大阪府 大阪市
横濱交換所	神奈川県 横濱市
神戸交換所	兵庫県 神戸市
名古屋交換所	愛知縣 名古屋市
廣島手形交換所	廣島縣 廣島市

○司法省令第二十五號

明治三十八年司法省令第十號中左ノ通改正ス

明治四十四年十月十九日

別表中千葉地方裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

司法大臣 松田正久

千葉	千葉	松戸	佐倉	一宮本郷
八日市場	佐原			

附則

本令ハ明治四十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

明治三十八年三月司法省令第十號ハ區裁判所刑事事務ノ取扱ニ關スル件ナリ

○文部省令第二十號

明治四十年文部省令第三十五號臺灣總督府中學校及臺灣總督府高等女學校生徒及卒業者ノ他ノ學校へ入學轉學ニ關スル規程中左ノ通改正ス

明治四十四年十月十一日

文部大臣 長谷場純孝

第一條 臺灣總督府中學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第二十八號中學校令ニ依リ設置シタル府縣立中學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク但シ第一部ニ在リテハ第二學年以上ノ生徒ニ限ル

〔参照〕

文部省令第三十五號臺灣總督府中學校及臺灣總督府高等女學校生徒及卒業者ノ他ノ學校へ入學轉學ニ關スル規程明治四十年十一月十五日抄録

第一條 臺灣總督府中學校第二部ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第二十八號中學校令ニ依リ設置シタル府縣立中學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

○農商務省令第三十號

蠶絲業法施行規則左ノ通定ム

明治四十四年十月三日

農商務大臣 男爵牧野伸顯

蠶絲業法施行規則

第一條 蠶絲業法第五條ノ免許ハ蠶種製造場所所在地ノ地方長官之ヲ行フモノトス但シ蠶種製造場所所在地ト蠶種製造用蠶兒ノ飼育場所所在地トカ之ヲ管轄スル地方長官ヲ異ニスル場合ニ於テハ關係地方長官之ヲ行フモノトス

第二條 前條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ免許願書ニ左ノ事項ヲ記載シ蠶種製造場所所在地ノ地方長官ニ差出スヘシ

一 氏名若ハ名稱及住所

二 蠶種製造場所

三 別ニ蠶種製造用蠶兒ノ飼育場所ヲ有スルトキハ其ノ場所

四 蠶種製造ノ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ氏名住所

五 蠶室ノ敷及面積器具ノ種類及敷設桑園ノ段別又ハ桑葉量

六 掃立蟻量及蠶種製造額概定數

地方長官蠶種製造ノ免許ヲ與ヘタルトキハ様式第一號ノ免許證ヲ下付スヘシ

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ蠶種製造ノ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一 掃立蟻量及蠶種製造額概定數ニ對スル蠶室器具及桑園ノ設備若ハ桑葉ノ準備ヲ有セサル者

二 三年以上蠶種製造ニ從事セサル者若ハ蠶絲業ニ關スル學識經驗ヲ有セサル者又ハ蠶種製造ノ管理者ヲ置カサル者

三 蠶絲業法第三十八條又ハ第三十九條ノ規定ニ依リ處罰ヲ受ケタル後一年ヲ經過セサル者

免許ヲ受ケタル蠶種製造者正當ノ理由ナクシテ一年間蠶種ノ製造ヲ爲ササルトキ又ハ前項各號ノ一ニ該當スルトキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第四條 蠶種製造ノ管理者ハ三年以上蠶種製造ニ從事シ又ハ蠶絲業ニ關スル學識經驗ヲ有スル者ニシテ前條第一項第三號ニ該當セサル者タルコトヲ要ス

蠶種製造ノ管理者ハ二人以上ノ蠶種製造者ノ業務ヲ管理スルコトヲ得ス

蠶種製造者ハ他ノ蠶種製造者ノ管理者タルコトヲ得ス

第五條 蠶種製造者ハ左記事項ヲ毎年地方長官ニ届出ツヘシ

一 化性化期、越年不越年ノ別及名稱

二 掃立豫定月日

三 掃立豫定蠶敷及蟻量

四 蠶種製造額豫定數

第六條 蠶種製造者ハ他人ヨリ讓受ケタル蠶兒又ハ蠶繭ヲ以テ蠶種ヲ製造スルコトヲ得ス但シ避クヘカラサル災害ニ依リ豫定數ヲ製造スルコト能ハサル場合及第七十七條第二項但書ノ場合ハ

此ノ限ニ在ラス

第七條 生繭ノ取扱ヲ爲ス者ハ左記事項ヲ毎年生繭ノ取扱場所所在地ヲ管轄スル地方長官ニ届出ツヘシ

一 氏名若ハ名稱住所及蠶絲業ニ關スル業種

二 生繭取扱場所

三 生繭取扱豫定月日

四 生繭取扱豫定數量

生繭ノ取扱ヲ爲ス者自ラ其ノ取扱場所ヲ管理セサルトキハ自己ニ代ルヘキ管理者ヲ置キ其ノ氏名住所ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前二項ノ規定ハ養蠶者、蠶種製造者及自家用ノ爲ニスル生繭取扱者ニ之ヲ適用セス

第八條 免許ヲ受ケタル蠶種製造者又ハ前條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル者死亡シ、中途廢業シ又ハ免許願書若ハ第五條又ハ前條ノ届書ノ記載事項ヲ變更シタルトキハ遅滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項死亡ノ場合ニ於ケル届出ハ其ノ相續人ヨリ之ヲ爲スヘシ

第九條 免許ヲ受ケタル蠶種製造者ノ相續人ニシテ被相續人ノ業務ヲ承繼セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ被相續人ノ死亡後七日以内ニ許可ノ出願ヲ爲シタルトキハ其ノ拒否ノ處分ヲ受クル迄ノ間引續キ被相續人ノ業務ヲ承繼スルコトヲ得

第十條 蠶種製造者又ハ第七條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル生繭製造者、真綿製造者又ハ生繭ノ賣買、仲立、保管若ハ殺繭乾繭ニ從事スル者ハ蠶種製造用ノ蠶兒飼育場所、蠶種製造場所又ハ生繭ノ採取場所毎ニ様式第二號ノ標札ヲ掲クヘシ

第十一條 蠶兒ノ飼育又ハ生繭ノ取扱ヲ爲ス者蠶蛆若ハ其ノ蛹、蠅ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ壓殺、熱殺又ハ水殺スヘシ

第十二條 蠶兒ノ飼育又ハ生繭ノ取扱ヲ爲ス者病患アリト認ムル蠶兒、蠶蛹、蠶蛾又ハ其ノ屍體ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ燒棄シ又ハ熱湯、フオルマリン若ハ石灰水中ニ投入シ死籠繭又ハ薄皮繭ハ直チニ之ヲ乾燥シ又ハ熱湯中ニ投入シテ其ノ病原體ヲ滅殺スヘシ

第十三條 蠶兒ノ飼育ヲ爲ス者ハ多敷ノ病蠶ヲ生シ蠶病蔓延ノ虞アル場合ニ於テハ健蠶ヲ他ニ移シ病蠶及屍蠶ハ前條ニ規定シタル方法ニ依リテ處理シ其ノ蠶室及蠶具ハ第十九條ニ規定シタル方法ニ依リテ消毒スヘシ

第十四條 生繭ノ取扱ヲ爲ス者ハ生繭ヲ集散又ハ保存スル室ニ蠶蛆及其ノ蛹ノ散逸ヲ防クニ足ルヘキ目張ヲ爲シ又ハ澁紙其ノ他緻密ナル目ノ敷物ヲ布キ且室ノ内圍ニ下部ヨリ高サ二寸ヲ下ラサル障板ヲ設クヘシ但シ繭ノ障板ニ接觸スル場合ニ於テハ其ノ繭ノ表面ヨリ二寸以上ヲ保タレムヘシ

蠶蛆及其ノ蛹ノ散逸ヲ防クニ足ルヘキ構造ノ室ナルトキ又ハ同様ノ容器中ニ生繭ヲ保存スル場合ニ於テハ前項ノ設備ヲ爲スヲ要セス

第一項ノ規定ハ室ノ一部ニ生繭ヲ集散又ハ保存スル場合ニ之ヲ準用ス

床下ニ蠶蛆若ハ其ノ蛹潛伏ノ虞アルトキハ床下掃除ヲ行ヒ其ノ塵芥ノ處理ヲ爲スヘシ但シ床下ノ周圍ニ蠶蛆ノ飛散ヲ防クニ足ル設備ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 生繭ノ取扱ヲ爲ス者生繭ヲ運搬シ若ハ之ヲ運搬セシムルトキハ蠶蛆又ハ其ノ蛹ノ散逸ヲ防クニ足ルヘキ綿布、麻布等ヨリ成ル容器中ニ之ヲ納ムヘシ

第十六條 地方長官ハ蠶蛆散逸ノ虞ナキ季節又ハ蠶蛆加害ノ虞ナキ土地ニ於テ蠶兒ノ飼育若ハ生繭ノ取扱ヲ爲ス者ニハ第七條、第十四條及前條ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

第十七條 蠶種製造者ハ蠶種製造用蠶兒ノ上簇以後蠶種ノ製造ヲ終ル迄其ノ建物内ニ自己ノ生産シタル繭ノ外種繭ニ非サル生繭ヲ置クコトヲ得ス

第十八條 蠶種製造者ハ特別蠶種ノ母蛾ヲ除クノ外蠶種製造ニ供用シタル蛾及蠶絲業法第八條第五號ニ該當シタル蛾ヲ乾燥若ハ燒棄シ又ハ熱湯、フオルマリン若ハ石灰水中ニ投入スヘシ

第十九條 蠶種製造者ハ蠶室ハ左記第一號ニ定メタル方法、蠶具ハ左記各號ノ一ニ定メタル方法ニ依リテ消毒スヘシ但シ新築ノ蠶室若ハ新調ノ蠶具ニシテ當該官吏員必要ナレト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 「フオルマリン」撒布消毒

二 蒸汽消毒

三 蟻酸アルデヒド瓦斯消毒

當該官吏員前項ノ消毒ヲ完全ナリト認ムルトキハ様式第三號蠶病消毒済証ヲ蠶種製造者ニ下付シ不完全ナリト認ムルトキハ更ニ之ヲ行フヘキコトヲ命スヘシ

第二十條 蠶種製造者ハ掃立ノ際蠶量ヲ正確ニ秤量シ直チニ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 蠶種製造者蠶兒ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ譲渡サムトスル場合ニ於テ其ノ譲受人蠶種製造者ナルトキハ雙方連署シ蠶種製造者ニ非ラサルトキハ譲渡人ヨリ蠶兒譲渡許可申請書ヲ譲渡人ノ申請アリタルトキハ蠶業取締所ハ譲渡スヘキ蠶兒及之ニ對スル掃殺ト申請書トヲ對照シ譲渡人ニ蠶兒譲渡證明書ヲ、譲受人蠶種製造者ナルトキハ之ニ蠶兒譲渡證明書ヲ下付ス

蠶業取締所ハ其ノ旨ヲ直チニ譲受人所轄蠶業取締所ニ通知スヘシ

第二十二條 蠶種製造者ハ蠶種ノ製造ニ供用シタル蠶紙ヲ再用スルコトヲ得ス

第二十三條 蠶種製造者ハ越年蠶種ニ在リテハ産卵前、不越年蠶種ニ在リテハ第四十五條第一項ノ規定ニ依リ蜜紙ヲ差出ス前特別蠶種ハ様式第四號ニ依リ蜜紙ノ表面ニ普通蠶種ハ様式第五號ニ依リ蜜紙ノ裏面ニ化性及越年ノ別名稱製造者ノ氏名若ハ名稱住所及製造場所ヲ記載シ尙特別蠶種ニハ種簡證明書ノ異ナルモノ毎ニ記號ヲ、記號ノ異ナルモノ毎ニ番號ヲ、普通蠶種ニハ産卵蠶數ヲ記載スヘシ

前項ノ化性及名稱ハ蠶種ヲ製造スヘキ繭ヲ産出シタル特別蠶種ノ化性及名稱ヲ兼用スヘシ

蠶種製造者ハ越年蠶種ニ在リテハ産卵後ノ検査前、不越年蠶種ニ在リテハ産卵後直チニ特別蠶種ハ蜜紙ノ表面ニ普通蠶種ハ蜜紙ノ裏面ニ産卵ノ月日ヲ記載スヘシ

冷蔵ヲ爲ス越年蠶種ニハ化性ノ下ニ冷蔵ノ二字ヲ記載スヘシ

第二十四條 蠶種製造者又ハ蠶種ノ賣買ニ従事スル者ハ前條ノ規定ニ依リ蠶種ノ蜜紙ニ記載シタル文字ヲ訂正増加又ハ抹消スルコトヲ得ス但シ蠶種製造者ニシテ自己ノ製造シタル蠶種ニ付検査前ニ在リテハ地方長官ノ承認検査後ニ在リテハ其ノ許可ヲ經タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前條ノ規定ニ依リ蜜紙ニ記載シタル文字ノ訂正増加若ハ抹消ヲ承認又ハ許可シタルトキハ其ノ文字ノ上ニ様式第六號ノ變更印ヲ捺捺ス

第二十五條 蠶種製造者ハ蠶種ノ蜜紙ヲ縦一尺一寸七分横七寸四分ノ厚紙トシ特別蠶種ニ在リテハ内徑一寸三分以上ノ圓環ヲ容ルルコトヲ得ヘキ區別ニ二十八箇ヲ設ケ一母蛾ヲシテ一區ニ産卵セシメ母蛾ト共ノ區トニ同一ノ符號ヲ附シ普通蠶種ニ在リテハ百蠶以内ヲシテ一枚ニ産卵セシムヘシ

第二十六條 蠶絲業法第十一條ノ規定ニ依リ検査ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フ但シ不越年特別蠶種ニ在リテハ第三號ノ検査ヲ第二號ノ検査前ニ之ヲ行フコトヲ得

一 收購後ノ検査 繭掃殼

二 産卵後ノ検査

卵出數簡

不越年普通蠶種ニ在リテハ出數簡

三 母蛾ノ検査

特別蠶種ト爲スヘキモノノ母蛾

第二十七條 前條規定ノ收購後ノ検査及産卵後ノ検査ハ肉眼ニ依リ對照シテ之ヲ行ヒ不越年普通蠶種ノ出數簡ノ検査ハ肉眼ニ依リ之ヲ行ヒ母蛾ノ検査ハ顯微鏡ヲ用テ之ヲ行フ

第二十八條 地方長官必要ト認ムルトキハ不越年普通蠶種ノ卵ノ検査ヲ行フコトヲ得

前項ノ検査ハ肉眼ニ依リ卵ト出數簡トヲ對照シテ之ヲ行フ

第二十九條 地方長官ハ左記各號ノ一ニ該當シタル場合ニ於テハ其ノ蠶種ニ對シ卵ノ顯微鏡検査ヲ行フコトヲ得

一 有毒蠶區ノ切拔多キ特別蠶種ヨリ掃立タルコト

二 微粒子病ニ罹レル蠶兒蠶蛹又ハ蠶蛾多キコト

三 蠶絲業法第八條第二號又ハ第三號ニ該當シタル繭多キコト

四 蠶絲業法第八條ニ違反シタル疑アルコト

五 特別蠶種ノ母蛾ノ取替若ハ混亂ノ疑アルコト

第三十條 普通蠶種ノ卵ノ顯微鏡検査ハ蠶種一枚ニ付十鏡面ヲ檢シ三鏡面以上ノ微粒子ヲ發見シタルトキハ其ノ蠶種ハ之ヲ不合格トス

特別蠶種ノ卵ノ顯微鏡検査ハ母蛾検査ニ於テ無毒ト認メラレタル區毎ニ一鏡面ヲ檢シ十分ノ一區未滿ノ微粒子ヲ發見シタルトキハ其ノ區ハ之ヲ不合格トシ十分ノ一區以上ノ微粒子ヲ發見シタルトキハ特別用印ヲ取消シ之ヲ普通蠶種トス

第三十一條 地方長官第二十九條ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ同一ノ種簡證明書ヲ有スル種繭ヨリ製造シタル蠶種ニシテ其ノ製造額ノ十分ノ二ニ相當スル數量ニ付前條ノ規定ニ依リ検査

ヲ行ヒ特別蠶種ニ在リテハ其ノ十分ノ五以上ヲ普通蠶種ニ、普通蠶種ニ在リテハ其ノ全部ヲ不  
合格ニ爲シタルトキハ其ノ製造ノ全部ニ對シ同一ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ第  
三十四條第二項ニ依リ區別シタル種繭ニ對シ各別ニ交付シタル種繭證明書ハ之ヲ同一ノモノト  
看做ス

前條第二項又ハ前項ノ規定ニ依リ特別蠶種ヲ普通蠶種ニ爲シタル場合ニ於テ其ノ蠶種ノ産卵區  
ニ押捺シタル無毒印ハ之ヲ取消ス

第三十二條 地方長官必要ト認ムルトキハ第三十條第二項、前條第一項、第五十四條又ハ第五十五  
條第二項ノ規定ニ依リ普通蠶種ト爲シタル蠶種ニ對シ第三十條第一項ノ規定ニ依リ検査ヲ行フ  
コトヲ得

第三十三條 收繭後ノ検査、越年特別蠶種及普通蠶種ノ卵ト出殻繭ノ検査ハ蠶種製造場所ニ付之  
ヲ行ヒ母蛾ノ検査、第三十條ノ検査及不越年特別蠶種ノ卵ト出殻繭ノ検査ハ蠶業取締所ニ於テ  
之ヲ行フ但シ地方ノ情況ニ依リ不越年特別蠶種ノ卵ト出殻繭ノ検査ヲ蠶種製造場所ニ於テ行フ  
コトヲ得

第三十四條 蠶種製造者ハ收繭後ノ検査ヲ受ケル前種繭ト爲サムトスルモノヲ選別シ其ノ枳量ト  
收繭總枳量トヲ量定シ且蠶絲業法第八條第一號乃至第三號ニ該當スル繭及種繭ト爲ササル繭ノ  
殺蛹ヲ爲スヘシ

第七十四條ノ審査ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ種繭ト爲サムトスル繭ニ付審査ヲ受ケムトスルモ  
ノト否トヲ區別スヘシ

第三十五條 蠶量一匁ニ對シ收繭ノ量一化性ニ在リテハ一斗未満、二化性ニ在リテハ一斗六升未  
滿、多化性ニ在リテハ一斗三升未満ナルトキハ蠶絲業法第八條第四號ニ該當スルモノトス

第三十六條 翅肢ノ缺如若ハ萎縮、鱗毛ノ剝脫、體色ノ異變又ハ腹部ノ過大共ノ他形態ノ整ハサル

蛾ハ蠶絲業法第八條第五號ニ該當スルモノトス

第三十七條 蠶種製造者ハ收繭後ノ検査ヲ終ル迄掃殺及繭ヲ、産卵後ノ検査ヲ終ル迄出殻繭ヲ蠶  
種製造場所以外ニ搬出スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合又ハ譲渡シタル蠶兒  
ニ對スル掃殺ハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 蠶種製造者ハ化性、名稱、製造者又ハ製造場所ノ異ナル蠶種ヨリ産出シタル蠶兒、繭  
蛾卵、飼育場所ノ異ナル蠶兒、繭蛾卵ヲ混同スルコトヲ得ス地方種繭審査會ノ審査ヲ受ケム  
トスル種繭、其ノ審査ニ合格シタル種繭及其ノ蛾卵ニ在リテモ亦同シ但シ收繭後ノ検査ヲ終リ  
タル繭ニシテ種繭ニ非サルモノ、産卵後ノ検査ヲ終リタル出殻繭及特別蠶種ノ母蛾ヲ除クノ外  
蠶種製造ニ供用シタル蛾ハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 地方長官ハ蠶種製造者ニ對シ化性又ハ名稱ノ異ナル蠶種ヲ用井ル掛合蠶種ノ製造ヲ  
許可スルコトヲ得

第四十條 掛合蠶種ノ化性ハ雌蛾ニ依リ名稱ハ雄蛾若ハ雄蛾ニ依リ掛合ナル文字ヲ冠スヘシ

第四十一條 蠶種製造者ハ地方長官ノ許可ヲ得テ第二十三條第二項ノ規定ニ依リ製用スヘキ化性  
及名稱ヲ變更スルコトヲ得

前項ニ依リ許可ノ出願アリタルトキハ地方長官ハ該官吏員ヲ臨檢セシメ適當ト認ムタルト  
キハ其ノ許可ヲ與フヘシ

第四十二條 收繭後ノ検査ニ合格シタル繭ニ對シテハ其ノ繭ヲ産出シタル蠶種ノ化性、名稱、製造  
者、製造場所又ハ蠶兒ノ掃立時期飼育場所ノ異ナルモノ毎ニ第三十四條第二項ノ場合ニ於テハ  
各別ニ様式第七號種繭證明書ヲ蠶種製造者ニ下付シ検査ヲ終リタル掃殺ノ臺紙ニハ様式第八號  
掃殺検査済印ヲ押捺ス

掛合蠶種ノ製造ニ供用スヘキ種繭及第四十一條第二項ノ規定ニ依リ名稱ノ變更ヲ許可シタル種

繭ノ秤量ハ之ヲ種繭證明書ニ記載スヘシ

第四十三條 蠶種製造者種繭證明書ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ所轄蠶業取締所ニ其ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得但シ毀損シタル種繭證明書ハ其ノ請求書ニ添付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ再下付ヲ爲シタル種繭證明書ニハ様式第九號再下付印ヲ捺捺ス

第四十四條 蠶種製造者種繭ヲ他人ニ譲渡サムトスル場合ニ於テ其ノ譲受人蠶種製造者ナルトキハ雙方連署シ譲渡人ノ所轄蠶業取締所ニ種繭ノ全部譲渡ニ付テハ種繭證明書ノ書換ヲ、一部ノ譲渡ニ付テハ譲渡人ハ種繭證明書ノ書換ヲ、譲受人ハ種繭證明書ノ下付ヲ請求シ其ノ譲受人蠶種製造者ニ非サルトキハ譲渡人ノ所轄蠶業取締所ニ種繭ノ全部譲渡ニ付テハ種繭證明書ヲ返納シ一部ノ譲渡ニ付テハ其ノ書換ヲ請求スヘシ

前項ノ規定ニ依リ種繭ノ授受ヲ終リタルトキ譲受人蠶種製造者ナルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ所轄蠶業取締所ニ届出ツヘシ

第一項ノ書換又ハ下付ヲ爲シタル場合ニ於テ譲受人蠶種製造者ニシテ譲渡人ト蠶業取締所ノ管轄ヲ異ニスルトキハ蠶業取締所ハ其ノ旨ヲ遲滞ナク譲受人ノ所轄蠶業取締所ニ通知スヘシ

第四十五條 蠶種製造者不越年蠶種ノ種繭證明書ノ下付ヲ受ケタルトキハ家紙及種繭證明書ノ所轄蠶業取締所ニ差出シ特別用印又ハ普通蠶種検査合格證明ノ捺捺ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ様式第十號特別用印又ハ様式第十一號普通蠶種検査合格證明シ家紙ノ裏面ニ捺捺シ特別用印及普通用ノ家紙ノ數枚普通蠶種ノ産卵蠶數ヲ種繭證明書ニ記載ス

第三十條第二項又ハ第三十一條第一項ノ規定ニ依リ普通蠶種ト爲スヘキ不越年蠶種ニハ様式第十一號普通蠶種検査合格證明印ヲ捺捺ス

不越年蠶種ノ特別用印、特別蠶種検査合格證明印又ハ普通蠶種検査合格證明印ハ産卵後ノ検査又ハ第二十八條第二項ノ検査ニ合格セサルトキハ現在セサル蠶種ニ付テハ之ヲ無効トシ現在セル蠶種ニ付テハ之ヲ取消シ其ノ蠶種ヲ不合格トス

第四十六條 不越年蠶種ニシテ産卵後ノ検査又ハ第二十八條第二項ノ検査ニ合格シタル出殼繭ニ對シテハ其ノ種繭證明書ニ様式第十二號出殼繭検査済印ヲ捺捺ス

蠶種製造者不越年蠶種ノ製造ニ供用セサル家紙アルトキハ前條第二項ノ規定ニ依リ證明ノ取消ヲ受クヘシ

第四十七條 蠶種製造者不越年特別蠶種ノ母蛾ノ検査ヲ受ケムトスルトキハ製造後遲滞ナク蠶種及母蛾ヲ所轄蠶業取締所ニ差出スヘシ

前項ノ蠶種ノ産卵後ノ検査ヲ受ケムトスルトキ蠶種及出殼繭ニ付亦同シ但シ第三十三條但書ノ場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 産卵後ノ検査ニ合格セサル蠶種、第二十八條第二項ノ検査ニ合格セサル蠶種、第三十條第一項、第三十一條第一項及第四十五條第四項ノ規定ニ依ル不合格蠶種ニハ様式第十三號不合格印ヲ其ノ家紙ノ裏面ニ捺捺ス

第四十九條 越年蠶種ニシテ産卵後ノ検査又ハ第三十條第一項ノ検査ニ合格シタルトキハ特別蠶種ニ在リテハ様式第十號特別用印ヲ、普通蠶種及第三十條第二項又ハ第三十一條第一項ノ規定ニ依リ普通蠶種トスヘキモノニ在リテハ様式第十一號普通蠶種検査合格證明印ヲ捺捺ス

越年蠶種ノ産卵後ノ検査ニ合格シタル出殼繭ニ對シテハ其ノ種繭證明書ニ様式第十二號出殼繭検査済印ヲ捺捺ス

第五十條 蠶種製造者越年特別蠶種ノ母蛾ノ検査ヲ受ケムトスルトキハ蠶種及母蛾ヲ所轄蠶業取締所ニ差出スヘシ

第五十一條 母蛾ノ顕微鏡検査ニ於テ微粒子ヲ發見シタルトキハ様式第十四號有毒印ヲ、微粒子ヲ發見セサルトキハ様式第十五號無毒印ヲ其ノ産卵シタル區ニ捺捺シ其ノ有毒印ヲ捺捺シタル

種ニ付テハ之ヲ取消シ其ノ蠶種ヲ不合格トス

第四十六條 不越年蠶種ニシテ産卵後ノ検査又ハ第二十八條第二項ノ検査ニ合格シタル出殼繭ニ對シテハ其ノ種繭證明書ニ様式第十二號出殼繭検査済印ヲ捺捺ス

蠶種製造者不越年蠶種ノ製造ニ供用セサル家紙アルトキハ前條第二項ノ規定ニ依リ證明ノ取消ヲ受クヘシ

第四十七條 蠶種製造者不越年特別蠶種ノ母蛾ノ検査ヲ受ケムトスルトキハ製造後遲滞ナク蠶種及母蛾ヲ所轄蠶業取締所ニ差出スヘシ

前項ノ蠶種ノ産卵後ノ検査ヲ受ケムトスルトキ蠶種及出殼繭ニ付亦同シ但シ第三十三條但書ノ場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 産卵後ノ検査ニ合格セサル蠶種、第二十八條第二項ノ検査ニ合格セサル蠶種、第三十條第一項、第三十一條第一項及第四十五條第四項ノ規定ニ依ル不合格蠶種ニハ様式第十三號不合格印ヲ其ノ家紙ノ裏面ニ捺捺ス

第四十九條 越年蠶種ニシテ産卵後ノ検査又ハ第三十條第一項ノ検査ニ合格シタルトキハ特別蠶種ニ在リテハ様式第十號特別用印ヲ、普通蠶種及第三十條第二項又ハ第三十一條第一項ノ規定ニ依リ普通蠶種トスヘキモノニ在リテハ様式第十一號普通蠶種検査合格證明印ヲ捺捺ス

越年蠶種ノ産卵後ノ検査ニ合格シタル出殼繭ニ對シテハ其ノ種繭證明書ニ様式第十二號出殼繭検査済印ヲ捺捺ス

第五十條 蠶種製造者越年特別蠶種ノ母蛾ノ検査ヲ受ケムトスルトキハ蠶種及母蛾ヲ所轄蠶業取締所ニ差出スヘシ

第五十一條 母蛾ノ顕微鏡検査ニ於テ微粒子ヲ發見シタルトキハ様式第十四號有毒印ヲ、微粒子ヲ發見セサルトキハ様式第十五號無毒印ヲ其ノ産卵シタル區ニ捺捺シ其ノ有毒印ヲ捺捺シタル

區ハ之ヲ不合格トス

母蛾ノ亡失又ハ混亂シタル區ニハ様式第十六號缺蟻印ヲ捺捺ス

有毒印又ハ缺蟻印ヲ捺捺シタル區ハ之ヲ除去シタル後亞紙ノ裏面ニ様式第十七號特別蠶種検査合格證印ヲ捺捺ス

第五十二條

蠶種製造者前條第三項ノ規定ニ依リ除去セラレタル區又ハ自己ノ必要ニ依リ除去シタル區ニ無毒ノ印ヲ捺捺セラレタル區ヲ填補セムトスルトキハ所轄蠶業取締所ニ於テ之ヲ行フ

ヘシ但シ原蠶種以外ノ特別蠶種ニシテ母蛾検査前ニ於テ化性名稱ヲ記載シ無毒ノ印ヲ捺捺セラレタル區ヲ以テ同一ノ種蠶證明書ヲ有スル種蠶ヨリ製造セラレタル蠶種ニ填補セムトスルトキハ蠶業取締所以外ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

前項ニ依リ填補シタル區ニハ其ノ欄目ニ様式第十八號蠶印ノ捺捺ヲ受クヘシ

第五十三條 蠶種ヲ截斷シテ讓渡サムトスル者ハ其ノ亞紙ノ裏面ニ截斷スヘキ部分ヲ區別シ各部

ニ第二十三條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ヲ記載シ検査合格證印ノ捺捺ヲ、原蠶種ニ在リテハ

尙原蠶種印ノ捺捺ヲ受クヘシ

第五十四條 蠶種製造者特別蠶種ノ製造ニ供用シタル母蛾亡失又ハ混亂シタルトキハ其ノ蠶種ニ

對シ普通蠶種検査合格證印ノ捺捺ヲ請求スルコトヲ得

第五十五條 地方長官ハ特別蠶種ノ母蛾ニ高熱ヲ加ヘ又ハ故意若ハ過失ニ依リ顯微鏡検査ヲ困難

ナラシメタルモノニハ母蛾ノ検査ヲ拒ムコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ蠶種製造者ニ通知

スヘシ

蠶種製造者ハ前項ノ規定ニ依リ母蛾ノ検査ヲ受クルコトヲ得サル蠶種ニ對シ普通蠶種検査合格

證印ノ捺捺ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條 蠶絲業法第十五條又ハ本則第三十條第二項第三十一條第一項第四十五條第四項及

第四十六條第二項ノ規定ニ依リ證印ヲ取消サムトスルトキ又ハ第五十四條若ハ前條第二項ノ規定ニ依リ普通蠶種検査合格證印ノ捺捺ヲ請求シタル爲特別用印ノ必要ナキトキハ其ノ證印ノ上ニ様式第十九號消印ヲ、第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無毒印ヲ取消サムトスルトキハ其ノ證印ノ上ニ様式第二十號消印ヲ捺捺ス

第五十七條 第二十條第二十一條及第二十八條ノ規定ハ蠶種製造者カ蠶種ノ製造ニ供用セサル

蠶兒ヲ飼育スル場合ニ於テ其ノ蠶兒及繭ニ之ヲ適用セス

第五十八條 自家用ノ爲蠶種ヲ製造シ共ノ蠶兒ヲ飼育シ得ヘキ地方ハ農商務大臣之ヲ指定ス

前項指定地域内ニ於テ自家用蠶種ヲ製造シ共ノ蠶兒ヲ飼育セムトスル者ハ蠶絲業法第十六條第

二項ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第五十九條 自家用ノ爲蠶種ヲ製造セムトスル者ハ其ノ旨ヲ毎年蠶種製造場所所在地ノ管轄スル

地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲シタル者届出事項ヲ變更シ又ハ廢止シタルトキハ本人ヨリ本人死亡シタルトキ

ハ其ノ相續人ヨリ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第六十條 自家用蠶種ニハ框製ニ在リテハ亞紙ノ表面ニ、普通製ニ在リテハ亞紙ノ裏面ニ化性

名稱自家用ノ文字及製造者ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ

第六十一條 自家用ノ爲蠶種ヲ製造シタル者ハ化性、化期名稱及框製、普通製ノ別ニ依リ共ノ製造

額ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第六十二條 自家用ノ爲蠶種ヲ製造スル者ニハ蠶絲業法第八條第一號乃至第五號ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 地方長官必要ト認ムルトキハ自家用ノ爲蠶種ヲ製造スル者ニ對シ蠶絲業法及本則ノ

規定ヲ準用スルコトヲ得

第六十四條 農會、蠶絲業ニ關スル組合其ノ他ノ團體ハ蠶絲業法同一ノ目的ヲ以テ検査合格ノ

蠶印アル蠶種ヲ検査スルコトヲ得ス但シ蠶絲業ニ關スル同業組合ニシテ組合員ノ製造シタルモノニ限り希望ニ依リ普通蠶種又ハ自家用蠶種ノ卵ノ顯微鏡検査ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ蠶種ノ臺紙ニ病毒歩合ヲ記載スルノ外合否ノ決定ヲ爲シ又ハ殺卵若ハ燒棄ヲ爲スコトヲ得ス

第六十五條 學術研究ノ爲蠶種ノ製造及其ノ蠶兒ノ飼育ヲ爲サントスル者ハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

學術研究ノ爲蠶兒ノ飼育又ハ生繭ノ取扱ヲ爲ス者ニシテ蠶絲業法第四條第一項ノ適用ヲ免レムトスル者前項ニ同シ

第一項ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第十四條及第十五條ノ規定ヲ準用ス

第六十六條 前條第一項及第二項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 氏名若ハ名稱及住所又ハ所在地

二 研究ノ目的

三 研究ノ期間

四 研究ノ方法

五 研究ニ従事スル者及之ヲ主管スル者ノ氏名及履歷ノ要領

前條第二項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ尙其ノ適用ヲ免レムトスル範圍ヲ記載スヘシ

前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスル學校講習所試驗場等ハ其ノ校長所長、場長又ハ之ニ準スヘキ者ヲ以テ主管者トシ直接職務ノ任ニ當ル職員ヲ研究ニ従事スル者ト看做ス

第六十七條 學術研究ノ爲蠶種ノ移入又ハ輸入ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ都道府縣第一項ノ

各號ニ掲ケル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ第六十五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル許可ト同時ニ若ハ其ノ後ニ此ノ許可ヲ受ケムトスル場合ニシテ前條第一項ノ各號ニ掲ケタル事項同一ナルトキハ申請書ニ左記事項ヲ記載スルヲ以テ足ル

- 一 移入又ハ輸入スヘキ蠶種ノ製造地及名稱
- 二 移入又ハ輸入スヘキ蠶種ノ數量

農商務大臣ハ前項第二號ノ數量ヲ制限スルコトヲ得

第六十八條 國、道府縣、郡市共、他ノ團體ニ於テ設置シタル學校、講習所又ハ試驗場等ニシテ蠶絲業ニ關スル學識經驗アル專任職員三人以上ヲ有シ蠶量十五匁以上ヲ飼育スルニ適當ナル蠶室

蠶具其ノ他ノ設備ヲ有スルトキハ第六十五條第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ得テ製造シタル蠶種ヲ農商務大臣ノ許可ヲ受ケ配付スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ受ケ配付スヘキ蠶種ノ數量ハ農商務大臣之ヲ制限スルコトヲ得

第六十九條 前條第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書

面ヲ添付シ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 蠶室、蠶具、桑園共ノ他ノ設備

二 蠶種ノ製造、検査及配付ニ關スル規定

三 蠶種ノ配付豫定額

四 蠶種ヲ配付セムトスル期間

五 養蠶及蠶種製造ニ關スル職員ノ氏名及履歷ノ要領

第七十條 第六十六條第一項及前條ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遅滞ナク之ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第六十五條第一項第二項又ハ第六十八條第一項ノ許可ヲ受ケタル者中途學術ノ研究又ハ蠶種ノ



配付ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク之ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ  
第七十一條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ第六十五條第二項又ハ第六十八條第一項ノ許  
可ヲ取消スコトヲ得

第七十二條 道府縣ニ於テ蠶種ノ製造ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ  
之ヲ變更シ若ハ廢止シタルトキ亦同シ

一 製造場所ノ名稱及所在地

二 蠶室、蠶具、桑園其ノ他ノ設備

三 蠶種ノ製造、検査及配付ニ關スル規定

四 蠶種ノ製造ニ從事スヘキ技術者ノ氏名及履歷ノ要領

第七十三條 第六十八條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校、講習所又ハ試驗場等ハ配付蠶種ノ委託ニ  
様式第二十一號ノ證明書ヲ、道府縣ハ其ノ配付蠶種ノ委託ニ様式第二十二號ノ證明書ヲ捺捺シ共ノ  
製造及検査ノ方法ハ本則中特別蠶種ニ關スル規定ニ準スヘシ

前項ノ蠶種ハ蠶絲業法第十二條ニ依リ特別蠶種ト指定シタルモノト看做ス

第七十四條 原蠶種ヲ製造セムトスル蠶種製造者ハ其ノ種蠶ニ對シ地方種蠶審査會ノ審査ヲ受ケ  
ルコトヲ得

第七十五條 前條ノ審査ヲ受ケムトスル蠶種製造者ハ種蠶審査請求書ヲ地方長官ニ、其ノ種蠶ハ  
之ニ種蠶證明書ヲ添付シ地方長官ノ指定シタル場所ニ差出スヘシ

第七十六條 地方長官ハ當該官吏員ヲシテ收領後ノ検査ノ場合ニ於テ地方種蠶審査會ノ審査ヲ  
受ケムトスル種蠶ノ全部又ハ一部ニ封緘ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十七條 蠶種製造者ハ種蠶證明書ヲ種蠶ニ付第七十四條ノ審査ヲ請求スルコトヲ得  
蠶種製造者ハ自己ノ生産セサル種蠶ヲ以テ原蠶種印ノ捺捺ヲ受ケヘキ蠶種ヲ製造スルコトヲ得

ス但シ郡市、郡市以上ノ地域トスル農會又ハ蠶絲業ニ關スル同業組合ハ此ノ限ニ在ラス  
第七十八條 地方種蠶審査會ノ審査ニ合格シタル種蠶ノ種蠶證明書ニハ様式第二十三號種蠶審査  
合格證明書ヲ捺捺ス

第七十九條 地方種蠶審査會ノ審査ニ合格シタル種蠶ヲ以テ製造シタル特別蠶種ノ母蛾検査ヲ請  
求スル爲第四十七條第一項又ハ第五十條ノ規定ニ依リ蠶種及母蛾ヲ蠶採取所ニ差出サムトス  
ル者ハ之ニ其ノ蠶種ノ製造ニ供用シタル種蠶ノ種蠶證明書ヲ添付スヘシ

第八十條 地方種蠶審査會ノ審査ニ合格シタル種蠶ヲ以テ製造シタル特別蠶種ニハ第五十一條  
第三項ノ處分ヲ爲シタル後様式第二十四號原蠶種印ヲ捺捺ス

道府縣ハ其ノ製造シタル原蠶種ニ様式第二十五號原蠶種印ヲ捺捺スヘシ

第八十一條 蠶種製造者原蠶種印アル蠶種ヲ蠶種製造者以外ノ者ニ譲渡サムトスルトキハ蠶採取  
締所ニ於テ原蠶種印ノ取消ヲ受ケヘシ但シ道府縣ノ製造ニ係ルモノハ道府縣之ヲ取消スヘシ

前項ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ原蠶種印ノ上ニ様式第十九號消印ヲ捺捺スヘシ

第八十二條 道府縣ニハ本則中第五條第六條、第七條第十條、第十七條、第十九條第二項、第七十五  
條及第七十七條ノ規定ヲ適用セス

第八十三條 蠶絲業法第二十一條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケムトスル者ハ免許願書ニ左ノ事項ヲ記  
載シ冷蔵ノ場所所在地ヲ管轄スル地方長官ニ差出スヘシ

一 氏名若ハ名稱及住所

二 管理者ヲ置キタルトキハ其ノ氏名、住所及履歷ノ要領

三 冷蔵ノ場所所在地及名稱ヲ附シタルトキハ其ノ名稱

四 風穴、氷室又ハ冷蔵装置ノ構造並其ノ圖面

五 冷蔵シ得ヘキ場所ノ容積及蠶種ノ數量

六 冷蔵ノ始期及終期ノ豫定月日

七 前期ノ冷蔵期間ニ於ケル温度及湿度

地方長官蠶種冷蔵業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ様式第二十八號ノ免許證ヲ下付スヘシ

第八十四條 前條ノ免許ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ、中途廢業シ又ハ免許願書ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ本人ヨリ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項死亡ノ場合ニ於テ其ノ相續人被相續人ノ業務ヲ承繼セムトスルトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第八十五條 蠶種冷蔵業者ハ蠶種ノ一時保管又ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ヲ設クルコトヲ要ス

前項ノ場所ニハ火氣、有毒瓦斯其ノ他蠶種ニ危害ヲ及ボスヘキ虞アル狀況ヲ防止スヘシ

第八十六條 蠶種冷蔵業者ハ其ノ冷室ニ左記各號ニ該當スル施設ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 正確ナル寒暖計及檢濕計ヲ備フルコト
- 二 蠶種ノ容器ヲ配置スル爲内部ニ柵ヲ設クルコト
- 三 蠶種ヲ收容スヘキ室ハ亞鉛板等ニテ張ルカ又ハ蠶種ノ容器ヲ亞鉛板及木材ヲ用ヰタルニ重箱トシ密閉シ得ル構造ト爲スコト
- 四 容器ニ蠶種ヲ藏ムルニハ蠶種一枚ニ付特別蠶種ニ在リテハ一匣以上、普通蠶種ニ在リテハ四匣以上ノ間隔ヲ保テシムルコト
- 五 蠶種ニ危害ヲ及ボスヘキ物ヲ同時ニ貯藏セサルコト

第八十七條 蠶種ノ冷蔵ニ供用スヘキ冷室内ハ其ノ冷蔵期間温度ハ華氏三十二度以上四十度以下、湿度ハ七十度以上九十八度以下ナルコトヲ要ス

地方長官ハ越年蠶種ニ在リテハ冷蔵ノ始期又ハ終期ニ依リ、不越年蠶種ニ在リテハ冷蔵期間ノ長短ニ依リ前項ノ温度又ハ湿度ヲ變更スルコトヲ得

第八十八條 蠶種冷蔵業者ハ冷蔵期間風穴又ハ氷室ヲ用ヰルトキハ三日毎ニ其ノ温度ヲ、其ノ他

ノ冷蔵装置ヲ用ヰルトキハ毎日其ノ最高最低温度ヲ冷室ノ内氣外氣ニ分チ觀測シ毎年之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官ハ特別ノ事情アル者ニ對シ前項ノ觀測期日ニ據ラシメサルコトヲ得

第八十九條 死蠶繭ヲ除ク外化繭セサル生繭ハ之ヲ賣買スルコトヲ得ス但シ其ノ生繭ヲ搬出セシメサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十條 蠶種ノ行商ヲ爲サムトスル者又ハ營業者ニシテ店舗以外ノ場所ニ於テ生繭ノ賣買ヲ爲サムトスル者ハ様式第二十七號ノ鑑札ヲ携帶スヘシ履人其ノ他ノ從業者ヲシテ之ヲ爲サシムル場合ニ於テハ各從業者ニ様式第二十八號ノ鑑札ヲ携帶セシムヘシ

第九十一條 前條ノ規定ニ依ル鑑札ノ下付ハ住所地ノ地方長官ニ出願スヘシ

第九十二條 蠶絲業者ヲ以テ組織スル同業組合聯合會ノ地區ハ道府縣ノ區域ニ依ルヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十三條 蠶絲業者ヲ以テ組織スル同業組合聯合會ノ設置ニ付テハ重要物產同業組合法施行規則第三條乃至第十條ノ規定ヲ準用シ同規則第十二條ノ規定ヲ適用セス但シ發起人ハ之ヲ組織スヘキ同業組合ノ代表者タルコトヲ要ス

前項ノ發起人ノ數ハ五名以上タルコトヲ要セス

蠶絲業者ヲ以テ組織スル同業組合聯合會ノ定款ニハ地區及營業ノ種類ヲ記載スヘシ

第九十四條 蠶絲業同業組合中央會設置ノ發起人ハ之ヲ組織スヘキ同業組合聯合會及同業組合ノ代表者ニシテ其ノ數ハ十名以上タルコトヲ要ス

第九十五條 蠶絲業法第三十三條ニ依ル議員ノ定數、配當及其ノ選出方法ハ農商務大臣之ヲ忖ボス

第九十六條 蠶絲業同業組合中央會ノ議員ヲ選舉セムトスルトキハ之ト同時ニ同數ノ候補議員ヲ

選舉スヘシ

第九十七條 蠶絲業同業組合中央會議員其ノ補缺議員及特別議員ノ任期ハ事業年度ニ從ヒ三年トス但シ議員缺員ノ場合ニ於テ補缺議員ヲ以テ補充シタルトキハ其ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

特別議員ノ任期ハ農商務大臣之ヲ伸縮スルコトヲ得

第九十八條 蠶絲業同業組合中央會ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

會長 一名

副會長 二名

評議員 若干名

第九十九條 會長、副會長ハ議員及特別議員中ヨリ議員及特別議員ニ於テ之ヲ選舉シ評議員ハ議員中ヨリ其ノ三分ノ二特別議員中ヨリ其ノ三分ノ一ヲ互選シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一百條 會長ハ會務ヲ總理シ會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

副會長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ會長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ及會務執行ノ狀況ヲ監査スルモノトス

評議員ハ他ノ役員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第一百一條 蠶絲業同業組合中央會ノ事務權限ハ左ノ如シ

一 蠶絲業上ノ弊害ヲ矯正シ且蠶絲業ノ發達ヲ圖ルニ必要ナル方案ヲ調査スルコト

二 蠶絲業ニ關スル法規ノ制定改廢施行ニ關シ意見ヲ表示スルコト

三 蠶絲業ニ關スル事項ニ付農商務大臣ノ諮問ニ應スルコト

四 内外蠶絲業ノ狀況及統計ヲ調査發表スルコト

五 其ノ他蠶絲業ノ改良發達上特ニ必要ナル事項ヲ行フコト

第一百二條 重要物產同業組合法施行規則第四條乃至第十一條第十三條乃至第十九條及第二十一條乃至第二十四條ノ規定ハ蠶絲業同業組合中央會ニ之ヲ準用ス但シ第十條第十四條及第二十一條乃至第二十四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ地方長官ハ之ヲ農商務大臣トス

第一百三條 蠶絲業法第三十五條第一項ノ規定ニ依リ物品ヲ收去セムトスルトキハ當該蠶種又ハ生繭ノ取扱ヲ爲ス者其ノ從業者同居者若ハ鄰佑ニシテ成年ニ達シタル者ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

收去シタル物品ハ之ヲ容器ニ納メ又ハ結束ヲ爲シ之ニ封緘ヲ施シ其ノ品名、物品ヲ收去セラルタル者ノ氏名若ハ名稱、收去ノ年月日及場所ヲ記載シ當該官吏吏員及立會人之ニ署名捺印スヘシ立會人署名捺印セス又ハ署名捺印スルト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第一百四條 地方長官當該官吏吏員ヲシテ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲サシメムトスルトキハ其身分ヲ證明スル爲メ式第二十九號ニ依リ證票ヲ携帶セシムヘシ

第一百五條 臨檢、搜索及差押ニ關シテハ問接國稅犯則者處分法施行規則第二條乃至第五條、第八條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第一百六條 蠶種ノ製造ヲ爲シタル道府縣又ハ第六十八條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校、講習所、試驗場等ハ毎年一月三十一日迄ニ様式第三十號ニ依リ前年ノ成績表ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第一百七條 地方長官ハ毎年五月十五日迄ニ前年度ノ蠶病豫防事務成績及蠶種冷藏業取締成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第一百八條 地方長官蠶絲業法及本則施行ニ關スル規定ヲ定メタルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第九條 道府縣ハ蠶絲業法第二十二條及府縣制第七十五條ノ規定ニ依リ蠶業取締吏員及蠶種検査吏員ヲ置クヘシ

第十條 本則ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ蠶絲業同業組合中央會ヨリ差出スヘキモノヲ除キ地方長官ヲ經由スヘシ

第十一條 第七條第一項第二項第十七條第二十二條第二十四條第一項第三十七條第三十八條第四十六條第二項第五十二條第二項第五十九條第一項第六十條第六十四條第七十七條第二項第八十二條第一項第八十九條又ハ第九十條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四十六條第二項ノ規定ニ依リ消印ナキモノヲ他人ニ譲渡シ若ハ情ヲ知リテ譲受ケタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ第十條第六十一條第八十八條第一項第二十三條第三項ニ依ル不越年普通蠶種ニ關スル規定ニ違反シタル者又ハ第八條第五十九條第二項第七十條第一項又ハ第八十四條第一項ニ依リ願書申請書又ハ届書記載事項ノ變更ノ届出ヲ怠リタル者ハ科料ニ處ス

第十二條 本則ハ明治四十四年法律第四十七號蠶絲業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本則施行前蠶病豫防法施行規則ハ之ヲ廢止ス

第十四條 蠶種ノ登記ニ記載スヘキ文字記載ノ方法ハ明治四十六年十二月三十一日迄様式第四百五號又ハ第五號ニ依リ之ヲ行フコトヲ得

第十五條 普通蠶種ノ製造ニ供用スヘキ蠶紙ノ寸法ハ明治四十六年十二月三十一日迄第二十五條ノ規定ニ依リ之ヲ行フコトヲ得

釧路國根室國北見國禮文郡及千島  
第九十六條 蠶病豫防事務所カ検査ノ爲受受理シタル原種ニシテ本則施行前其ノ検査ヲ終了セサルモノニ付テハ本則施行後ト雖尙蠶病豫防法ノ規定ニ依リ之カ處分ヲ爲スヘシ  
前項ノ規定ニ依リ検査シタル原種ハ蠶病豫防法ニ依リ検査シタルモノト看做ス

蠶種製造免許證

第 一 號

住所 氏名(名稱)

蠶絲業法第五條ニ依リ蠶種製造者タルコトヲ免許ス

年月日

道府縣印

紙 縦六寸 横八寸

第 二 號

住所 業種 氏名(名稱)

蠶兒飼育場所蠶種製造場所又ハ生蠶採取場所

木札 縦一尺五寸以上 横四寸以上 厚四分以上

第 三 號

飼育又ハ製造場所 蠶種製造者 氏名(名稱)

蠶病消毒證書

年月日

紙 縦四寸 横二寸

號五第

普通種  
紙種ノ裏  
面ノ裏

十	二	性 (歲冷) 別	化 (歲冷) 年ノ不	稱名	住 所 氏名(名稱) 製造場所	五 寸	蠶 卵 產 日 月 日
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○

號四第

特別種  
紙種ノ裏  
面ノ裏

十	二	性 (歲冷) 別	化 (歲冷) 年ノ不	稱名	住 所 氏名(名稱) 製造場所	五 寸	蠶 卵 產 日 月 日
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○

號八第

掃殼檢査濟

道府縣

楕圓形  
長徑一寸  
短徑六分  
肉色黒

號六第

變更證

道府縣

圓形  
直徑五分  
肉色朱

號七第

種繭證明書

第(記號) 住所

製造者氏名(名稱) 飼育場所

- 一 原蠶種ノ製造場所
- 二 化性及化期
- 三 名稱
- 四 種繭所登
- 五 一升ノ顆數
- 六 發蛾ノ歩合

右種繭檢査ニ合格シタルコトヲ證ス

年月日

道府縣蠶業取締所印

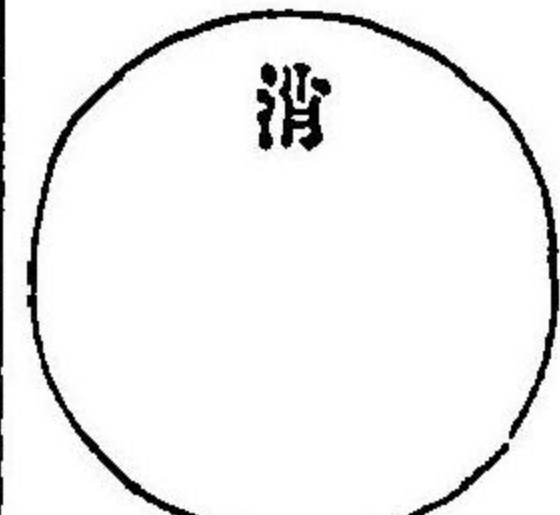


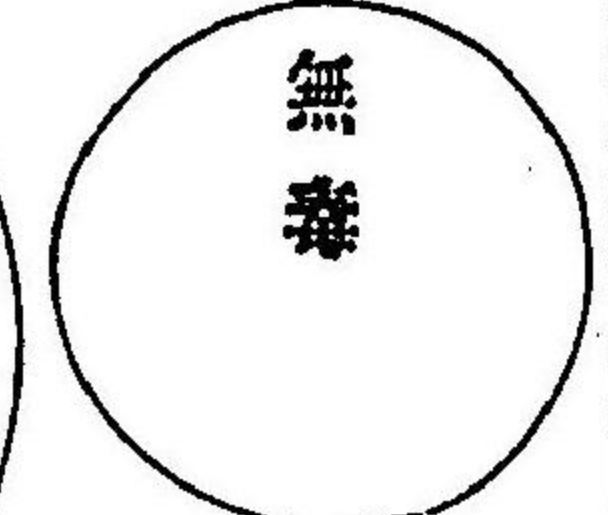

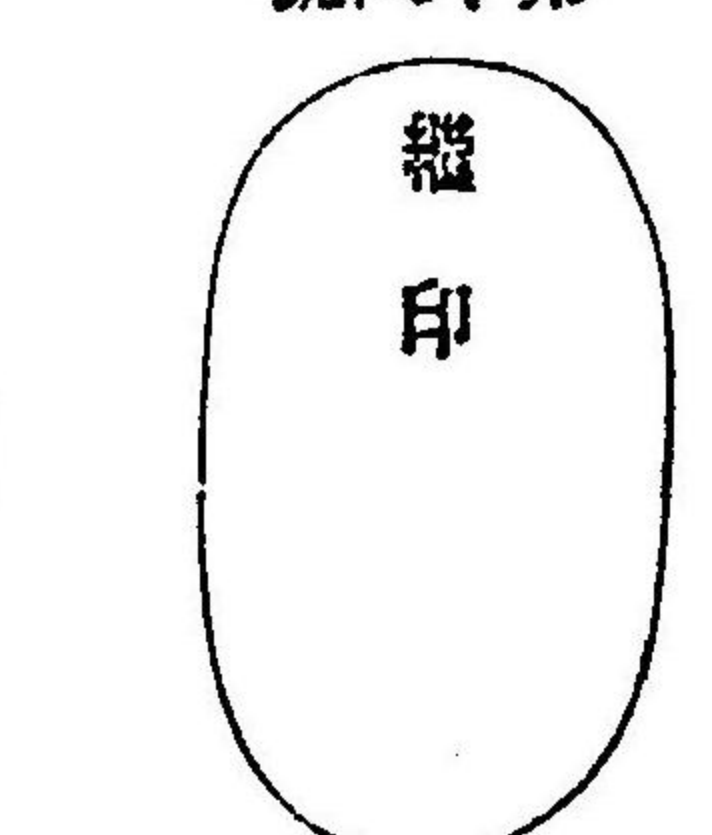
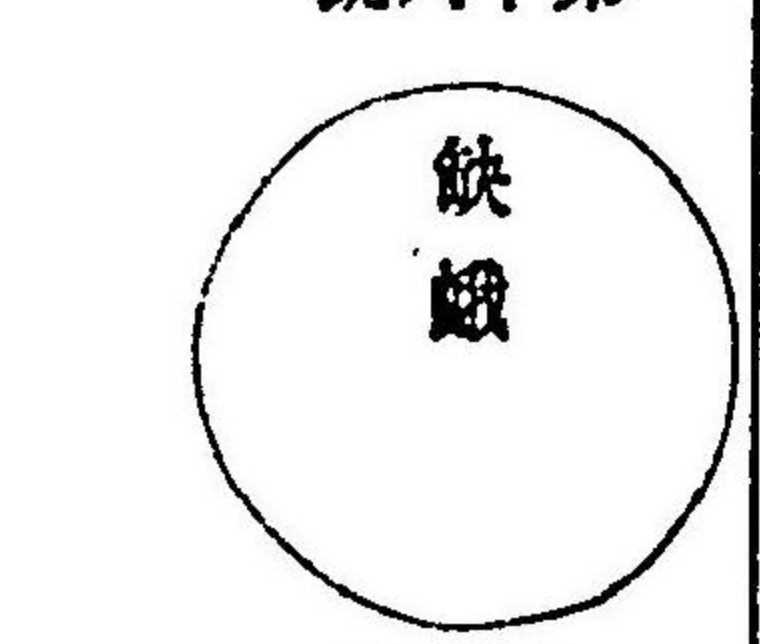
號九第

再下付

長方形  
縱一寸二分  
横五分  
肉色朱


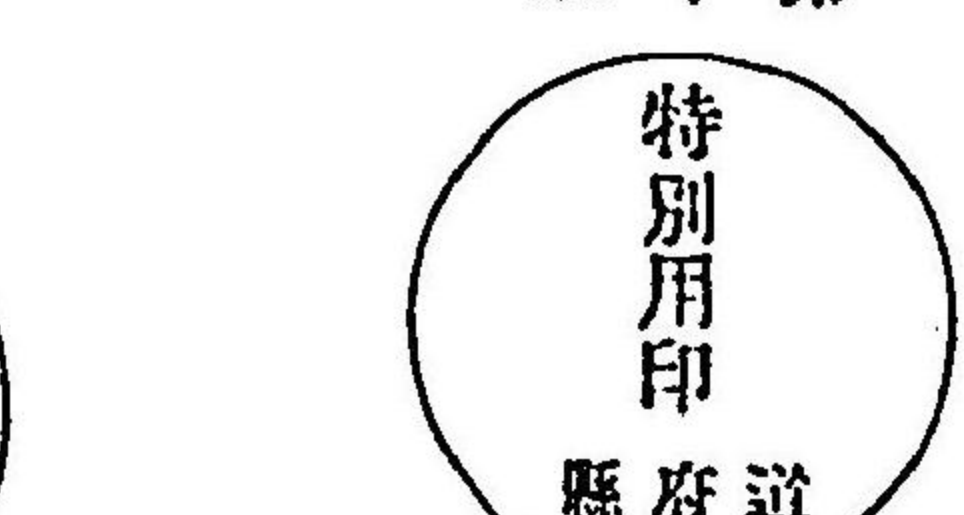

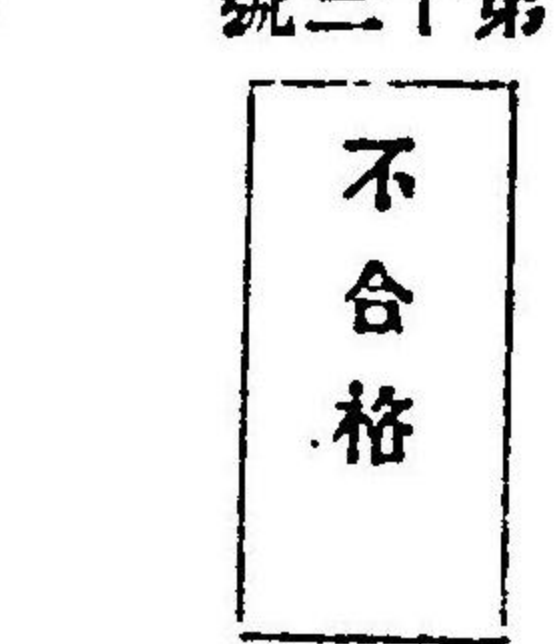

紙 縱四寸  
横六寸  
注意  
種繭移動ノ爲  
合ニ於テハ其  
ノ種繭ヲ生産  
シタル者ノ住  
所氏名(名稱)  
及此ノ横式以  
外ニ記載スヘ  
キ事項ハ其ノ  
裏面ヲ用テ月  
日ヲ記シ蠶業  
取締官變更  
員之ニ捺印  
スヘシ

明治四十四年十月省令 農商務省第三十號 實業法施行規則

<p>號十二第</p>  <p>圓形 直徑二分五厘 肉色赤</p>	<p>號九十第</p>  <p>長方形 橫一分 縱五分 肉色赤</p>	<p>號七十第</p>  <p>圓形 直徑一寸五分 肉色赤</p>	<p>號五十第</p>  <p>圓形 直徑二分五厘 肉色赤</p>
<p>號一十二第</p>  <p>圓形 直徑一寸五分 肉色赤</p>	<p>號八十第</p>  <p>長方形 橫三分 縱二分 肉色赤</p>	<p>號六十第</p>  <p>圓形 直徑二分五厘 肉色青</p>	

五三五

明治四十四年十月省令 農商務省第三十號 實業法施行規則

<p>號二十第</p>  <p>橢圓形 長一寸 寬六分 肉色赤</p>	<p>號十第</p>  <p>圓形 直徑七分 肉色赤</p>	
<p>號四十第</p>  <p>長方形 橫三分 縱二分 肉色赤</p>	<p>號三十第</p>  <p>長方形 橫五分 縱一分 肉色赤</p>	<p>號一十第</p>  <p>橢圓形 長一寸五分 寬一分 肉色赤</p>

五三四

號四十二第

號二十二第

號五十二第

號三十二第

號六十二第

第 號

蠶種冷蔵免許證

住所

氏名(名稱)

蠶絲業法第二十一條ニ依リ

蠶種冷蔵業ヲ免許ス

年月日

道府縣印

紙 縦六寸 横八寸

號八十二第

面 裏

<p>第 號</p> <p>業種 住所</p> <p>氏名</p> <p>生年月日</p>	<p>第 號</p> <p>業種 住所</p> <p>氏名</p> <p>生年月日</p>
---	---

號七十二第

面 裏

<p>第 號</p> <p>業種 住所</p> <p>氏名</p> <p>生年月日</p>	<p>第 號</p> <p>業種 住所</p> <p>氏名</p> <p>生年月日</p>
---	---

第十二號 表

第 號  
蠶業取締官吏(吏員)證書  
年月日

厚紙  
縦三寸  
横一寸八分

官職氏名

明治 年成績表 道府縣學校講習所試驗場等ノ名稱

性 期	名	掃立		收 入		貯 蓄	
		銀 數	蠶 量	種 類	其 他	計	其 他

○農商務省令第三十一號  
蠶業取締所規程左ノ通定ム  
明治四十四年十月十六日

農商務大臣 男爵牧野伸顯

第一條 地方長官蠶業取締所ヲ設置セムトスルトキハ本令ノ定ムル所ニ依ル  
第二條 蠶業取締所又ハ其ノ支所ハ道府縣内須要ノ地ニ之ヲ設ク但シ必要アル時期ニ限り其ノ出

第十三號

張所ヲ設クルコトヲ得

蠶業取締所支所及出張所ノ管轄區域及開閉月日ハ地方長官之ヲ定ム

第三條 蠶業取締所ニ所長支所ニ主事ヲ置ク

所長ハ技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ但シ農業者技師ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ妨ケス

第四條 地方長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ主事ハ所長ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第五條 地方長官ハ蠶業取締所支所又ハ出張所ノ位置管轄區域開閉月日所長又ハ主事ノ命免ヲ

公示シ且農商務大臣ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ蠶絲業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第三十五號

登録稅又ハ手數料トシテ逓信省へ納ムル收入印紙ノ消印ニ關スル件左ノ通相定ム

明治四十四年十月十六日

逓信大臣 伯爵林董

收入印紙ヲ以テ登録稅又ハ手數料ヲ納ムル者ハ書類ニ貼付シタル印紙ニ消印ヲ爲サステ當該官廳ニ差出スヘシ當該官廳ハ其ノ員額ノ正當ナルヲ認メタル後書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ對シ照肉ヲ用井テ鮮明ニ消印ヲ押捺スヘシ但シ納人ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ之ヲ妨ケス

附 則

明治二十二年四月逓信省令第十四號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十二年十月二逓信省令第十四號ハ手數料トシテ納ムル登録印紙貼用方改正ノ件ナリ



○逓信省令第三十六號

官廳施設電氣事業規則左ノ通定ム

明治四十四年十月十六日

逓信大臣 伯爵林董

官廳施設電氣事業規則

第一條 官廳ニ於テ電氣事業法第一條第一號ノ電氣事業ヲ營マムトスルトキハ左ニ掲クル書類

面ヲ具シテ逓信大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス  
一 設計書 電氣事業法施行規則第二條第二號第三號第四號第一號乃至第三號及第

二 圖面 同規則第十三條第三號及第四號第十四條ノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス

第二條 官廳ニ於テ電氣事業法第一條第二號ノ電氣事業ヲ營マムトスルトキハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一 鐵道構内ニ電氣工作物ヲ施設セムトスルトキハ逓信大臣ニ共ノ旨ヲ報告スルコトヲ要ス  
二 前號ノ場合ト雖直流低壓以外ノ電氣工作物ヲ施設セムトスルトキ若ハ金屬製地中管路ヨリ

九呎以內磁力觀測所ヨリ一里半以內ノ場所ニ電氣工作物ヲ施設セムトスルトキ又ハ電氣鐵道ヲ道路上ニ敷設セムトスルトキ共ノ他鐵道構外ニ互リ電氣工作物ヲ施設セムトスルトキハ左ニ掲クル書類圖面ヲ具シテ逓信大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

(一) 設計書 電氣事業法施行規則第三條第二號第三號第四號第一號乃至第三號及第

(二) 圖面 同規則第十三條第三號及第四號第十五條ノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス

本號ニ依リ承認ヲ受クルヲ要セサル部分ト雖承認ヲ受クヘキ電氣工作物ニ直接關係アル必要部

分ハ之ヲ前記ノ書類圖面中ニ表示スルコトヲ要ス  
第三條 第一條各號又ハ第二條第二號ニ掲クル書類圖面中ノ主要事項ヲ變更セムトスルトキハ關係書類圖面ヲ具シテ更ニ逓信大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 前三條ニ依リ承認ヲ得タル工事落成シタルトキハ共ノ電氣工作物使用前共ノ旨ヲ逓信大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第五條 官廳ニ於テ第一條又ハ第二條ニ依ル以外ノ強電流電氣工作物ヲ施設セムトスルトキハ工事施行前自家用電氣工作物施設規則第四條ニ掲クル書類圖面ヲ具シ共ノ旨ヲ逓信大臣ニ報告スルコトヲ要ス但シ自家用電氣工作物施設規則第一條但書ノ各號ニ該當スル電氣工作物ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ電氣工作物カ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルトキハ前項ニ準シタル書類圖面ヲ具シテ逓信大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス  
一 特別高壓電氣ヲ使用スルモノ  
二 構外ニ互リ施設スルモノ

第六條 前條ニ依リ施設スル工事落成シタルトキハ直ニ共ノ旨ヲ逓信大臣ニ報告スルコトヲ要ス  
落成シタル電氣工作物ハ自家用電氣工作物施設規則第二條ニ掲クル第一種ニ該當スルモノヲ除クノ外逓信大臣ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第七條 前二條ニ依ル電氣工作物ニ關シテハ自家用電氣工作物施設規則第五條乃至第七條、第九條第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス  
第八條 官廳ニ於テ電氣工作物ノ使用ヲ廢止シタルトキハ直ニ共ノ旨ヲ逓信大臣ニ報告スルコトヲ要ス

附則  
官廳施設電氣事業取締規程ハ之ヲ廢止ス

○逓信省令第三十七號

來十一月一日ヨリ郵便葉書ノ内通常葉書及往復葉書ノ紙質及料額印面ノ模様ヲ改メ印刷ハ通常葉書ヲ現行ノ桔梗色、往復葉書ヲ現行ノ淡栗色トス其ノ見本ハ郵便局所ニ備置カシム照鑑ヲ要スル者ハ就テ觀ルヘシ

但シ當分ノ内從前ノ葉書ヲ取交セ賣捌カシム

明治四十四年十月二十日

逓信大臣 伯爵林董

○逓信省令第三十八號

外國郵便規則中左ノ通改正ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十月二十五日

逓信大臣 伯爵林董

第一章第三節中左ノ一條ヲ加フ

第二十七條ノ二 外國來小包郵便物ニ爆發性、發火性又ハ危險性ノ物品ヲ包有スルコトヲ發見シタルトキハ當該郵便局ニ於テ其ノ物品ヲ毀棄スルコトヲ得

○大藏省令第四十號

明治四十四年大藏省令第二十九號中左ノ通改正ス

明治四十四年十一月十六日

大藏大臣 山本達雄

神戸下關間通路ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

下關長崎間 下關港ヨリ小森江ニ至ル直航水路及小森江ヨリ小倉折尾ヲ經テ長崎ニ至ル鐵道線

下關唐津間 下關港ヨリ小森江ニ至ル直航水路及小森江ヨリ小倉折尾ヲ經テ西唐津ニ至ル鐵道線

門司長崎間及門司唐津間通路中「戸畑若ハ大藏」ヲ削ル

〔參照〕

明治四十四年九月十日 大藏省令第二十九號ハ關稅法第三十九條ノ二ノ通路ナリ

○陸軍省令第十二號

明治四十一年陸軍省令第十三號中直接國稅納付資格ノ件ハ當分ノ内朝鮮ニ於ケル陸軍工事請負ニハ之ヲ適用セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十一月四日

陸軍大臣 男爵石本新六

〔參照〕

明治四十一年九月十日 陸軍省令第十三號ハ工事請負競争加入者資格ノ件ナリ

○陸軍省令第十三號

徵兵事務條例施行細則中左ノ通改正ス

明治四十四年十一月四日

陸軍大臣 男 岩本新六

第二十五條中「字品トス」ヲ「字品、沖繩警備隊區ヨリ徵集ノ兵員ニ在リテハ那覇トス」ニ改ム

第二十七條中「朝鮮」ニ改ム

第二十七條ノ二ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ沖繩警備隊區ヨリ徵集ノ輜重輸卒ハ總テ第一期ニ入營セシム

第三十七條ノ三ニ左ノ一項ヲ加フ

所在不明ノ爲入營セサル者ノ所在ヲ發見シタルトキハ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ島司郡市長

市ニ在リテハ區長ハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第四十條ノ二中「兵員」ノ下ニ「及沖繩警備隊區ヨリ徵集ノ兵員」ヲ加フ

第四十條ノ三第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項中「前項」ヲ「前二項」ニ改ム

沖繩警備隊區ヨリ徵集ノ兵員中第一項ニ該ル者アルトキハ警備隊區司令官之ヲ歸郷セシム其ノ

旨ヲ當該隊長又ハ海軍人事部長ニ通知スヘシ

第四十一條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第二十二條ニ依リ達ヲ受ケタル場合ニ在リテハ町村長ハ戶籍抄本又ハ戶籍照本ヲ島司郡長

ニ送付シ島司郡市長ハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ之ヲ舊籍地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付スルモノトス

第四十三條ノ二「警備隊兵及輜重輸卒以外ノ補充兵ハ共ノ編入後他ノ徵募區ニ轉籍スルモ徵募年

ノ翌年一月三十一日以前ハ條例第四十六條ノ補充ニ關シテハ之ヲ舊徵募區ノモノトシテ取扱フ

第四十四條第一項中「補充兵ニシテ未ダ教育ヲ終ラサル者他ノ徵募區ニ轉籍スルモ十一月

ヲ包含シテ補充兵ニシテ未ダ教育ヲ終ラサル者補充兵ニ決定シ他ノ徵募區ニ轉籍スルモ同條第二項

ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

警備隊兵及輜重輸卒以外ノ補充兵ニ在リテハ徵募年ノ翌年二月一日以後ニ於テ第一項ノ取扱ヲ

爲スモノトス

第四十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

警備隊兵及輜重輸卒以外ノ補充兵ニ在リテハ徵募年ノ翌年二月一日以後ニ於テ前項ノ取扱ヲ爲

スモノトス

第五十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ニ該ル者二名以上アリテ比例ニ依リ算出シタル番號同一ナルトキハ第二十二條第一號割註

ニ準シ徵集順序ヲ定ムヘシ

第五十七條中「韓國」ヲ「朝鮮」ニ改ム

第一樣式中「住所」ヲ「本籍地」ニ身分職業ヲ「族稱職業」ニ「氏名」ヲ「戶主」ノ關係及氏名ニ改ム

第七樣式ノ六中「體格等位」ノ欄ノ下ニ「帝國大學卒業ノ者」「帝國大學卒業ト同等ノ學力ト認ムル

者」「高等學校專門學校卒業ノ者」「高等學校專門學校卒業ト同等ノ學力ト認ムル者」ノ四欄ヲ加ヘ欄

外備考第二項ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

陸軍省令第十號徵兵事務條例施行細則(明治二十九年四月二十三日抄録)

第三十五條 入營兵集合地ハ第七師管以外ヨリ徵集スル第七師團兵ニ在リテハ舊籍地聯隊區司令官ニ在リテハ門前

及下關、旅順、海軍工廠砲兵ニ在リテハ字品トス

明治四十四年十一月 省令 陸軍省第十三號

五四五

第三十七條ノ二 警備隊兵及補充隊卒ヲ對期ニ分テ入營セシムルニハ第二十二條ノ徵集順序ニ依リ其ノ各期ニ於ケル入營兵ノ員數ヲ聯隊區、警備隊區、徵集區ニ配當スルハ概テ同區ニ於ケル同兵種現役兵徵集人員ノ數ニ比例スルモノトス

第四十條ノ二 第一項 臺灣、澎湖島、旅順及鐵道灣ニ在ル軍隊ニ入營スル兵員ハ集合地ニ於テ身體検査ヲ施行ス

第四十一條 第一項 市町村長ニ在リテハ其ノ市町村ハ現役兵及補充兵徵集區ニ決定シタル者ノ戶籍抄本ヲ提出シテ作リ町村長ハ之ヲ島司令官ニ送付シ島司令官ハ其ノ市町村長ニ對シテ其ノ市町村長ハ之ヲ聯隊司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ聯隊司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵ノ戶籍抄本又ハ戶籍簿本ヲ徵集區長、補給本區長、同支隊長又ハ海軍人事部長ニ送付スヘシ現役兵ニシテ入營前補充兵役轉重卒ニシテ徵集年ノ十二月一日前其ノ戶籍抄本又ハ戶籍簿本記載事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四十四條 第一項 補充兵ニシテ未ダ教育ヲ終ラサル者他ノ徵集區ニ轉籍シタル者ハ十一月三十日以前ニシタルトキハ第二十二條ニ依リ其ノ徵集順序ヲ定メ抽籤番號ヲ有スル者ニ在リテハ新住地徵集區及抽籤ヲ施行シタル徵集區ノ同種補充兵最高抽籤番號ヲ本トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシム但シ比例算出上端數ヲ生スルトキハ之ヲ切り捨ツルモノトス

第四十五條 前條ノ轉籍者アルトキハ聯隊司令官又ハ警備隊司令官ヨリ島司令官ニ通知スヘシ但シ東京市、京都市、大阪府ニ在リテハ尚ホ區長ニ通知スヘシ

其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ聯隊司令官又ハ警備隊司令官其ノ名簿ヲ添へ抽籤ヲ施行シタル徵集區ノ同種補充兵最高抽籤番號ヲ轉籍地ノ聯隊司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第五十二條 他ノ徵集區ニ於テ身體検査又ハ抽籤ヲ行ハシタル者ハ第二十二條ニ依リ其ノ徵集順序ヲ定メ其ノ抽籤番號ヲ有スル者ニ在リテハ本籍地徵集區及抽籤ヲ行ハシタル徵集區同種兵ノ最高番號ヲ率トシ比例ヲ以テ本籍地相當番號ノ上位ニ列セシム但シ比例算出上端數ヲ生スルトキハ之ヲ切り捨ツルモノトス

○陸軍省令第十四號  
明治四十二年徵集ノ現役歩兵及同上等看護卒ニシテ第五師團ノ歩兵聯隊ニ屬スル者ハ當分ノ内其在營期間ヲ延期ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十一月十日

陸軍大臣 男爵石本新六

附則

○司法省令第二十六號  
明治三十八年司法省令第十號中左ノ通改正ス

明治四十四年十一月八日

司法大臣 松田正久

別表中左ノ如ク改ム  
奈良地方裁判所ノ項中「奈良 松山」ノ區裁判所欄ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十八年三月七日司法省令第十號ハ區裁判所刑事事務ノ取扱ニ關スル件ナリ

○文部省令第三十一號

明治三十二年文部省令第一號學位令細則中左ノ通改正ス

明治四十四年十一月一日

文部大臣 長谷場純孝

第三條中「自著ノ論文」ノ下ニ「一編」ヲ加フ

第三條中第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ

前項論文ノ外參考トシテ他ノ論文ヲ附加シテ提出スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

文部省令第一號學位令細則(明治三十二年一月七日抄録)  
第三條 論文ヲ提出シテ學位ヲ請求スル者ハ其專攻シタル學科ノ範圍内ニ屬スル自著ノ論文ニ履歷書ヲ添へ其論文ノ審査ヲ受クヘキ帝國大學分科大學教授會ヲ指定シテ文部大臣ニ申請スヘシ

○農商務省令第三十二號

茶業組合規則第九條ノ三中第九條ニ依リノ下ニ聯合會議所又ハ一府縣ヲ區域トスル茶業組合ニ對シテ加フ

明治四十四年十一月二十五日

農商務大臣 男爵牧野伸顯

〔參照〕

農商務省令第四號茶業組合規則(明治二十年十二月二十九日)抄錄  
第九條ノ三 地方長官ニ於テ第九條ニ依リテ處分ヲナシタルトキハ規約又ハ豫算書ヲ添付シテ、第九條ノ二ニ依リテ處分ヲナシ若クハ命令ヲ發シ第九條ニ依リテ處分ヲナシ又ハ第三十四條ニ依リテ職員ノ改選ヲ命ジタルトキハ事情ヲ具シテ其都度之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

○逓信省令第三十九號

郵便爲替規則中左ノ通改正ス

本令ハ明治四十四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十一月四日

逓信大臣 伯爵林董

第六十條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ離島其ノ他交通不便ノ地ニ在ル受取人又ハ差出人ニ拂渡シ又ハ拂戻スヘキモノナルトキハ之カ請求ニ應ゼサルコトアルヘシ

〔參照〕

逓信省令第四十五號郵便爲替規則(明治三十三年九月一日)抄錄  
第六十條第一項 郵便爲替ノ差出人又ハ受取人ハ爲替金ノ用途簿ヲ請求スルコトヲ得但シ差出人ハ爲替提出後ニ於テ又ハ小爲替受取人ノ爲替簿ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

○逓信省令第四十號

當省所轄商船學校規則左ノ通定ム

明治四十四年十一月十日

逓信大臣 伯爵林董

商船學校規則

第一章 總則

- 第一條 本校ハ高等ノ船舶職員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
- 第二條 本校ニ航海科及機關科ヲ置キ其ノ修業年限ヲ各五箇年トス
- 第三條 學生ハ入學ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入セラレ卒業後ハ海軍豫備員條例ニ依リ服役スルモノトス
- 第四條 本校ハ別記第一圖ニ示ス徽章ヲ以テ校章トス

第二章 學期、課程、休業

- 第五條 在校期間ハ航海科及機關科共各二箇年トシ之ヲ四學期ニ分ツ
- 第六條 學期ハ五月一日ニ始リ十一月十五日ニ終リ又十一月十六日ニ始リ翌年四月三十日ニ終ル
- 第七條 航海科在校期間ノ學科目左ノ如シ

航海術	運用術	水路測量術	海上氣象學
商業學	商業地理	海法	技業
造船學	機關術	電氣工學	衛生學
英語	物理	化學	數學
力學	砲術		

第八條 機關科在校期間ノ學科目左ノ如シ

汽機學	汽罐學	電氣工學	製圖
-----	-----	------	----

技業 造船學 衛生學 英語  
 物理 化學 數學 力學  
 砲術

第九條 前二條ノ學科目ノ外別科トシテ水泳、擊劍、柔道、體操、小銃射擊、音樂及日用文ヲ授ク

第十條 航海科ノ在校課程ヲ修了シタル者ニハ左ノ實習ヲ爲サシム

一 砲術實習 海軍砲術學校ニ於テ六箇月以內

二 帆船實習 航洋帆船ニ於テ二箇年

三 汽船實習 航洋汽船ニ於テ六箇月

第十一條 機關科ノ在校課程ヲ修了シタル者ニハ左ノ實習ヲ爲サシム

一 工術實習 機關工場ニ於テ二箇年

二 汽船實習 航洋汽船ニ於テ一箇年

第十二條 休業日左ノ如シ但シ實習生ニ在リテハ海軍砲術學校、船舶又ハ工場ノ規定ニ依ル

一 日曜日

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

靖國神社例大祭

五月六日

五月二十七日

明治三十七八年海戰紀念日

九月十七日

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

靖國神社例大祭

新嘗祭

本校創立紀念日

十一月二十五日

二 夏季休暇 自七月二十一日至九月十日

三 冬季休暇 自十二月二十一日至翌年一月九日

第三章 試驗及卒業

第十三條 各學期修了ノ際ニハ該課程ノ試驗ヲ行ヒ其ノ評點ニ平常試問ノ評點、品行點及勸怠點

ヲ併合シ之ヲ學期成績トス但シ別科ハ之ヲ試驗セス

第十四條 砲術實習修了ノ際ニハ海軍砲術學校ニ於テ該課程ノ試驗ヲ行ヒ又帆船實習中ニハ其ノ

各期修了ノ際該課程ノ試驗ヲ行ヒ評點ヲ附ス

汽船實習又ハ工術實習修了ノ際ニハ其ノ成績ニ依リ船舶又ハ工場ニ於テ評點ヲ附ス

前二項ノ各評點ヲ併合シ之ヲ實習成績トス

第十五條 實習修了ノ後該課程中必要ト認ムルモノニ就キ本校ニ於テ卒業試驗ヲ行ヒ其ノ評點ニ

各學期成績及實習成績ヲ併合シ之ヲ卒業成績トシ合格者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第十六條 各科目ノ全點、品行點、勸怠點及合格點ハ商船學校長之ヲ定ム

第十七條 學期試驗ニ不合格ノ者又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ試驗ヲ受フルコトヲ得サリシモノ

ハ原學期ニ止ム

第十八條 實習中ノ成績不良ノ者ハ相當期間實習ヲ延期ス

第十九條 卒業試験ニ不合格ノ者ハ相當期間實習ヲ延期シ又ハ在校復習セシメ更ニ全部若ハ若干科目ニ就キ試験ヲ行フ

第二十條 學業成績又ハ實習中ノ成績優等ニシテ品行端正ナル者ハ撰拔ノ上外國留學ヲ命スルコトアルヘシ

第四章 入學在學退學

第二十一條 入學期ハ毎年五月及十一月ノ學期始トス

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ入學ヲ許可セズ

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
- 三 有妻ノ者

第二十三條 入學ヲ許可スヘキ者ハ入學期ニ於テ航海科ニ在リテハ年齡十六年以上二十年以下機關科ニ在リテハ年齡十六年以上二十一年以下ニシテ品行端正身體検査及學術試験ニ合格シタルモノニ限ル

第二十四條 入學志願者ハ入學願書(第一號書式)ニ履歷書(第二號書式)身元明細書(第三號書式)及戶籍謄本ヲ添附スヘシ

第二十五條 入學志願者ハ航海科貸費若ハ自費機關科貸費若ハ自費ニ區分シ志望ノ順次ヲ入學願書ニ記入スヘシ

前項ノ科別及費別ハ試験ノ成績及志望ノ順次ニ照ラシ商船學校長之ヲ定ム

第二十六條 入學志願者ノ身體検査規格ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十七條 身體検査ハ本校ニ於テ海軍軍醫官之ヲ行フ

第二十八條 本校學生又ハ海軍諸學校生徒ヲ志望シ共ノ身體検査ニ合格シタル者ハ爾後一箇年ヲ限リ前條ノ身體検査ヲ省略シ入學豫定者トシテ本校ニ召集ノ際必要ト認ムル部分ノ検査ヲ行フ

第二十九條 入學志願者ノ學術試験ハ中學校卒業程度ニシテ其ノ科目左ノ如シ

數學 英語 國語及漢文 物理 化學 地理 歴史 圖畫

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條科目中物理以下ノ試験ヲ行ハス

- 一 中學校ヲ卒業シタル者
- 二 專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スト指定セラレタル者
- 三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

第三十一條 中學校卒業者ニシテ學業優良ナル者ハ員數ヲ限リ學術試験ヲ用キスレテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

無試験檢定入學ニ關スル規程ハ商船學校長之ヲ定ム

第三十二條 學術試験ハ本校ニ於テ海軍將校又ハ海軍機關官出席シ身體検査合格者ニ就キ本校教官之ヲ行フ

第三十三條 入學志願者身體検査ニ合格シタルトキハ第三學年以降在學セシ中學校長(中學校以外ニ於テ教育ヲ受ケタル者ハ其ノ校長又ハ教師)ニ所見表(第四號書式)ノ作成ヲ願出ツヘシ

中學校長ハ前項ノ願出アリタルトキハ所見表ヲ作成シ指定ノ期日迄ニ到達スヘキ様書寫郵便ヲ以テ之ヲ商船學校長ニ直送スヘシ

第三十四條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ誓約書(第五號書式)ヲ差出スヘシ

第三十五條 入學願書及身元明細書ニ要スル保證人ハ志願者未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人

其ノ他ノ場合ニ在リテハ其ノ父兄又ハ近親ニシテ一家ヲ爲ス者ニ限ル

其ノ他ノ場合ニ在リテハ其ノ父兄又ハ近親ニシテ一家ヲ爲ス者ニ限ル

誓約書ニハ前項保證人ノ外尙一名東京市内ニ居住シ公民權ヲ有スル保證人ヲ要ス

第三十六條 保證人死亡シ若ハ其ノ資格ヲ失フタルトキ又ハ保證人ヲ變更セントスルトキハ新ニ保證人ヲ定メ更ニ誓約書(第五號書式)ヲ差出スヘシ

第三十七條 保證人事故アリテ一時其ノ居住地ヲ離レントスルトキハ代理者ヲ定メ届出ツヘシ

第三十八條 保證人改氏名轉籍轉居又ハ改印シタルトキハ戶籍吏又ハ市區町村長ニ於テ證明シタル届書ヲ差出スヘシ

第三十九條 學生在學中ハ本校ニ其ノ寄留籍ヲ置クモノトス

第四十條 學生在校課程修業中及實習課程終了後ハ本校内ニ寄宿セシム

第四十一條 學生ハ情願ニ依リ退校スルコトヲ得ス

第四十二條 學生左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ス

- 一 校長其ノ他教育又ハ監督ノ任ニ在ル本校及實習派遣所職員ノ命令訓誨ニ悖戾スル者
- 二 品行不良又ハ怠惰ニシテ成業ノ目途ナキ者又ハ不正ノ行爲アル者
- 三 試験ノ成績不良ニシテ成業ノ目途ナキ者
- 四 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ成業ノ目途ナキ者
- 五 自費生ニシテ學費滞納二箇月ヲ超過シタル者
- 六 第二十二條ノ各號ニ該當シタル者

第五章 學費

第四十三條 學費ハ本校一定ノ被服食料學科用具等ノ費用ニシテ其ノ額一箇月平均約金八圓トス

第四十四條 學生ヲ分チテ貸費生及自費生ノ二種トス

第四十五條 貸費生ハ本校ヨリ學費ヲ貸與シ自費生ハ學費ヲ自辨スルモノトス

第四十六條 貸費生ニシテ原學期ニ止リ又ハ實習ヲ延期セラレタル者ハ其ノ期間自費生ヲ命ス

第四十七條 學生特待生ヲ命セラレタルトキハ本校ヨリ其ノ學費ヲ給與ス

第四十八條 特待生又ハ貸費生ニシテ實習中船舶又ハ機關工場ヨリ食料若ハ報酬金ヲ受クルトキハ給與金又ハ貸與金ヲ減額スルコトアルヘシ

第四十九條 貸費生退學ヲ命セラレタルトキハ本人ヲシテ一箇月以内ニ貸與金ヲ返納セシム

第五十條 貸費生在學中又ハ卒業後死亡シ又ハ業務ノ爲癡疾不具トナリタルトキハ該債ノ上貸與金ノ一部又ハ全部返納ノ義務ヲ免除スルコトアルヘシ但シ已ニ返納シタル貸與金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條 貸費生ハ卒業ノ翌月ヨリ毎月金二圓以上貸與金ヲ返納シ共ノ全額ヲ返納スル迄本校指定ノ業務ニ従事スルノ義務アルモノトス

第五十二條 貸費生卒業後本校指定ノ業務ニ従事セザルトキハ本人ヲシテ一箇月以内ニ貸與金ヲ返納セシム

第五十三條 貸費生タリシ者第四十九條第五十一條及第五十二條ニ依ル貸與金ノ返納ヲ怠リタルトキハ保證人ヲシテ之ヲ辨償セシム

第六章 賞罰

第五十四條 學業優等ニシテ品行端正且勤勉ナル者ニハ褒賞ヲ授與シ又ハ之ヲ表彰ス

第五十五條 前條ニ該當スル者ニハ特待生ヲ命スルコトアルヘシ



第五十六條 自費生ニシテ學期成績良好品行端正且勤勉ナル者ニハ貸費生ヲ命スルコトアルヘシ

第五十七條 前二條ノ特待生又ハ貸費生ハ在校生ニ在リテハ各學期ノ終ニ又帆船實習生ニ在リテハ該實習各期ノ終ニ於テ學期成績又ハ實習成績ヲ考査シテ之ヲ命免ス但シ該期間中ト雖共ノ資格ヲ缺クニ至リタルトキハ之ヲ免ス

第五十八條 學生第四十二條ニ掲クルモノノ外不良ノ行為アルトキハ之ヲ懲戒ス

第五十九條 賞表及懲戒ニ關スル規程ハ商船學校長之ヲ定ム

第七章 服制

第六十條 學生ハ本校制服以外ノモノヲ着用スルヲ得ス但シ汽船實習中外國ノ地ニ上陸スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條 本校ノ服制ハ第一表ノ如シ

第六十二條 分科章、學期章、實習章及特待章ハ第二表ノ如シ

第六十三條 特待生ニハ正服、通常服及夏服ノ右襟分科章ノ右側ニ特待章ヲ附セシム

附則

第六十四條 本令ハ明治四十四年十一月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

第六十五條 本令施行前ニ入學シタル航海科在校生ノ修業年限及課程ハ舊規則ニ依ル但シ其ノ第二級生ハ第五學期生ト稱シ學期章ニハVヲ用フ

第一號書式(用紙差流紙ニ折一通)

入學願書

細書簿欄校(入學志願ニ付御試験ノ上左記志望ノ通り入學御許可被成下度保証人連署ヲ以テ此段相願候也

第一志望 何科何段  
 第二志望 何科何段  
 第三志望 何科何段  
 第四志望 何科何段

(必要ニ應ジ記入スヘシ)

商船學校ニ於テ受ケントス  
 明治何年何月何日 商船學校ニ於テ受檢合格  
 明治何年何月何日 何地ニ於テ海軍學校ノ受檢合格

(必要ニ應ジ記入スヘシ)

原籍地  
 現住地  
 志願者 氏 名印  
 何年何月何日生

原籍地  
 現住地  
 志願者ノ父母又ハ後見人(志願者未成年者ナルトキ)  
 志願者ノ父兄又ハ近親(志願者成年者ナルトキ)  
 保証人 氏 名印

商船學校長氏名殿

第二號書式(用紙差流紙ニ折一通)

履歷書

一出生ノ地名(何府縣何郡市町村何番地)  
 一生長ノ地名(同上)

- 一 學歷(學校ノ名入學退學卒業ノ年月日 在學中ノ者ハ其ノ學年等)
  - 一 從事シタル職業等自己ノ經歷
  - 一 従前專門ノ學校入學ヲ志願シタル者ハ其ノ校名志願回数年次合格不合格(身體又ハ學術等ノ經歷)今期ノ初度ノ志願ナルトキハ其ノ旨ヲ記入スヘシ)
  - 一 規則第三十三條ニ依リ所見表作成ヲ願出アントスル學校名及其ノ所在地又ハ家庭教師ノ氏名及其ノ住所
- 右ノ通相違無之候也

年月日

志願者 氏 名 印

第二號書式(用紙美濃紙ニ折一通) 身元明細書

志願者	商船學校規則第四章第二十二條各號ニ關ルコトナシ
父	姓名、職業ノ種類等經歷ノ概要 各別ニ記載スヘシ
母	養母繼母アルモノハ 各別ニ記載スヘシ
兄弟姉妹	父ノ例ニ準ス
兄弟姉妹	父ノ例ニ準ス
家主前記以外ノモノノ月主ナルトキ	父ノ例ニ準ス
家庭ニ於ケル生計ノ現況	所見ヲ記入スヘシ(資產及所得ノ概略ヲ記スモ可ナリ)

族籍

志願者 氏 名

右ノ通相違無之候也

年月日

保薦人 氏 名 印

商船學校校長氏名殿

第四號書式(用紙美濃紙ニ折一通) 所見表

志願者 氏 名				
入學年月及學級	月下ノ學級	中途退學年月及學級		
卒業年月				
學業成績	學年	得點(百分比)	席次	勳章
	第三學年		何人中ノ	勳章ノ状況
	第四學年		何人中ノ	勳章ノ状況
	第五學年		何人中ノ	勳章ノ状況
	同右		何人中ノ	勳章ノ状況
性質習癖	校長又ハ教育擔任者ノ認ムル所ヲ記ス			
操行	在校中ノ操行及賞罰ノ概略ヲ記ス(殊ニ衆人ノ模範トナルヘキ善行又ハ操行ノスヘキ行爲アリタルトキハ其ノ概略ヲ記載スルヲ要ス)			
備考	前記事項以外ノ必要事項ヲ記入ス			
所見	志願者ノ人格及學科進歩ニ就キ校長又ハ教育擔任者ノ所見ヲ記入ス 學校所在地 何立學校長 氏 名 印			

第五號書式(用紙美濃紙ニ折一進)

自費學生誓約書

拙者僕今自費ヲ以テ入學御許可相成候ニ付テハ御規則ヲ遵守スヘキハ勿論許テ海軍職員ニ服務可仕且ツ御志ニ關スル候ハ何事ニ限ラズ保證人ニ於テ引受ケ在學中ノ諸費用ハ御規則及御命令ニ從ヒ由御許可仕候儀テ保證人連署ノ上誓約書送付候也

年月日

原籍地  
族籍地  
現住地  
族籍地  
族籍職業  
現住地  
志願者ノ父母又ハ養見人(志願者未成年者ナルトキ)  
志願者ノ父兄又ハ近親(志願者成年者ナルトキ)  
甲保證人 氏 名印

族籍地  
現住地  
志願者 氏 名印

族籍地  
現住地  
族籍職業  
現住地  
志願者ノ父母又ハ養見人(志願者未成年者ナルトキ)  
志願者ノ父兄又ハ近親(志願者成年者ナルトキ)  
甲保證人 氏 名印

族籍地  
現住地  
志願者 氏 名印

族籍地  
現住地  
志願者 氏 名印

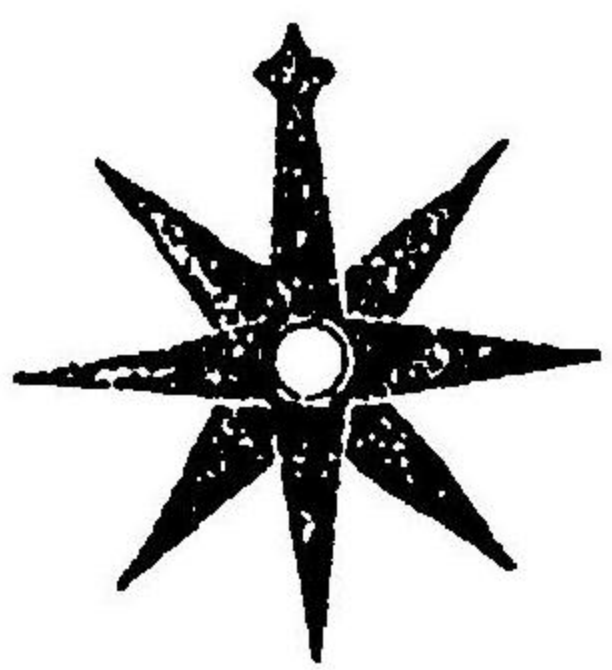
商船學校長氏名殿

前書乙保證人氏名ハ右肩書ノ地ニ居住シ公民權ヲ有スル者ニ相違無之此段規則候也

年月日

(別紙)

第一圖徽章



第一表

品名	地質	式	袖章	襟章	前章
正服	紺羅紗	上衣ハ背廣形腰帶附紐五箇 フニ行左右下部ニ各一箇ノ羅紗 フニ行左右下部ニ各一箇ノ羅紗	兩袖袖口ヨリ 上方二寸ノ長ニ分科章ヲ左 方ニ列ス	襟ノ前右側 ニ分科章ヲ左 方ニ列ス	
通常服	紺ヘル	同右	同右	同右	
夏服	白甚絨織	同右	同右	同右	
帽	紺羅紗	帽冠形ニシテ墨草製ノ前底及 支紐ヲ附シ帽ノ前底ニ於テ紐 各一箇ヲ以テ支紐ヲ留メ紐 ノ周囲ニ幅一寸三分ノ黒毛絨 ヲ附シ			徑一寸二分ノ金色 校章ヲ前底ニ附ス 其ノ品質正帽用ハ 金織トス
外套	紺羅紗	折襟胸二重各行紐六箇附 面ノ裾ヲ對テ背而腰部ニ紐 ヲ附シ其ノ部ニ七箇ノ紐ヲ 附シ又前左右ノ腰部ニ各一箇 ノ腰シヲ附ス帽ハ普通ノ製式			
備考	鈕釦ハ校章ヲ有スル金色金屬製ニシテ轉用ハ徑四分袖章用ハ徑五分、上衣及外套用ハ徑七分トス				

第二表

章 號	用 別	記 章	分 科 章		備 考
			機 關 科	航 海 科	
I	正 服 用	E	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
II	通 常 服 用	N	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
III	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
IV	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
V	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
VI	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
VII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
VIII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
IX	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
X	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XI	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XIII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XIV	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XV	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XVI	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XVII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XVIII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XIX	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XX	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXI	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXIII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXIV	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXV	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXVI	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXVII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXVIII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXIX	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXX	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXXI	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXXII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXXIII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXXIV	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXXV	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXXVI	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXXVII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXXVIII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XXXIX	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XL	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XLI	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XLII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XLIII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XLIV	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XLV	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XLVI	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XLVII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XLVIII	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
XLIX	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		
L	通 常 服 用	I	第一學期生	金	同 右
			第二學期生		
			第三學期生		
			第四學期生		

○逓信省令第四十一號  
日清郵便規則中左ノ逓改正ス  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十四年十一月十日

逓信大臣 伯爵林董

第二十四條ノ二 關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ第二十條  
及第二十一條ノ規定ヲ準用ス

○逓信省令第四十二號  
外國郵便爲替規則第五條第一號羅馬約定ニ依ル爲替亞然的音共和國外諸國ニ振宛ツルモノノ項中  
「亞弗利加西海岸佛蘭西殖民地」ノ次ニ「マダガスカル」ニ加フ  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十一月十一日  
逓信大臣 伯爵林董

○逓信省令第四十三號  
船舶通報規則中左ノ逓改正ス  
本令ハ明治四十四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十一月十四日  
逓信大臣 伯爵林董

第六條第一項ヲ左ノ逓改正ス  
通過報ノ料金左ノ如シ

一 登記料ヲ納付シタル者ニ對シテハ一通毎ニ  
内地相互間 金十錢  
内地樺太間 金十五錢

二 登記料ヲ納付セサル者ニ對シテハ一通毎ニ  
内地相互間 金二十錢  
内地樺太間 金三十錢

第二十二條 船舶通報ハ内地小笠原島相互間及内地小笠原島樺太間ニ發受スルモノニ限ル

〔參照〕  
逓信省令第四十四號船舶通報規則(明治四十年九月二十六日抄録)  
第六條 通過報ノ料金左ノ如シ

明治四十四年十一月 省令 逓信省第四十二號 第四十三號

- 一 登録料ヲ納付シタル者ニ對シテハ 金十錢
- 一 通毎ニ
- 二 登録料ヲ納付セサル者ニ對シテハ 金二十錢
- 一 通毎ニ
- 第三十二條 船舶運報ノ通達ヲ受クヘキ場所ハ内國ニ限ル

○逓信省令第四十四號

日清無線電報規則中左ノ通改正ス

本令ハ明治四十四年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十一月十五日

逓信大臣 伯爵林董

第一條 左記電報ヲ日清無線電報ト稱ス

但シ線上傳送ニ付テハ帝國電信系ニ依ルモノニ限ル

- 一 帝國無線電信局 關東都督府無線電信局 及關東都督府無線電信局ノ雙方若ハ一方ノ媒介ニ依リ帝國船舶局 關東都督府船舶局ト滿洲若ハ清國芝罘トノ間又ハ關東都督府船舶局ト帝國若ハ清國芝罘トノ間ニ發著スルモノ
- 二 帝國無線電信局及場合ニ依リ關東都督府無線電信局ノ媒介ニ依リ關東都督府船舶局相互間又ハ關東都督府船舶局ト滿洲トノ間ニ發著スルモノ
- 三 關東都督府無線電信局及場合ニ依リ帝國無線電信局ノ媒介ニ依リ帝國船舶局相互間又ハ帝國船舶局ト帝國トノ間ニ發著スルモノ
- 四 帝國無線電信局及關東都督府無線電信局ノ雙方若ハ一方ノ媒介ニ依リ又ハ其ノ媒介ナク帝國船舶局ト關東都督府船舶局トノ間ニ發著スルモノ
- 第三條 關東都督府海岸局ノ媒介ニ依リ滿洲ニ發著スル日清無線電報ノ普通電報料ハ左ノ如ク

和文	官私報	十五字以内	二十錢	新聞電報	五十字以内	二十錢
		以上五字以内	五錢			
歐文		五語以内	二十五錢			
		以上一語ヲ	五錢			

〔參照〕

逓信省令第四百二號日清無線電報規則(明治四十三年十一月一日)抄録  
第一條 帝國ニ在ル海岸局ノ媒介ニ依リ且帝國電信系ニ依リ帝國船舶局ト滿洲又ハ清國芝罘トノ間ニ發著スル無線電報ハ之ヲ日清無線電報ト稱ス

○逓信省令第四十五號

外國郵便爲替規則中左ノ通改正ス

本令ハ明治四十四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十一月十六日

逓信大臣 伯爵林董

第四十六條中第六十條第二項及第三項並ニ改ム

〔參照〕

逓信省令第四十三號外國郵便爲替規則(明治四十年九月二十一日)抄録  
第四十六條 郵便爲替規則第六十條第二項及第六十三條乃至第六十八條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

○逓信省令第四十六號

外國無線電報規則中左ノ通改正ス

本令ハ明治四十四年十一月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十一月二十一日

逓信大臣 伯爵林董

第五條 帝國海岸局ノ媒介ニ依リ且帝國電信系ニ依リ帝國又ハ滿洲ニ發著スル外國無線電報ノ普通電報料ハ左ノ如シ

- 一 内地小笠原島ヲ除クニ在ル海岸局ノ媒介ニ依リ内地ニ發著スルモノ  
滿洲ニ在ル海岸局ノ媒介ニ依リ滿洲又ハ朝鮮ニ發著スルモノ  
五語以内 二十五錢  
以上一語ヲ増ス毎ニ 五 錢

- 二 内地ニ在ル海岸局ノ媒介ニ依リ小笠原島朝鮮臺灣樺太又ハ滿洲ニ發著スルモノ  
臺灣ニ在ル海岸局ノ媒介ニ依リ内地小笠原島朝鮮樺太又ハ滿洲ニ發著スルモノ  
滿洲ニ在ル海岸局ノ媒介ニ依リ内地小笠原島臺灣又ハ樺太ニ發著スルモノ  
二十五錢  
以上一語ヲ増ス毎ニ 五 錢  
以上一語ヲ増ス毎ニ 四十 錢  
以上一語ヲ増ス毎ニ 五 錢

- 官報 五語以内 二十五錢  
私報 五語以内 四十 錢  
以上一語ヲ増ス毎ニ 五 錢

〔參照〕

逓信省令第二十九號外國無線電報規則(明治四十一年六月二十三日抄錄)  
第五條 帝國海岸局ノ媒介ニ依リ帝國ニ發著スル外國無線電報ノ普通電報料ハ左ノ如シ  
一 内地(小笠原島樺太及臺灣ニ在ル海岸局ノ媒介ニ依リ内地ニ發著スルモノ)  
臺灣ニ在ル海岸局ノ媒介ニ依リ臺灣ニ發著スルモノ  
二 内地ニ在ル海岸局ノ媒介ニ依リ小笠原島朝鮮樺太又ハ滿洲ニ發著スルモノ  
臺灣ニ在ル海岸局ノ媒介ニ依リ内地小笠原島若ハ樺太ニ發著スルモノ  
五語以内 金二十五錢  
一語ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス  
五語以内 金五十錢  
一語ヲ加フル毎ニ金十錢ヲ増ス

○宮内省令第十號

御料ニ關スル法律上ノ行爲ニ付テハ官制ニ定メタル所掌事務ノ區別ニ從ヒ皇室財産令第二條但書ノ規定ニ依リ各部長官ヲ以テ宮内大臣ノ代理者ト定ム但各部長官宮内大臣ノ認可ヲ經テ特  
定ノ事項ニ付所部ノ官吏ヲ指定シタルトキハ其ノ官吏ヲ以テ宮内大臣ノ代理者トス  
登錄國債及有價證券ノ記名ニ付テハ内藏頭ヲ以テ宮内大臣ノ代理者トス

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十二月二十五日

宮内大臣 伯爵渡邊千秋

○宮内省令第十一號

御料林野疆界査定規則左ノ通定ム

明治四十四年十二月二十九日

宮内大臣 伯爵渡邊千秋

御料林野疆界査定規則

第一條 御料林野ノ疆界査定ハ皇室財産令第八十七條ノ規定ニ基ツキ本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ

第二條 疆界査定官吏鄰接地所有者ノ立會ヲ求メトスルトキハ五日前ニ査定ノ日時及場所ヲ鄰接地所有者ニ通告スヘシ但シ鄰接地所有者何時ニテモ立會ヲ爲スヘキコトヲ承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 鄰接地所有者期日ニ立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ期日前疆界査定官吏ニ事由ヲ具シテ延期ヲ出願スルコトヲ得

第四條 疆界査定ヲ終ハリタルトキハ皇室林野管理局長官ハ其ノ旨ヲ鄰接地所有者ニ通告シ且同

時ニ疆界簿及疆界圖ノ謄本ヲ土地所轄ノ帝室林野管理局出張所又ハ帝室林野管理局支廳ノ出張所ニ送付スヘシ

第五條 通告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

郵便ニ依リテ通告書ヲ送付スルトキハ内容證明郵便又ハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

郵便ニ依ラスシテ通告書ヲ送付スルトキハ受領ノ日時ヲ記載シタル受領證ヲ差出サシムヘシ

第六條 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ因リ鄰接地所有者ニ對シテ通告書ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ帝室林野管理局長官ハ官報ヲ以テ其ノ事由及通告ヲ爲スヘキ事實ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ公告ノ翌日ヨリ起算シテ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ通告ヲ受ケタルモノト看做ス

第七條 鄰接地所有者ハ第四條ノ通告ヲ受ケタル後ハ土地所轄ノ帝室林野管理局出張所又ハ帝室林野管理局支廳ノ出張所ニ就キ疆界簿及疆界圖ノ謄本ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第八條 鄰接地所有者ハ帝室林野管理局長官ニ對シ自己ノ所有地ト鄰接御料林野ト接續スル部分ノ疆界簿又ハ疆界圖ノ謄本ノ下付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ接續民有地ノ一筆毎ニ疆界簿ニ在リテハ金十錢疆界圖ニ在リテハ金二十錢ノ割合ヲ以テ調製費ヲ納付スヘシ

第九條 疆界簿又ハ疆界圖ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ帝室林野管理局長官ハ直ニ其ノ旨ヲ鄰接地所有者ニ通告シ且同時ニ謄本ヲ土地所轄ノ帝室林野管理局出張所又ハ帝室林野管理局支廳ノ出張所ニ送付シ疆界簿又ハ疆界圖ノ謄本ヲ訂正セシムヘシ

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○内務省令第二十號

明治三十九年七月内務省令第二十一號日本藥局方中タンニン酸、タンニン酸アルブミン、スルフォイヒチオール酸アムモニウム、アンチピリン、プロテイン銀、コバイバ、ルサム、次硝酸基酸、ヂアスマーゼ、ヂギタリス葉、肝油、白檀油、フェーリング溶液ノ條ヲ左ノ通改正シ明治四十五年七月一日ヨリ施行ス

明治四十四年十二月二十六日

内務大臣 原敬

○ Acidum tannicum.



タンニン酸

タンニン酸ハ白色或ハ類黄色ノ粉末或ハ閃輝アル殆ト無色懸球ノ鱗屑片ニシテ味甚タ澁ク五分ノ水ニ溶解シ酸性ノ反應ヲ微シ二分ノ酒精或グリセリンニ溶解シ「エーテル、クロロフォルム又ベシツォール」ニ溶解セズ

本品ノ水溶液(1:5)ニ硫酸或ハ「クロールナトリウム」ヲ加フレハ沈澱ヲ生シ過クロール銀溶液ヲ和スレハ硫酸ニ由テ再ヒ溶解スヘキ藍黑色ノ沈澱ヲ生ス

本品ノ水溶液(1:5)ニ立方センチメートル(2cc)ニ酒精二立方センチメートル(2cc)ヲ混和スルニ證明ニ止マリ之ニ「エーテル」一立方センチメートル(1cc)ヲ加フルニ濁濁ス可カラス

本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ百分ニ付キ十二分以上ノ重量ヲ減失ス可カラス本品〇・二グラム(0.2g)ヲ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留ス可カラス

壺中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Albuminum tannicum.

タンニン酸アルブミン

タンニン酸アルブミン

卵白

二十分(20.0)

ヲ取り

二百分(200.0)

ニ溶解シ濾過シ其濾液ニ

十三分(13.0)

蒸餾水

百二十分(120.0)

ヲ以テ製シタル水溶液ヲ和シテ生シタル沈澱ヲ濾布上ニ採集シ二百分ノ水ヲ以テ洗滌シ三十度ニ於テ乾燥シ粉末トナシ尋テ其粉末ヲ薄層トナシ百十五乃至百二十度ニ於テ六時間乾燥シ製スヘレ本品ハ類褐色ノ粉末ニシテ臭味ナク水竝酒精ニ極メテ僅微ニ溶解ス

本品ニ水ヲ加ヘテ振盪シ濾過シ其濾液ニ過クローレン鐵溶液一滴ヲ和スレハ深藍色ヲ呈ス又本品ニ水ヲ和シテ煮沸シ濾過シ其濾液ニ蛋白質溶液ヲ加フレハ沈澱ヲ生ス

本品ニ「ナトロン」溶液ヲ和シテ煮沸シ冷後之ニ鹽酸ヲ加ヘテ過飽スレハ硫化水素ノ臭氣ヲ發ス

本品一グラム(1g)ヲ取り之ニ純ペプシン0.25グラム(0.25g)ヲ水百立方センチメートル(100cc)ニ溶解シタルモノノ及稀鹽酸一立方センチメートル(1cc)ヲ和シ三時間四十度ニ温メタル後濾過シ濾紙上ノ殘渣ヲ十立方センチメートル(10cc)ノ水ヲ以テ洗滌シ百度ニ於テ乾燥シ秤量シ又別ニ本品一グラム(1g)ヲ取り先ツ前法ニ從ヒ温浸シタル後得タル殘渣ニ更ニ炭酸ナトリウム一.5グラム(1.5g)ヲ水百立方センチメートル(100cc)ニ溶解シタルモノヲ加ヘテ三時間四十度ニ於テ温浸シ濾過シ水ヲ以テ濾紙上ノ殘渣ヲ洗滌シ百度ニ於テ乾燥シ秤量スルニ甲乙兩殘渣ノ差量0.1グラム(0.1g)ヨリ少ナカル可カラズ

本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ百分ニ付キ五分以上ノ重量ヲ減失ス可カラズ  
 本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ一分以上ノ固性物ヲ殘留ス可カラズ

Ammonium sulfoichthyolicum

スルフオイヒチオール酸アムモニウム

スルフオイヒチオール酸アムモニウムハ帶赤褐色舍利別稠ノ液ニシテ焦性ノ臭氣ヲ有シ熱スレハ炭化シテ強ク膨起シ熱灼スレハ固性物ヲ遺サシテ燃化ス水ニ透明ニ混和シ微ニ酸性ノ反應ヲ做ス酒精ニ著シク、エーテル竝石油ペンチンニ僅ニ溶解シ酒精及エーテル各同容量ノ混和液ニ殆ト全溶ス

本品ニ「カリ」溶液ヲ和シテ熱スレハ「アムモニア」ヲ發シ更ニ此混和物ヲ熱シテ炭化シ之ニ鹽酸ヲ加フレハ硫化水素ヲ發生ス

本品ノ水溶液(1:20)ニ鹽酸ヲ和スレハ暗色樹脂様ノ物質ヲ沈降ス此沈澱ハ「エーテル」竝水ニ溶解シ其水溶液ニ鹽酸或ハ「クローレン」ナトリウムヲ加フレハ復タ析出ス

本品ノ水溶液(1:20)ニ稀硫酸ヲ和スルニ半時間以內ニ亞硫酸ノ臭氣ヲ放ツ可カラズ

本品ノ水溶液(1:20)ニ硝酸ヲ加ヘ濾過シテ得タル液ハ硝酸銀溶液竝硝酸バリウム溶液ニ由テ滷濁ヲ起スニ過ク可カラズ

本品ノ百度ニ於テ乾燥セルモノ0.5グラム(0.5g)ニ硝酸カリウム二グラム(2g)及無水炭酸ナトリウム二グラム(2g)ヲ混和シ注意シテ、燃化シテ得タル白色ノ熔塊ヲ温湯ニ溶解シ鹽酸ヲ以テ酸性トナシ之ニ「クローレン」バリウム溶液ヲ加ヘテ得タル硫酸バリウムノ量ハ0.5乃至0.6ニグラム(0.5-0.6g)ナラサル可カラズ

本品ハ百度ニ於テ乾燥シ復タ重量ヲ減セサルニ至ルニ其減失百分ニ付キ五十分ニ過ク可カラズ  
 本品ヲ燃化スルニ百分ニ付キ0.3分以上ノ固性物ヲ殘留ス可カラズ



**O Antipyrinum.**



**アンチピリン**

アンチピリンハ無色稜柱狀ノ結晶或ハ白色結晶性ノ粉末ニシテ殆ト臭氣ナク味微ニ苦ク百十一乃至百十三度ニ於テ熔融シ水酒精又クロ、フォルム約等分ニ溶解シ又約五十分ノ「エーテル」ニ溶解ス

本品ノ水溶液(1:100)ニ「タンニン」酸溶液ヲ和スレハ白濁ヲ生ス又其二立方センチメートル(2ccm)ニ二滴ノ「煙硝酸」ヲ加フレハ綠色ヲ呈シ之ヲ熱シテ沸騰スルニ至リ更ニ「煙硝酸」數滴ヲ和スレハ赤色ニ變ス

本品ノ水溶液(1:1000)ニ立方センチメートル(2ccm)ニ一滴ノ過クローレル銀溶液ヲ和スレハ血赤色ヲ呈シ尋テ「硫酸」十滴ヲ加フレハ黃色ニ變ス

本品ノ水溶液(1:2)ハ無色ニシテ中性ノ反應ヲ微シ又「硫化水素水」ニ由テ變化ス可カラズ

本品ハ「硫酸」ニ無色ニ溶解スヘシ

**Argentum proteinatum.**

**プロテイン銀**

プロテイン銀ハ淡黃色或ハ類褐色細微ノ粉末ニシテ微ニ「硝味」ヲ有シ水ニ容易ニ溶解シ中性若クハ微弱アルカリ性ノ反應ヲ微ス

本品ノ水溶液(1:10)ハ褐色ヲ有シ熱スレハ「ナトリウム」過液ニ溶解スヘキ沈澱ヲ生ス又之ニ過利ノ「ナトリウム」過液及少量ノ「硫酸銅溶液」ヲ加フレハ紫色ヲ呈シ「ピクリン酸溶液」ヲ和スレハ黃色ノ沈澱ヲ生ス

本品ヲ燃化シテ得タル 固性物ヲ硝酸ニ溶解シ其溶液ニ「鹽酸」ヲ加フレハ「アムモニア」水ニ溶解スヘキ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ス

本品ノ水溶液(1:10)ハ「ナトリウム」過液、硫化カリウム溶液、クローレルナトリウム溶液又蛋白質溶液ニ由テ變化ス可カラズ

本品一グラム(1g)ヲ瓷製坩堝内ニ於テ燃化シ殘留物ヲ稀硝酸ニ溶解シ「炭酸カルシウム」ヲ以テ過利ノ硝酸ヲ中和シ之ニ十分定規クローレルナトリウム液十立方センチメートル(10ccm)及クローラム酸カリウム溶液二滴ヲ和シタルモノニ十分定規硝酸銀液ヲ加ヘテ赤色ヲ呈スルニ至ルニハ其銀液ヲ費スコト「二立方センチメートル(2ccm)」ニ過ク可カラズ

**Balsamum Copalivae.**

**コパイベールサム**

Copalum 屬ノ諸種特ニ

Copalum officinale L.

Copalum guyanensis Desfon. et

Copalum coriacea Mart.

コパイベールサムハ本國諸種植物ノ幹部ニ附セル「瘰癧」ヨリ滲出セル「バルサム」ナリ

本品ハ澄明多少濃厚ノ液ニシテ帶黃類褐色ヲ有シ螢石彩ヲ現ハサス或ハ之アルモノ僅微ニ過キス香氣ハ特異、味ハ辛烈ニシテ少シク苦シク「クロ、フォルム」並純アルコホルニ全ク或ハ殆ト澄明ニ混和ス比重〇九八〇乃至〇九九二ナリ

本品四滴ニ「氷醋酸」七立方センチメートル(7cc)及「硝酸」六滴ノ混液ヲ和スルニ類紅色或ハ紫色ヲ呈ス可カラズ

本品五立方センチメートル(5cc)ヲ酒精十五立方センチメートル(15cc)ニ溶解シ「遠流冷却器」ヲ

附シテ一分時間煮沸シタルモノハ冷後一時間以内ニ油狀物ヲ析出スルコトアルモ其油狀物ハ氷醋酸ニ溶解セサル可カラス

本品二十滴ニ酒精製カリ濾液一立方センチメートル(1cc)ヲ加ヘテ二分時間煮沸シ冷後エーテルニ立方センチメートル(5cc)ヲ混和スルニ凝膠狀ニ變ス可カラス  
本品一グラム(1g)ヲ酒精五十立方センチメートル(50cc)ニ溶解シフェノールフメリン溶液十滴ヲ添加スルノ後酒精製二分定規カリ液ヲ滴加シテ赤色ヲ呈スルニ至ルニハ該液ヲ費スコト二五乃至三立方センチメートル(35cc)ナラサル可カラス更ニ此混和液ニ酒精製二分定規カリ液二十立方センチメートル(20cc)ヲ注和シ十五分時間電湯煎中ニ熱シ二分定規鹽酸ヲ用ヒテ剩餘ノカリ液ヲ中和スルニ其酸液ヲ費スコト少ナクモ十九・六立方センチメートル(19.6cc)ナラサル可カラス

○ Bismutum subnitricum.

次硝酸蒼鉛

次硝酸蒼鉛ハ

一分(1.0)

ヲ取り豫メ七十五乃至九十度ニ熱シタル蒼鉛粗末

五分(5.0)

中ニ少量ツ、漸次ニ投入シ終リニ臨ミ硝酸ノ作用衰フルニ至リ更ニ強熱ヲ與ヘテ蒼鉛ノ溶解ヲ助クヘン尋テ蒼鉛ノ溶液ヲ數日間放置シタル後上層ノ澄明液ヲ傾瀉シ之ヲ蒸發シテ結晶セシメ茲ニ得タル結晶ヲ硝酸含有ノ蒸餾水少量ヲ以テ一二回洗滌シ此

一分(1.0)

結晶

蒸餾水

ヲ加ヘテ研和シ次ニ之ヲ

四分(4.0)

沸騰蒸餾水

二十一分(21.0)

中ニ攪拌シツ、投入シ茲ニ生シタル沈澱ノ沈著スルニ至リ速ニ上清液ヲ除去シ沈澱ヲ漏斗中ニ採集シ液分ノ充分ニ滴下シタル後

二十五分(25.0)

冷蒸餾水

ヲ以テ洗淨シ三十度ノ温ニ於テ乾燥シ製スヘシ

本品ハ白色細微結晶性ノ重キ粉末ニシテ酸性ノ反應ヲ微ス

本品ヲ熾灼スレハ黃赤色ノ蒸氣ヲ發シ終ニ百分ニ付キ七十九乃至八十二分ノ酸化蒼鉛ヲ殘留ス

本品〇・五グラム(0.5g)ハ常温ニ於テ稀硫酸二十五立方センチメートル(25cc)ニ澄明ニ全溶シ炭酸ヲ發ス可カラス此溶液ノ一半ヲ取り過剰ノ「アムモニア」水ヲ和シタル後濾過スルニ全ク無色ノ液ヲ得ヘシ又其溶液五立方センチメートル(5cc)ニ多量ノ水ヲ加ヘテ稀釋シ之ニ過剰ノ硫化水素

水ヲ和シ濾過シテ得タル液ハ蒸發ノ後熱灼スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留ス可カラス

本品一グラム(1g)ヲ熱灼シテ蒸氣ノ發生全ク熄ムニ至リ其殘留物ヲ少量ノ鹽酸ニ溶解シ之ニ二

倍容量ノ亞クロール錫溶液ヲ和スルニ一時間以内ニ暗色ヲ呈ス可カラス

本品〇・五グラム(0.5g)ヲ硝酸五立方センチメートル(5cc)ニ溶解シテ得タル澄明液ハ硝酸銀溶液〇・五立方センチメートル(0.5cc)ニ由テ蛋白濁ヲ起スニ過キヌ又同容量ノ水ヲ以テ稀釋シ

タル硝酸バリウム溶液〇・五立方センチメートル(0.5cc)ニ由テ變化セヌ又過剰ノ「ナトロン」溶液

ニ和シテ熱スルニ「アムモニア」ヲ發ス可カラス

**Diasasa.**

**ヂアスターゼ**

ヂアスターゼハ帶黃白色ノ粉末ニシテ水ニ殆ト溶解シ酒精ニ殆ト溶解セズ  
本品〇〇五グラム(0.05g)ヲ百度ノ温ニ於テ全ク乾燥シタル馬鈴薯澱粉五グラム(5g)及水三十立  
方センチメートル(30ccm)ノ混和物ニ攪拌シテ、沸騰蒸留水七十立方センチメートル(70ccm)  
ヲ注加シ更ニ二十分時間重湯煎内ニ放置シテ製シテ五十五度ニ冷却シタル糊液ニ和シ五十五度ニ於  
テ屢々搖動シテ二時間放置シテ得タル溶液十立方センチメートル(10ccm)ハ四十五立方センチメ  
ートル(45ccm)ノフエーリング溶液ヲ脱色セサル可カラズ

本品〇一グラム(0.1g)ニ水二十立方センチメートル(20ccm)ヲ和シテ煮沸シタルモノハ冷後  
ヨード溶液ニ由テ藍紫色ヲ呈ス可カラズ

本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ四分ニ過ク可カラズ  
場中ニ容レ密栓シテ貯フヘシ

**〇 Folia Digitalis.**

*Digitalis purpurea L.*

**ヂギタリス葉**

ヂギタリス葉ハ本植物ノ葉ヲ花時ノ初期ニ採集シ乾燥セルモノナリ  
本品ハ長サ三十センチメートル(30cm)ニ超ニス廣サ十センチメートル(10cm)ニ至リ長卵圓形ヲ有  
シ葉柄ヲ缺キ或ハ二稜性ノ葉柄ニ沿ウテ狹細トナリ邊緣ハ不齊ノ鈍鋸齒ヲ有ス第一級枝脈ハ尖角  
ヲナシテ主脈ヨリ發生シ第二級及第三級ノ枝脈ト共ニ葉ノ裏面ニ露出セル脈絡ヲ形成シ日光ニ透  
見スレハ更ニ其間ニ細微ナル網脈ヲ認ム葉體ハ概シテ一乃至四箇ノ細胞ヨリ成レル尖銳ノ毛茸ト  
有頂性腺毛ヲ帶フルノミ種酸鹽結晶ハ葉體ノ組織中ニ缺如ス

本品ハ不快ノ苦味ヲ有ス

本品一分ニ二十分ノ沸湯ヲ加ヘ浸出シ濾過シテ得タル液十立方センチメートル(10ccm)ヲ分液漏  
斗ニ取リ十立方センチメートル(10ccm)ノクロ、フォルムヲ加ヘ數分時間振盪シ更ニエーテル  
及酒精各五立方センチメートル(5ccm)ヲ和シ輕ク搖動シタル後クロ、フォルムエーテル液ヲ分取  
シ豫メクロ、フォルムヲ以テ濾ホシタル濾紙ヲ用ヒテ濾過シ蒸散セシメ其殘留物ヲ三立方センチ  
メートル(3ccm)ノ氷醋酸ニ溶解シ之ニ一滴ノ稀薄過クロール銀溶液(1:10)ヲ添加シ試験管中ニ  
於テ硫酸ヲ注加シテ二液層トナスニ其接界ニ褐赤色ノ輪帶ヲ生シ其上部ニ藍綠色ノ層ヲ現ハサ、  
ル可カラズ

本品ヲ貯藏スルニハ燬製石灰上若クハ九十度ヲ超エサル温ニ於テ乾燥スヘシ又本品ノ粉末ヲ貯藏  
スルニハ同上ノ方法ニ由テ乾燥シ小壺中ニ全滿スヘシ

**〇 Oleum Jecoris.**

*Gadus Morrhua L.* 及其他 *Gadus* 屬ノ諸種

**肝油**

肝油ハ木屬諸種魚類ノ肝臟ヨリ得タル脂肪油ナリ  
本品ハ澄明黃黄色或ハ金黄色ノ液ニシテ微ニ特異ノ臭氣ヲ有シ味緩和ニシテ比重〇・九二四乃至  
〇・九三二ナリ  
本品五滴ニ硫酸一滴ヲ點加スレハ藍紫色或ハ紫紅色ヲ呈ス又本品十五滴ニ發烟硝酸三滴ヲ點加シ  
攪和スレハ薔薇色又ハ紫藍色ヲ呈シ直チニ枸橼黄色或ハ類褐色ニ變ス  
本品ハ不快敗油性ノ氣味ヲ有ス可カラズ又酒精ヲ以テ濾ホセル藍色試験紙ヲ赤變スルモ微弱ニ止  
マルヘシ又零度ニ於テ約三時間ヲ經ルモ澄明ニ止マリ白色ノ固形物ヲ析出ス可カラズ

本品一容量ニ硝酸一容量及銅屑少量ヲ加ヘタルモノハ久シキヲ經ルモ透明液狀ニ止マルヘシ又本品一立方センチメートル(1cc)ニ稀醋酸五立方センチメートル(5cc)ヲ和シ振盪シ濾過シテ得タル液ハ硫化水素水ニ由テ變化ス可カラス

Oleum Santali.

Santalum album L.

白檀油

白檀油ハ本植物ノ木材ニ水ヲ和シ蒸餾シテ得タル揮發油ナリ

本品ハ淡類黄色或ハ黄色濃厚ノ液ニシテ分極光線ヲ左旋シ百ミリメートル(100mm)ノ管ニ在テハ十六乃至二十度ナリ二百七十五乃至二百八十度ノ熱ヲ與フレハ沸騰ヲ始メ二百九十二乃至三百度ニ至レハ百分ニ付キ七十分以上ヲ餾出ス比重〇・九七五乃至〇・九八五ナリ  
本品ハ微ニ酸性ノ反應ヲ徴シ共一分ハ二十度ニ於テ五五分ノ稀酒精ニ證明ニ溶解セサル可カラズ

本品二滴ニ氷醋酸九立方センチメートル(9cc)及鹽酸一立方センチメートル(1cc)ノ混液七・五立方センチメートル(7.5cc)ヲ和スルニ五分時間以内ニ赤色或ハ紫色ヲ呈ス可カラス  
本品ハ龍涎香ニ類スル佳香ヲ有シ味ハ苛烈ナラスシテ微ニ苦シ  
壘中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ冷處ニ貯フヘシ

Solutio Fehlingi. フーリング溶液 結晶硫酸銅六十九・二七グラム(69.27g)ヲ蒸餾水ニ溶解シテ一リートル(1L)トナシタルモノヲ酒石酸カリウムナトリウム二百四十六グラム(246g)及苛性ナトリウム百〇三・二グラム(103.2g)ヲ蒸餾水ニ溶解シテ一リートル(1L)トナシ石綿ヲ用ヒテ濾過シタルモノヲ各別ニ貯藏シ用ニ臨テ其同容量ヲ混和スヘシ

○大藏省令第四十一號

國稅徵收法施行細則中左ノ通改正ス

第二條ノ二 稅務署長ハ納稅人又ハ市町村ノ爲便宜ト認ムル納付場所ヲ指定スヘシ

納稅人又ハ市町村ハ指定ノ納付場所以外ノ地ニ於テ納稅スルヲ便宜トスルトキハ稅務署ニ申告シテ納付場所ノ變更ヲ求ムルコトヲ得

前二項ニ依リ市町村ニ對シ出納區域内ニ在ラサル金庫ヲ指定シタルトキハ之ヲ其ノ金庫ニ通知スヘシ

第六條ノ一 稅務署長稅金納付ノ督促ヲ爲ストキハ第六號書式ノ督促狀ヲ發スヘシ但シ延滞金ヲ徵收スヘキモノニ付テハ第七號書式ニ依ルヘシ

第六條ノ二 前條ノ督促ヲ爲ス場合ニ於テ金庫ニ納付セシムルトキハ左ノ各號ニ依ルヘシ  
一 市町村ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ付テハ第八號書式第九號書式ノ納付書ヲ添附スヘシ

二 收稅官吏ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ付テハ第九號書式ノ納付書ヲ添附スヘシ

第六條ノ三 納稅人督促ヲ受ケ稅金及督促手数料ヲ金庫ニ納付スヘキ場合ニ於テハ前條第一號ノ納付書又ハ第二號ノ納付書及收稅官吏ノ發シタル納稅告知書ヲ添附シ稅務署ニ納付スヘキ場合ニ於テハ市町村又ハ收稅官吏ノ發シタル納稅告知書ヲ添附スヘシ

第六條ノ四 督促狀ニ記載スヘキ納付場所ヲ稅務署ト指定シタル場合ニ於テ市町村ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ナルトキハ收稅官吏ハ其ノ納稅告知書ヲ以テ稅金ヲ領收スルコトヲ得

第六條ノ五 前三條ノ規定ハ滞納報告後督促狀發付前稅金ヲ領收スル場合ニ之ヲ準用ス

第六條ノ六 延滞金ヲ納付スヘキ場合ニ於テハ稅金及督促手数料ト共ニ之ヲ稅務署ニ納付スヘシ  
前項ノ場合ニ於テハ第六條ノ三ノ規定ヲ準用ス

第八條 削除  
第十條 收稅官吏債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ第十號書式ノ債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲ストキハ權利者ニ對シ第十一號書式ノ差押通知書ヲ發スヘシ



第二號書式

納額通告知書

第何號	何市町村分
何年度	稅何
何年度	稅(項) 何年月何日限
大藏省	管何 企庫 役
一金何程	何年何期分 稅(目)
右通知候也	
明治何年何月何日	何稅務署長 官氏名園

備考  
 一 領收證書及通知書用紙ノ金額年度科目等ハ總テ納稅告知書發行者ニ於テ記入スルモノトス  
 二 出納區域内ニ在ラサル金額ヲ指定シタルトキハ稅務署名ニ府縣名ヲ冠記スルモノトス  
 三 酒造稅ニ付テハ本署中何年何期分トアルヲ何年度何期分トスルモノトス  
 四 收稅官吏本署ニ依リ稅金ヲ領收スルトキハ明治二十六年大藏省令第三十二號ノ現金領收證書ヲ發行スルコトヲ要セス  
 五 收稅官吏ニ於テ稅金ノ領收ヲ爲ストキハ督促手帳料、延滞金ノ收入ヲ要スルモノアルトキハ本署中ニ科目金額ヲ註記シ第九號書式ノ納付書ヲ省時スルコトヲ得但シ所屬年度ヲ異ニスルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 六 收稅官吏ニ於テ領收ヲ爲ストキハ本署式納稅告知書中餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省時スルコトヲ得

第三號書式

納稅告知書

用紙適宜(縦三寸五分 横二寸五分) 二枚接續

第何號	何市町村大字何番地 某納
何年度	稅何
一金何程	何年何期分 稅(目)
右何年何月何日限何役場(納付)	
明治何年何月何日	何市町村長 何 某園

備考  
 一 同一納期ノ畑租及雜地租ハ之ヲ並記スヘシ  
 二 一人別納額ノ通知ヲ要スル場合ニ於テハ一人別納額調查書ヲ添附スルモノトス但シ人員少キトキハ金額ノ左傍ニ記入スルモ妨ナシ

領收證書

第何號	何市町村大字何番地 某納
何年度	稅何
一金何程	何年何期分 稅(目)
明治何年何月何日領收	
(領收者 氏名) 園	

第四號書式

備考

- 一 市町村ニ於テ税金ノ取扱上必要アルトキハ領收證書ノ外ニ別符ヲ附スルモ妨ナシ
- 二 同一納期ノ租税及雜地租ハ之ヲ控記シ其ノ左傍ニ合計額ヲ掲記スルモノトス
- 三 收稅官吏本書ヲ以テ税金ヲ領收スルトキハ明治二十六年大藏省令第三十二號ノ現金領收證書ヲ發行スルコトヲ要セス
- 四 收稅官吏本書ヲ以テ税金ノ領收ヲ爲ストキ督促手帳料、延滞金ノ收入ヲ要スルモノアルトキハ科目金額ヲ控記シ第九號書式ノ納付書ヲ省略スルコトヲ得但シ所屬年度ヲ異ニスルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 五 收稅官吏ニ於テ領收ヲ爲ストキハ本書式納稅告知書中餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ捺印シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

用紙適宜 三寸五分 三枚接續

送付書

何年度	何市町村
大藏省主管	何稅務署
税金	租稅(項)
何年何期分	何稅(目)
右送付候也	
明治何年何月何日	

金庫 封印

納入濟書

何年度	何市町村
大藏省主管	何稅務署
税金	租稅(項)
何年何期分	何稅(目)
明治何年何月何日納入濟	
何金庫	

金庫 封印

領收證書

何年度	何市町村
税金	租稅(項)
何年何期分	何稅(目)
明治何年何月何日領收	
何金庫	

備考

一 納入濟書及領收證書用紙ノ金額年度科目等ハ總テ市町村ニ於テ記入スルモノトス

第五號書式

- 一 同一納期ノ畑租及雜地租ハ之ヲ並記シ其ノ左傍ニ合計額ヲ振記スルモノトス
- 二 出納區域内ニ在ラサル金庫ニ送付スルトキハ稅務署名ニ府縣名ヲ添記スルモノトス

明治何年何月何日

何郡市町村長 何 某 團

何稅務署長官氏名宛  
何年度第何期何稅(目)滯納報告書

稅 額 事 由	住 所	氏 名
1,000 何	何町村大字何番地	何
2,000 何	何郡市何町村大字何番地	何
3,000	何町村大字何番地	何 某某
計	何町村大字何番地	何 某某

備考

一 畑租雜地租ニ付テハ稅額欄ヲ畑租地計ノ三欄ニ區別シ記載スルモノトス

第六號書式

第 何 號	何 年 度 租	何 郡 市 何 町 村 大 字 何 番 地
何	何	何
何	何	何
何	何	何

何年何期分 稅(目)  
何 稅(目)  
督促手数料

第七號書式

狀
右何月何日限何金庫(又ハ何稅務署)ニ納付スヘシ若シ其ノ期限ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ財產差押ノ處分ヲ爲スヘシ
明治何年何月何日
何稅務署長 官氏名 團

備考

一 同一納期ノ畑租及雜地租ハ之ヲ並記スヘシ

第 何 號	何 年 度 租	何 郡 市 何 町 村 大 字 何 番 地
何	何	何
何	何	何
何	何	何

何年何期分 稅(目)  
何 稅(目)  
督促手数料  
延滞金

備考

- 一 同一納期ノ畑租及雜地租ハ之ヲ並記スヘシ
- 二 金庫ヲ指定シタルトキハ本文「納付スヘシ」ノ下ニ左ノ但書ヲ加フ  
「但シ同日ヲ經過シタルトキハ何稅務署ニ納付スルヲ要ス」



第八號書式

用紙適宜 縦四寸五分 三枚接續

納付書

何年 度	何 稅務署 租	何 稅 (項)
大藏省 主管	何 稅務署 租	何 稅 (項)
一金 何程	何年何期分	何 稅 (目)
明治何年何月何日		

金庫 割印

通知書

何年 度	何 稅務署 租	何 稅 (項)
大藏省 主管	何 稅務署 租	何 稅 (項)
一金 何程	何年何期分	何 稅 (目)
明治何年何月何日		

何金庫 割印

領收證書

何年 度	何 稅務署 租	何 稅 (項)
大藏省 主管	何 稅務署 租	何 稅 (項)
一金 何程	何年何期分	何 稅 (目)
明治何年何月何日		

金庫 割印

何金庫 割印

第九號書式

納

何年 度	何 稅務署 租	何 稅 (項)
大藏省 主管	何 稅務署 租	何 稅 (項)
税金	何年何期分	何 稅 (目)
明治何年何月何日		

用紙適宜 縦四寸五分 三枚接續

- 備考
- 一 同一納期ノ租税及雜地租ハ之ヲ記シ其ノ左傍ニ合計額ヲ掲記スルモノトス
  - 二 出納區域内ニ在ラサル金庫ニ納付セシムルトキハ納付書中何金庫ヘ納付スルコトヲ承認スト記入シ稅務署印ヲ押捺シ且署名ニ府縣名ヲ冠記スルモノトス
  - 三 收稅官吏本署ニ依リ税金ヲ領收スルトキハ明治二十六年大藏省令第三十二號ノ現金領收證書ヲ發行スルコトヲ要セス
  - 四 收稅官吏ニ於テ領收ヲ爲ストキハ本署式納付書中餘白ニ領收清年月日ヲ記入シ檢印ヲ爲シ領收清通知書ヲ省略スルコトヲ得

付書

一金何程	手數料
一金何程	延滞金
明治何年何月何日	

金庫 割印

通知書

何年度	何郡市何町村大字何番地	某納
大藏省主管	何稅務署	雜收
入金	見許及手數料	入
一金何程	手數料	
一金何程	延滞金	
明治何年何月何日領收		
(又) 何金庫 何氏名 何氏名 何氏名		

金庫 割印

領收證書

何年度	何郡市何町村大字何番地	某納
一金何程	手數料	
一金何程	延滞金	
明治何年何月何日領收		
(又) 何金庫 何氏名 何氏名		

備考

- 一 出納區域内ニ在ラサル金庫ヘ納付セシムルトキハ納付書中ヘ「何金庫ヘ納付スルコトヲ承認ス」ト記入シ 稅務署印ヲ押捺シ且署名ニ府縣名ヲ冠記スルモノトス
- 二 收稅官吏本署ニ依リ督促手數料、延滞金ヲ領收スルトキハ明治二十六年大藏省令第三十二號ノ現金領收 證書ヲ發行スルコトヲ要セス
- 三 收稅官吏ニ於テ領收ヲ爲ストキハ本署式納付書中餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ檢印ヲ爲シ領收濟通知書 ヲ省略スルコトヲ得
- 四 督促手數料、延滞金ニシテ租稅ト所屬年度ノ同一ナルモノハ第八號舊式納付書中ニ科目及金額ヲ註記兼 用シ本署式ノ納付書ヲ省略スルコトヲ得

第十號書式 債權差押通知書

何府縣何郡市何町村大字何番地 債權者 何

何府縣何郡市何町村大字何番地 債務者 何

右債権者ノ消納ニ係ル何税金何程督促手数料、延滞金及滞納處分共金何程徴收ノ爲明治何年何月何日債権者ヨリ支拂フヘキ何  
々金何程(又ハ金何程ノ内金何程)ヲ差押フルニ付明治何年何月何日迄ニ本官ニ支拂フヘキモノトス  
此ノ通知ヲ受ケタル後債権者ニ對シ支拂ヲ爲スモ其ノ支拂ハ無効タルヘシ  
右通知候也

何税務署長  
官 氏 名 園

明治何年何月何日  
何府縣何郡市何町村大字何何番地

何 某 宛

備考

第十一號書式

何々權差押通知書

一 差押財産權ノ表示  
(名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項)  
何年度何税何期分消納金何程督促手数料及延滞金何程徴收ノ爲前記ノ財産ヲ差押フルモノ也  
右通知ス

何税務署長  
官 氏 名 園

明治何年何月何日  
何府縣何郡市何町村大字何何番地

(權利者) 何 某 宛

第十二號書式

差押調書

何府縣何郡市何町村大字何何番地  
消納者 何 某

一 差押財産ノ表示  
(名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項)  
右何年度何税何期分消納金何程督促手数料、延滞金何程徴收ノ爲何月何日(本人)又ハ本人不在ニ付何某(立會人)上(前記ノ財産)ヲ差押フルモノ也

何税務署長  
官 氏 名 園  
立會人 何 某

明治何年何月何日何所ニテ此ノ調書ヲ作ル

備考

第十三號書式

送達書

送達シタル書名通致	
名宛人ノ住所又ハ居所及氏名	
受取人ノ署名捺印	
送達シタル年月日	
受取人ナキトキ又ハ受取人受取若ハ署名捺印ヲ拒ミタルトキハ其ノ理由	
右ノ通取扱候也	

使丁 何 某

第十四號書式

計算書

種目	收入		支出	
	金額	種目	金額	種目
通貨	10000	督促手数料	1000	
何々公賣代	32000	延滞金	200	
何々公賣代	10000	滞納處分費	1000	
		交付(優先債者)	10000	
		交付金	10000	
		債權者へ交付	5000	
		滞納者へ還付	5000	
計	50000	計	50000	

右ノ通帳也

明治何年何月何日

何税務長 官氏名圖

〔参照〕

大藏省令第十號國稅徵收法施行細則(明治三十年六月二十六日)抄録  
 第六條ノ一 税金納付ノ督促ヲ爲ストキハ稅務長ハ第六號書式ノ督促狀ヲ發スヘシ  
 前項ノ督促ヲ爲ス場合ニ於テ金庫ニ納付セシムルトキハ第七號書式ノ納付書ヲ添付スヘシ但シ稅務長ノ納  
 稅告知書ヲ發シタル税金ニ係ルトキハ第七號書式ノ納付書ヲ添付スルヲ要セス

納税人督促ヲ受ケ税金及督促手数料ヲ收稅官吏ニ納付スヘキトキハ納稅告知書ヲ添付シ金庫ニ納付スヘキトキハ納稅告知書及納付書ヲ添付スヘシ但シ金庫ニ納付スヘキ場合ニ於テ市町村ノ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ納稅告知書ヲ添付スルコトヲ要セス

第六條ノ二 前條督促狀ニ記載スヘキ納付場所ヲ稅務署ト指定シタル場合ニ於テ市町村ノ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ收稅官吏ハ市町村ノ發シタル納稅告知書ヲ以テ税金ヲ領收スルコトヲ得

第八條 納税人ハ指定ノ納付場所以外ノ地ニ於テ納稅スルヲ便トスルトキハ稅務署又ハ稅務支署ニ申付シテ納付場所ノ變更ヲ求ムルコトヲ得

第十條 收稅官吏債權ノ差押ヲ爲ストキハ債權者ニ對シ第九號書式ノ債權差押通知書ヲ發スヘシ

○大藏省令第四十二號  
 明治四十一年七月大藏省令第三十五號專賣局現業員共濟組合規則中左ノ通改正シ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十二月二十二日  
 大藏大臣 山本達雄

第十二條中「六種」トアルヲ「七種」ニ改メ第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第四號ヲ第五號トシ以下順次繰下ク

四 疾病給與金  
 第十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

組合員職務ニ基由セサル傷痍若ハ疾病ニ因リ六日以上就業スルコト能ハサルトキハ組合員トナリタル後二年ヲ經過シタル者ニ限リ疾病給與金ヲ給與ス

第十五條中第一項第一號ヲ削リ第二號ヲ第一號ニ第三號ヲ第二號ニ改メ第二項ヲ削ル

第二十五條第一項中「職務ノ爲」ヲ削リ同項ニ左ノ但書ヲ加フ  
 但シ職務ニ基由セサル傷痍若ハ疾病ニ因リ休養五日ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

同條第二項第三項ヲ左ノ如ク改ム  
 組合員傷痍疾病分宛又ハ死亡ノ場合ニ於テハ本人又ハ其ノ家族ハ主管支部局若ハ支所ノ監檢又

ハ診療ヲ拒ムコトヲ得ス  
前二項ノ規定ハ本人又ハ其ノ家族カ當該救濟金ヲ受領セサル意思ヲ表示シタル場合ニ之ヲ適用セス

〔参照〕

大藏省令第三十五號 實務局現業員共済組合規則(明治四十一年七月十五日)抄録  
第十五條第一項

一 組合員トナリタル後六箇月ヲ經過セサルトキハ脱退給與金ノミヲ給與ス  
同條第二項

贈與上ノ關係者ハ疾病ニ因リ死亡シタル場合ニ於テハ組合員トナリタル後六箇月ヲ經過セサルトキト雖死亡給與金ヲ給與ス

第二十五條 組合員死亡シ、職務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ分擔シタル場合ニ於テハ本人又ハ其ノ家族ヨリ直ニ之ヲ主管支部局長若ハ支所長ニ申告スヘシ

組合員職務ノ爲傷疾ヲ受ケタル場合ニ於テハ主管支部局長若ハ支所ノ囑託醫ノ診察又ハ治療ヲ拒ムコトヲ得ス  
組合員死亡 疾病又ハ分擔ノ場合ニ於テハ本人又ハ其ノ家族ハ主管支部局長若ハ支所ノ囑託醫ノ診察又ハ治療ヲ拒ムコトヲ得ス

○大藏省令第四十三號

朝鮮總督府特別會計規則ニ據リ同會計ニ要スル府郡歲入徵收官ノ徵收簿ハ明治三十一年大藏省訓令第十一號徵收簿ノ様式ニ依ル

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
但シ明治四十四年度分ニ限リ現在ノ帳簿ヲ繼續使用スルコトヲ得

明治四十四年十二月二十七日

大藏大臣 山本達雄

○陸軍省令第十五號(官報 十二月一日)

臨時清國派遣ノ部隊ニ屬スル輜重輸卒ハ内地歸着後除隊ノ日迄其ノ在營期間ヲ延期ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十一月三十日

陸軍大臣 男爵石本新六

○陸軍省令第十六號

陸軍軍人服役令施行規則左ノ通定ム

明治四十四年十二月十一日

陸軍大臣 男爵石本新六

陸軍軍人服役令施行規則

第一章 總則

第一條 現役ヨリ豫備役後備役若ハ補充兵役ニ入り又ハ待命休職停職若ハ歸休ヲ命ゼンレタル者ニシテ轉役ノ日又ハ待命休職停職若ハ歸休ヲ命セラレタル日ヨリ十四日以内(朝鮮駐留時本清國在リテハ二十日以内)ニ本籍地ニ歸郷セサルトキハ本籍地市區町村ニ於テ召集其ノ他軍衙ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ連署ヲ以テ同期日以内ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第二條 待命休職停職ノ將校准士官豫備役後備役將校准士官下士兵卒、歸休兵又ハ補充兵役ニ在ル者十四日以上本籍地外ニ旅行、滞在若ハ寄留又ハ外國ニ旅行若ハ在留スルトキハ前條ニ準ヒ通報人ヲ定メ出發前連署ヲ以テ其ノ行先ト共ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

外國ニ旅行又ハ在留スル爲前項ノ届出ヲ爲シタル者其ノ届出ノ日ヨリ十四日以内ニ内地ヲ離レサルトキハ同期日以内ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第三條 前二條ニ依リ届出タル通報人死亡其ノ他ノ事故ニ依リ變更ヲ要スルトキハ第一條ニ準ヒ

通報人ヲ定メ連署ヲ以テ十四日以内ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四條 待命休職停職ノ將校准士官豫備役後備役將校准士官下士兵卒、歸休兵又ハ補充兵役ニ在ル者ニシテ旅行、滞在、寄留又ハ外國ニ在留シタル者本籍地ニ復歸シタルトキ又ハ寄留地ヲ變更シタルトキハ十四日以内ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

外國ヨリ歸朝シタル者内地歸著ノ日ヨリ十四日以内ニ本籍地ニ復歸セサルトキハ同期日以内ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第五條 待命休職停職豫備役後備役將校十四日以上本籍地外ノ聯隊區ニ滞在又ハ寄留スルトキハ十四日以内ニ滞在又ハ寄留地市區町村長及島司郡長ヲ經テ寄留地又ハ滞在在所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前項ニ該ル者同一聯隊區内ニ於テ滞在地若ハ寄留地ヲ變更シ又ハ寄留若ハ滞在ノ聯隊區ヲ退去シタルトキハ十四日以内ニ前項ニ準シ届出ヘシ

前二項及第十一條ノ規定ハ待命休職停職豫備役後備役將校ニシテ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ滿洲ニ在留シ又ハ在留地ヲ變更シ若ハ退去スル者ニ之ヲ準用ス

第六條 本籍地外ノ聯隊區ニ寄留スル豫備役後備役將校准士官下士兵卒、歸休兵又ハ補充兵役ニ在ル者ニシテ其ノ地附近ノ軍隊ニ於テ勤務演習ヲ爲サントスル者ハ毎年三月一日迄ニ將官佐官ニ在リテハ本籍地所管ノ師團長其ノ他ニ在リテハ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ願出テ許可ヲ受ケルヘシ

豫備役後備役下士兵卒、歸休兵又ハ補充兵役ニ在ル者ニシテ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受ケルトスル者ハ毎年四月一日迄ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ願出テ許可ヲ受ケルヘシ

前二項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ許可ノ取消ヲ本籍地所管ノ師團長又ハ聯隊區司令官ニ願出ルトキハ本籍地ニ於ケル勤務演習又ハ簡閱點呼開始前ニ限リ之ヲ許可スルコトヲ得

第一項第二項ノ願書ハ下士兵卒ニ在リテハ本籍地市區町村長ノ與書證印ヲ要スルモノトス

第七條 前條第一項第二項ノ許可ヲ受ケタル者ハ寄留換ヲ爲シ又ハ本籍地ニ復歸スルモ同條第三項ノ許可ヲ受ケタル者ヲ除クノ外其ノ許可ヲ受ケタル地ニ於テ勤務演習ヲ爲シ又ハ簡閱點呼ヲ受ケルモノトス

第八條 第六條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ年四月一日迄ニ、本籍地外ノ聯隊區ニ寄留シ第六條第二項ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ年五月一日迄ニ其ノ官ヲ寄留地市區町村長及島司郡長ヲ經テ寄留地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

本籍地外ノ聯隊區ニ寄留シタル者第六條第三項ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ニ準シ述ニ其ノ官ヲ前項ノ届出ヲ爲シタル聯隊區司令官ニ届出ヘシ

師團長又ハ聯隊區司令官第六條第一項ノ願ヲ許可シタルトキハ本籍、徵集年、役種、官等級氏名、豫備役後備役編入年、現官ニ任セラレタル年月、當テ勤務演習ヲ爲シタル年月、特業又ハ適任證書ヲ有スル者ニ在リテハ其ノ種類其ノ他必要ノ事項ヲ記シ第六條第二項及第三項ノ願ヲ許可シタルトキハ本籍、徵集年、役種、官等級氏名ヲ記シ之ヲ第一項又ハ第二項ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第九條 本籍地外ノ聯隊區ニ寄留シ第六條第一項第二項ノ許可ヲ受ケタル者寄留換ヲ爲シ又ハ本籍地ニ復歸シ第四條ノ届出ヲ爲シタルトキハ聯隊區司令官之ヲ前寄留地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第十條 豫備役後備役將校准士官下士兵卒、歸休兵及補充兵役ニ在ル者ニシテ寄留地ニ於テ勤務演習ヲ爲スノ許可ヲ受ケタル者十四日以上其ノ地以外ニ旅行又ハ滞在スルトキハ寄留地市區町村ニ於テ勤務演習ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ル者ヲ定メ出發前ニ連署ヲ以テ其ノ行先ト共ニ寄留地市區町村長及島司郡長ヲ經テ寄留地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ其ノ本籍地ニ

復歸シ又ハ寄留換ヲ爲シ從前ノ寄留地ニ於テ勤務演習ヲ爲スヘキトキ亦同シ  
 前項ニ依リ届出タル通報人死亡其ノ他ノ事故ニ依リ變更ヲ要スルトキハ前項ニ準シ通報人ヲ定  
 メ十四日以内ニ寄留地市區町村長及島司郡長ヲ經テ寄留地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ  
 第一項ノ届出ヲ爲シタル者寄留地ニ歸還シタルトキハ十四日以内ニ寄留地市區町村長及島司郡  
 長ヲ經テ寄留地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ  
 前三項ノ規定ハ豫備役後備役下士兵卒、歸休兵又ハ補充兵役ニ在ル者ニシテ寄留地ニ於テ簡閱  
 點呼ヲ受クルノ許可ヲ得タル者ニ之ヲ準用ス  
 第十一條 本籍地外ノ聯隊區ニ寄留スル待命休職停職豫備役後備役將校及寄留地ニ於テ勤務演習  
 ヲ爲シ又ハ簡閱點呼ヲ受クル許可ヲ得タル豫備役後備役下士兵卒、歸休兵又ハ補充兵役  
 ニ在ル者ニ係ル必要ノ事項ハ本籍地所管ノ聯隊區司令官ヨリ寄留地所管ノ聯隊區司令官ニ通  
 報スヘシ  
 第十二條 待命休職停職ノ將校准士官、豫備役後備役將校准士官下士兵卒、歸休兵又ハ補充兵役ニ  
 在ル者ニシテ氏名ヲ變更シタルトキハ十四日以内ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ  
 第十三條 待命休職停職ノ將校准士官、豫備役後備役將校准士官下士兵卒、歸休兵又ハ補充兵役ニ  
 在ル者ニシテ死亡シ又ハ所在不明ト爲リタルトキハ其ノ戸主本人戸主ナレハ家族中家ヨリ十四日以内ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシノ戸主本人戸主ナレハ家族中家ヨリ十四日以内ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシノ戸主トシテ亦前項ニ同シ  
 第一項ノ届出ニハ所在不明ノ場合ニ在リテハ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添附スヘシ  
 家族ナキ者ニシテ第一項又ハ第二項ノ事故生シタルトキハ本籍地所管ノ市區町村長ヨリ聯隊區  
 司令官ニ通報スヘシ

第十四條 待命休職停職ノ將校准士官、豫備役後備役將校准士官下士兵卒、歸休兵又ハ補充兵役ニ  
 在ル者ニシテ轉籍シタルトキハ十四日以内ニ轉籍地ノ市區町村長及島司郡長ヲ經テ轉籍地所管  
 ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ  
 所在不明ノ轉籍シタルトキハ前項ニ準シ戸主ヨリ届出ヘシ  
 前二項ノ場合ニ於テ他ノ聯隊區ヨリ轉籍シタル者ニ付テハ聯隊區司令官ヨリ舊本籍地所管ノ聯  
 隊區司令官ニ通報スヘシ  
 聯隊區司令官同一聯隊區内ニ於ケル轉籍ノ届出又ハ前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ舊本籍地  
 市區町村長ニ通報スヘシ  
 第十五條 待命休職停職ノ將校准士官、豫備役後備役將校准士官下士兵卒、歸休兵又ハ補充兵役ニ  
 在ル者ニシテ刑法、陸軍刑法若ハ其ノ他ノ法令ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ罪名、刑期  
 若ハ罰金料ノ金額並刑ノ執行猶豫ニ關スル事項、勳章ヲ授ケラレタルトキハ其ノ勳章功級  
 ヲ本籍地市區町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通報スヘシ  
 第十六條 豫備役後備役將校准士官下士兵卒、歸休兵又ハ補充兵役ニ在ル者ニシテ已ムコト得サル  
 事故アリ勤務演習召集ノ猶豫ヲ願フ者ハ其ノ事實ヲ證明シ將官佐官ニ在リテハ本籍地所管ノ師  
 團長、其ノ他ニ在リテハ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出テ許可ヲ受クヘシ但シ下士兵卒ニ在  
 リテハ願書ニ本籍地市區町村長ノ與書證明ヲ受クヘシ  
 聯隊區司令官前項ノ願ヲ許可セムトスルトキハ師團長ノ認可ヲ受クヘシ  
 豫備役後備役下士兵卒、歸休兵又ハ補充兵役ニ在ル者已ムコト得サル事故アリ簡閱點呼ノ免除ヲ  
 願ハムトスルトキ亦前二項ニ同シ  
 師團長又ハ聯隊區司令官寄留地ニ於テ勤務演習ヲ爲シ又ハ簡閱點呼ヲ受クヘキ者ニ對シ第一項  
 又ハ第三項ノ願ヲ許可シタルトキハ將官佐官ノ勤務演習ニ在リテハ寄留地所管ノ師團長、其ノ

他ニ在リテハ寄留地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第十七條 陸軍軍人服役令第五條ニ依リ勤務演習又ハ簡閱點呼免除ノ認可ヲ受ケタル者ハ當該官  
勤務演習又ハ簡閱點呼免除ノ認可ヲ受ケタル者其ノ免除ヲ爲スヘキ事故止ミタルトキ亦前項ニ  
同シ

第十八條 豫備役後備役將校准士官下士兵卒又ハ補充兵役ニ在ル者ニシテ市町村長、助役、收入役  
其ノ他之ニ準スヘキ者又ハ帝國議會、府縣會、郡會、市町村會共ノ他之ニ準スヘキモノノ議員ト  
爲リ勤務演習及簡閱點呼ヲ免セラルヘキ者ハ之ニ就キタル日ヨリ十四日以内ニ本籍地所管ノ聯  
隊區司令官ニ届出ヘシ其ノ事故止ミタルトキ亦同シ

第十九條 豫備役後備役將校准士官下士兵卒又ハ補充兵役ニ在ル者ニシテ朝鮮、臺灣、樺太、關東州  
又ハ滿洲ニ在留スル者及歸休兵ニシテ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ在留スル者ハ願ニ依リ其ノ地附近  
ノ軍隊ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

豫備役後備役下士兵卒及補充兵役ニ在ル者ニシテ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ滿洲ニ在留スル者  
又ハ歸休兵ニシテ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ在留スル者ハ願ニ依リ其ノ地附近ニ於テ簡閱點呼ヲ受  
クルコトヲ得

第六條乃至第十一條ノ規定ハ前二項ニ依リ勤務演習又ハ簡閱點呼ヲ受クル者ニ付之ヲ準用ス

第二十條 待命休職停職ノ將校准士官ヲ就職セシメ又ハ豫備役後備役將校准士官下士兵卒ヲ召集  
ニ依ラス部隊ノ要員ニ採用シタルトキハ當該部隊長ヨリ本人本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報  
スヘシ

第二十一條 聯隊區司令官ハ待命休職停職豫備役後備役將校准士官ニ關シ願出、届出又ハ通報ヲ  
受ケタル事項ハ必要ニ應ジ之ヲ所管師團長ニ報告スヘシ

第二十二條 本規則中將校ニ關スル規定ハ將校相當官ニ之ヲ準用ス

第二十三條 本規則中別ニ規定アルモノヲ除クノ外陸軍大臣ニ差出ス願届書ハ本籍地所管ノ師團  
長ヲ經由シ、本籍地所管ノ師團長ニ差出シ又ハ同官ヲ經由スル願届書ハ本籍地所管ノ聯隊區司  
令官ヲ經由シ、本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ差出シ又ハ同官ヲ經由スル願届書ハ本籍地ノ島司郡  
市區長ヲ經由シ、本籍地ノ島司郡長ヲ經由スル願届書ハ町村ニ在リテハ本籍地町村長ヲ經由ス  
ヘキモノトス但シ部隊在職ノ者ヨリ陸軍大臣又ハ師團長ニ差出ス願届書ハ直屬長官ニ差出シ願  
序ヲ經テ上申スルモノトス

第二十四條 聯隊區司令官ヨリ町村長ニ通報シ及町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通報スルモノハ當該  
町村長所管ノ島司郡長ヲ經由スヘシ

第二十五條 本規則中聯隊區トアルハ對馬及沖繩縣ニ在リテハ警備隊區、聯隊區司令官トアルハ  
對馬警備隊區ニ在リテハ警備隊司令官、沖繩警備隊區ニ在リテハ警備隊區司令官、郡長トアルハ  
北海道ニ在リテハ支廳長、町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ戶長其ノ他町村長  
ニ準スヘキ者ニ該當ス

第五條第三項及第十九條ノ場合ニ於テ寄留地所管ノ聯隊區司令官又ハ寄留地市區町村長トアル  
ハ朝鮮ニ在リテハ駐節師團長又ハ憲兵隊長若ハ憲兵分隊長、臺灣ニ在リテハ臺灣守備隊司令官  
又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太守備隊司令官又ハ支廳長、關東州又ハ滿洲ニ在リテハ駐節師團長  
又ハ民政署長若ハ領事官ニ該當ス

第二章 將校及准士官

第二十六條 現役豫備役後備役將校准士官傷病又ハ疾病ニ依リ職務又ハ永久服役ニ堪ヘサルトキ  
ハ在職陸軍軍醫ノ診斷書若ハ醫師ノ病況書ヲ添ヘ現役ノ者ニ在リテハ休職又ハ退役ヲ、豫備役  
後備役ノ者ニ在リテハ退役ヲ陸軍大臣ニ願出ヘシ



第二十七條 將校准士官ニシテ傷疾又ハ疾病ニ依リ休職ト爲リタル者全愈シタルトキハ在職陸軍軍醫ノ診斷書若ハ醫師ノ病況書ヲ添ヘ陸軍大臣ニ届出ヘシ

第二十八條 後備役將校ニシテ滿期後引續キ服役セムトスル者ハ年數ヲ定メ滿期一月前迄ニ陸軍大臣ニ願出ヘシ但シ現役年限年數ニ滿ツル年ヨリ第十一年目ノ三月三十一日迄ヲ限トス

後備役准士官ニシテ滿期後引續キ服役セムトスル者ハ年數ヲ定メ滿期一月前迄ニ所管師團長ニ願出ヘシ但シ陸軍軍人服役令第二十四條第一號ニ該ル者ニ在リテハ現役年限年數ニ滿ツル年ヨリ第十六年目、同條第二號ニ該ル者ニ在リテハ第十一年目ノ三月三十一日迄ヲ限トス

第三章 下士

第一款 現役

第二十九條 陸軍軍人服役令第三十六條ニ依ル下士再服役ノ期間ハ毎回一年以上トス

第三十條 前條ノ再服役ハ所屬中隊長（連長分隊ニ在リテハ分隊長、隊長及ニ願出テ該中隊長ハ順序ヲ經テ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ許可スヘシ但シ諸本部官衙學校ニ在リテハ直屬長官ニ願出ヘシ直屬長官聯隊長ト同等以上ノ權ナキトキハ聯隊長ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ許可スヘシ）再服役許可ニ付テハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ當該經理部長、軍醫部長又ハ獸醫部長ニ協議スヘシ

第三十一條 再服役ノ許可ヲ得タル下士ニシテ已ムコト得サル事故アルトキハ中隊長又ハ直屬長官ハ本人ノ願ニ依リ前條ノ手續ニ準シ再服役ノ年月ヲ短縮スルコトヲ得但シ毎回一年以下ニ短縮スルコトヲ得ス

前項ノ願ハ少クモ現役ヲ退カムトスル二月前前條ノ規定ニ準シ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十二條 再服役ノ許可ヲ得タル下士ニシテ軍紀ヲ紊リ又ハ品行不正ニシテ現役下士タルヲ得スト認ムルトキハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第三十三條 再服役許可ノ後轉隊又ハ轉職シタルトキハ其ノ再服役期限ヲ舊所屬ノ中隊長又ハ直屬長官ヨリ新所屬ノ中隊長又ハ直屬長官ニ通報スヘシ

第三十四條 陸軍軍人服役令第三十七條ニ依リ現役免除ヲ願出ル者ハ其ノ事故父兄ノ癡疾不具等ノ場合ニ在リテハ在職陸軍軍醫ノ診斷書又ハ醫師ノ病況書、其ノ他ノ場合ニ在リテハ居住地市區町村長ノ證明書ヲ添ヘ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ願出ヘシ

第三十五條 現役下士ニシテ現役滿期後直ニ第一國民兵役ニ入ルヘキ者陸軍軍人服役令第十條ニ依リ後備役ニ服セムトスル者ハ年數ヲ定メ現役滿期ノ際聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ願出ヘシ但シ四十五歳ト爲ル年ノ三月三十一日迄ヲ限トス

第三十六條 陸軍軍人服役令第三十七條乃至第三十九條ニ該ル者アルトキハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ受ケ現役、現役後備役及後備役又ハ兵役ヲ免ス但シ師團長及之ト同等以上ノ權アル長官ニ在リテハ自ラ之ヲ處分ス

第二款 豫備役及後備役

第三十七條 豫備役後備役下士ニシテ陸軍補充令ノ規定ニ依リ現役下士ト爲ル資格アル者ハ現役滿期後二年以内ニ於テ更ニ現役ヲ志願スルコトヲ得

第三十八條 前條ニ依リ服役セムトスル者ハ願書ニ原所屬部隊、現官任命及現役滿期ノ年月日、現役ニ服シタル年數、現役滿期後ノ職業、並服役セムトスル部隊等ヲ記シ本籍地所管ノ市區町村長及聯隊區司令官ヲ經テ服役セムトスル部隊長ニ差出スヘシ

前項ノ願書ニハ市區町村長與書證印ヲ爲シ聯隊區司令官ハ本人在郷中ノ事項ニ關シ意見ヲ添附シ之ヲ服役セムトスル部隊長ニ送付スヘシ但シ原所屬部隊外ニ服役セムトスル者ニ在リテハ聯隊區司令官其ノ願書ヲ原所屬部隊長ニ送付シ原所屬部隊長ハ現役中ニ於ケル勤務及品行ニ關シ意見ヲ添附シ之ヲ服役セムトスル部隊長ニ送付スヘシ

第三十九條 第三十七條ニ依リ現役ニ服スルコトヲ許可シタルトキハ當該部隊長ヨリ十四日以内ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第四十條 後備役下士滿期後引續キ服役セムトスルトキハ年數ヲ定メ滿期一月前迄ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ願出ヘシ但シ部隊編入中ノ者ニ在リテハ第三十五條ノ規定ニ準ス

前項ニ依リ服役ハ四十五歳ト爲ル年ノ三月三十一日迄ヲ限トス

第四十一條 豫備役後備役下士在郷中傷疾又ハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘサルトキハ在職陸軍軍醫ノ診斷書若ハ醫師ノ病況書ヲ添ヘ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ聯隊區司令官ハ之ヲ審査シ師團長ノ認可ヲ受ケ共ノ兵役ヲ免スルモノトス

豫備役後備役下士部隊編入中傷疾又ハ疾病ニ依リ豫備役後備役ニ堪ヘス又ハ永久服役ニ堪ヘサルトキハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官第三十六條ノ例ニ依リ處分シ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第四章 兵卒

第一款 現役

第四十二條 騎砲工輜重兵科ノ兵卒<sup>除ク</sup>及縫工卒靴工卒ニシテ下士タルノ技能ヲ有スル者ハ現役滿期ノ後一年間現役トシテ在營ヲ志願スルコトヲ得

步兵科兵卒、電信隊附工兵科兵卒及衛生部兵卒ニシテ下士タルノ技能ヲ有スル者ハ在營期限滿

ツルノ後二年間現役トシテ在營ヲ志願スルコトヲ得

警備隊上等兵同上等看護卒中下士タルノ技能ヲ有スル者ハ現役期限滿ツル迄在營ヲ志願スルコトヲ得

第一項乃至第三項ノ許可ヲ得タル者ニシテ補充上ノ關係ニ依リ下士ニ任スヘキ見込ナキトキハ願ニ依リ在營志願ノ取消ヲ許スコトアルヘシ

前諸項ニ依リ願ヲ許スルハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ於テス

第四十三條 憲兵上等兵樂手補ハ現役滿期ノ後現役年限年齢ニ滿ツル迄數次再服役ヲ爲スコトヲ得但シ再服役年期ハ一年以上トス

警備隊現役兵中上等兵上等看護卒及上等兵タルノ技能ヲ有スル者ハ在營期限滿ツルノ後一年間在營ヲ志願スルコトヲ得

第四十四條 第三十條乃至第三十三條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 陸軍軍人服役令第五十六條ニ依リ現役ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ同徵募區内現役兵ノ戸主<sup>在營兵上等兵樂手補ニ</sup>二人ノ保證書ヲ添ヘ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但シ町村ニ於テハ町村長ノ與書證印ヲ受ケヘキモノトス

島司郡市區長ハ前項願出ノ事實ヲ調査シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官ニ送付シ聯隊區司令官ハ之ニ意見ヲ附シ本人所屬ノ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ移スヘシ

第四十六條 歸休兵在郷中傷疾又ハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘサルトキハ在職陸軍軍醫ノ診斷書若ハ醫師ノ病況書ヲ添ヘ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四十七條 陸軍軍人服役令第五十六條第五十七條ニ該ル者アルトキハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ受ケ現役、現役豫備役及後備役又ハ兵役ヲ免ス

陸軍軍人服役令第六十二條ニ依リ歸休兵ノ兵役ヲ免スルハ師團長ノ認可ヲ受ケ聯隊區司令官ニ於テス但シ部隊編入中陸軍軍人服役令第五十七條ニ該ル者ニ在リテハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官第一項ノ例ニ依リ處分シ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第四十八條 歸休兵現役滿期ニ至リタルトキハ別命ナク豫備役ニ入ルモノトス

第四十九條 歸休兵ハ官廳ニ奉職スルノ故ヲ以テ召集又ハ簡閱點呼ヲ猶豫又ハ免除スルコトナシ

第五十條 歸休兵ハ外國ニ旅行又ハ在留スルコトヲ得ス

第五十一條 陸軍軍人服役令第六十條ニ依リ歸休兵ニハ第六條第十六條及第十九條ヲ適用セス但シ臺灣ノ軍隊ニ在リテ陸軍軍人服役令第六十條ニ依リ歸休ヲ命セラレ臺灣ニ居住スル者ニ限リ臺灣ニ於テ勤務演習ヲ爲シ又ハ簡閱點呼ヲ受ケルコトヲ得

第五十二條 歸休ヲ命セラレタル上等兵又ハ之ト同等階級ノ者ニシテ下士適任證書ヲ有シ陸軍補充令ノ規定ニ依リ充テ規定ニ依リ現役下士ト爲ル資格アル者ハ歸休中現役下士ヲ志願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十八條及第三十九條ヲ準用ス

第五十三條 豫備役上等兵及之ト同等階級ノ者ニシテ下士適任證書ヲ有シ陸軍補充令ノ規定ニ依リ現役下士ト爲ル資格アル者ハ現役期限滿ツル後二年以内ニ歸休ヲ命セラレ豫備役ニ入りニ於テ現役下士ヲ志願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十八條及第三十九條ヲ準用ス

第五十四條 豫備役後備役兵卒服役滿期ニ至リタルトキハ別命ナク豫備役ノ者ハ後備役、後備役ノ者ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第五十五條 後備役兵卒ニシテ下士適任證書ヲ有スル者ハ滿期後引續キ服役スルコトヲ得前項ノ志願者ハ年數ヲ定メ滿期一月前迄ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ願出ヘシ但シ部隊編入中ノ者ニ在リテハ第三十五條ノ規定ニ準ス

第二款 豫備役及後備役

第五十六條 豫備役後備役兵卒ニシテ在郷中傷痍又ハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘサルトキハ在職陸軍軍醫ノ診斷書又ハ醫師ノ病況書ヲ添ヘ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ前項ノ届出アリタルトキハ聯隊區司令官之ヲ審査シ師團長ノ認可ヲ受ケ其ノ兵役ヲ免ス豫備役後備役兵卒ニシテ部隊編入中傷痍又ハ疾病ニ依リ豫備役及後備役又ハ永久服役ニ堪ヘサルトキハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官第三十六條ノ例ニ依リ處分シ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第三款 補充兵役

第五十七條 補充兵役ニ在ル者在郷中傷痍又ハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘサルトキハ在職陸軍軍醫ノ診斷書又ハ醫師ノ病況書ヲ添ヘ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ前項ノ届出アリタルトキハ聯隊長ノ認可ヲ受ケ其ノ兵役ヲ免ス

第五十八條 補充兵役ニ在ル者服役滿期ニ至リタルトキハ別命ナク召集セラレタル者ハ第一國民兵役ニ入り其ノ他ノ者ハ第二國民兵役ニ入ルモノトス

第五十九條 關東州及滿洲以外ノ外國ニ在ル者ハ勤務演習及簡閱點呼ヲ行ハス

第六十條 戰時又ハ事變ノ際第三十七條、第五十二條及第五十三條ニ該ル者部隊編入中ナルトキハ當該部隊ニ服務セムトスル場合ニ限リ現役ヲ志願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十條及第三十九條ヲ準用ス

第六十一條 正當ノ事由ナク第一條、第二條第一項、第三條第十條第一項、第二項、第五十條又ハ之

ヲ準用シタル規定ニ違反シ又ハ自己ノ居所ヲ通報人ニ詳知セシメサル爲召集又ハ軍衙ノ命令ヲ  
 通報スルヲ得サルニ至ラシメタルトキハ十日以上ノ拘留又ハ五圓以上ノ科料ニ處ス  
 第六十二條 正當ノ事由ナク第二條第二項、第四條第五條第八條、第十條第三項、第十二條乃至第  
 十四條、第十八條又ハ之ヲ準用シタル規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ一圓以上ノ科料ニ處ス  
 附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 陸軍軍人服役令第六十條ニ依ル 歸休兵ヲ除クノ外當分ノ内臺灣ニ在留スル者ニ對シテハ簡閱點  
 呼、朝鮮、樺太、關東州又ハ滿洲ニ在留スル者ニ對シテハ勤務演習及簡閱點呼ヲ行ハス  
 第五十一條但書中簡閱點呼ニ關スル規定ハ當分ノ内之ヲ行ハス

○文部省令第三十二號

明治四十四年文部省令第四號小樽高等商業學校規程中左ノ通改正ス

明治四十四年十二月二十八日

文部大臣 長谷場純孝

第二條表中「商業文」「英語」ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

商業文	一	二
英語	一〇	一〇

同表中「工業大意」ノ欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

應用理化學	二
-------	---

同表欄外「露語及獨語」ヲ「露語、獨語及清語」ニ改ム  
 附則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○農商務省令第三十三號

蠶病豫防費國庫補助規則中左ノ通改正ス

明治四十四年十二月五日

農商務大臣 男爵牧野伸顯

第一條中「蠶病豫防法第十八條ニ規定スル」ヲ「蠶絲業法第二十六條ニ規定スル」蠶病豫防費ニ對ス  
 ルニ改ム

第五條中「年度經過後三箇月以内」ヲ「八月末日迄」ニ改ム

〔參照〕

農商務省令第六號蠶病豫防費國庫補助規則(明治四十年四月一日)抄録

第一條 蠶病豫防法第十八條ニ規定スル補助金ハ本則ニ依リ之ヲ交付ス

第五條 補助金ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ年度經過後三箇月以内ニ前年度經費決算書ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

○農商務省令第三十四號

明治四十一年農商務省令第一號蠶病豫防吏員檢定試驗規則ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年十二月九日

農商務大臣 男爵牧野伸顯

○遞信省令第四十七號

明治四十一年十月遞信省令第四十六號中左ノ通改正ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十二月九日

遞信大臣 伯爵林董

第一項ヲ左ノ通改ム

帝國海軍艦船ト帝國通信官署トノ間ニ發着スル無線電報(海軍用電報ニ限ル)ノ取扱ニ關シテハ場合ニ從  
 ヒ無線電報規則又ハ日清無線電報規則ヲ準用ス但シ海軍艦船ノ取扱ニ對スル船舶料及左記海岸

局ノ取扱ニ對スル海岸料ハ之ヲ課セス  
潮岬無線電信局 大瀬崎無線電信局

〔參照〕

逓信省令第四十六號(明治四十一年十月二十九日)抄録  
帝國海軍艦船ト帝國無線電信船船局及帝國内通信官署トノ間或帝國海軍艦船ト滿洲内帝國通信官署トノ間ニ寄スル無線  
電報(無線電報)ノ取扱ニ關シテハ無線電報規則及日清無線電報規則ヲ夫夫準用ス但シ海軍艦船ノ取扱ニ對スル船舶料及左  
記海岸局ノ取扱ニ對スル海岸料ハ之ヲ課セス  
潮岬無線電信局 大瀬崎無線電信局

○逓信省令第四十八號

本月二十五日ヨリ左ノ郵便切手帖二種ヲ發行ス

内國郵便用 三錢切手三十枚  
一錢五厘切手六十枚

一冊買價金九十錢  
一冊買價金九十錢

明治四十四年十二月二十二日

逓信大臣 伯爵林董

○逓信省令第四十九號

府縣稅納入郵便振替貯金特別取扱規則左ノ通定ス

明治四十四年十二月二十七日

逓信大臣 伯爵林董

府縣稅納入郵便振替貯金特別取扱規則

第一條 市町村ノ收納ニ係ル府縣稅ヲ府縣金庫ニ納入スル場合ニ於テ郵便振替貯金ノ方法ニ依ル  
トキハ郵便官署ハ本規則ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ特別取扱ヲ爲ス

前項ノ特別取扱ヲ受ケムトスルトキハ府縣知事ニ於テ豫メ共ノ加入セムトスル口座所管廳名  
加入金庫名及其ノ所在地等ヲ記載シタル申請書ニ取扱開始後一箇年間ニ於ケル納入度數及金額

ノ月別見込調書ヲ添ヘ所轄逓信管理局長ヲ經テ之ヲ逓信大臣ニ差出シ其ノ認可ヲ受ケヘシ  
第二條 市町村ニ於テ府縣稅納入ノ爲ニスル振替貯金ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ共ノ拂込書ノ  
表面看易キ箇所ニ府縣稅納入ノ旨ヲ附記スヘシ

前項ノ拂込書ニハ府縣稅ノ納入ニ關シ府縣知事ノ定メタル納付書共ノ他ノ必要ナル書類ヲ添附  
スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拂込書餘白ニ其ノ書類ノ名稱ヲ附記スヘシ

第三條 府縣稅納入ノ爲ニスル振替貯金ノ拂込ニ對シテハ加入金庫所在地ニ在ル指定郵便局ニ於  
テ各郵便局ノ取扱ニ係ルモノヲ取總メ之ニ合計票ヲ附シ拂込通知票及添附書類アルトキハ共ノ  
書類ト共ニ之ヲ加入金庫ニ送付ス

第四條 口座所管廳ニ於テ府縣稅納入ノ爲ニスル拂込金ヲ口座ニ登記シタルトキハ受拂通知票ニ前  
條ニ定メタル合計票ノ副本ヲ添ヘ之ヲ加入金庫ニ送付ス

第五條 府縣金庫ハ其ノ口座ノ貯金現在高ヲ限度トシ特ニ指定シタル郵便局ニ就キ所要金額ノ即  
時拂ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ受領證書用紙ノ雛形及受領者ノ印鑑ヲ指定郵便  
局ニ差出スヘシ

第六條 第二條ノ拂込金ニ對シテハ郵便振替貯金規則ノ定ムル所ニ依リ拂込料金及口座受入料金  
ヲ徴收ス

前條ノ即時拂ニ對シテハ一口ニ付一錢五厘ノ料金を徴收ス

第七條 府縣稅納入ノ爲ニスル郵便振替貯金ノ特別取扱ニ關シ本規則ニ定メタルモノノ外ハ郵便  
振替貯金規則ノ定ムル所ニ依ル

附則

本規則ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十二月 省令 逓信省第四十九號 府縣稅納入郵便振替貯金特別取扱規則

○逓信省令第五十號  
電氣計器檢定制左ノ通定ム

明治四十四年十二月二十八日

逓信大臣 伯齊林董

電氣計器檢定制規則

第一條 電氣計器型式ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ申請書第一號ニ同一ノ型式及容量ノ計器附屬器五箇並其ノ説明書及圖面ヲ添ヘ逓信省電氣局電氣試驗所ニ提出スヘシ

第二條 前條ノ説明書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 計器ノ構造及働作

(甲) 電動機型又ハ誘導型電氣計器ニ在リテハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- (イ) 電壓及電流捲線 (電機材料捲線、大サ及抵抗)
  - (ロ) 磁路材料
  - (ハ) 廻轉圓板及構造材料
  - (ニ) 車軸及軸承材料
  - (ホ) 制動磁石材料及取付方法
  - (ヘ) 相ノ調整裝置、重負荷及輕負荷ノ調整裝置並ニクローピング防禦裝置、調整材料及
  - (ト) キロワット時數又ハニアムヘア時數指示裝置、配置、構造及圖
  - (チ) 外函及端子函、材料及
  - (リ) 可動部分ノ緊束裝置、構造
  - (ヌ) 前記各部ノ動作ノ大要
- (乙) 前記以外ノ計器ニ在リテハ(イ)乃至(ヌ)ニ準シ記載スヘシ

二 同一型式計器ノ測定範圍 同一型式計器ニ規定スル電壓電流周波數及電氣方式四前各號以外ニ於テ特徴ト認ムヘキ事項

三 計器取扱上ノ注意

四 前條ノ圖面ハ左ノ二種トシテ用紙ニハ原圖紙分幅約七寸五ヲ用ウヘシ

一 計器電線接續圖

二 計器構造圖 (總尺四分ノ一)

第三條 承認ヲ經タル型式ノ一部分ヲ變更スル場合ト雖逓信大臣ニ於テ其ノ變更カ型式ノ主要部分ニ非スト認ムルモノニ限リ其ノ繼續承認ヲ受ケルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ申請書第二號ニ計器附屬器一箇並其ノ變更事項ヲ記載セル書類及圖面ヲ添ヘ逓信省電氣局電氣試驗所ニ提出ス

逓信大臣ニ於テ型式ノ試驗ヲ必要ト認メ其ノ旨申請者ニ指示シタルトキハ申請者ハ前項ノ申請書ニ同一ノ型式及容量ノ計器附屬器二箇ヲ添附スヘシ

第四條 電氣計器ノ檢定ヲ受ケムトスル者ハ申請書第三號ニ計器附屬器ヲ添ヘ逓信省電氣局電氣試驗所ニ提出スヘシ

明治四十四年勅令第二百九十六號第二條第二項ニ依リ電氣計器ノ特殊試驗檢定ヲ受ケムトスル者ハ申請書第四號ニ計器附屬器並第二條ニ準シ調整セル説明書及圖面ヲ添ヘ逓信省電氣局電氣試驗所ニ提出スヘシ

第五條 積算電氣計器ノ誤差ノ試驗ハ左ノ方法ニ依ル

一 規定電壓ニ於テ(交流ノ場合ニ在リテハ規定電壓、規定周波數及無誘導負荷ニ於テ)規定電流並其ノ二分ノ一及其ノ十分ノ一ヲ以テ試驗ス

二 規定電壓、規定電流及規定周波數ニ於テ力率二分ノ一ヲ以テ試驗ス但シ特ニ無誘導負荷ニ限リ使用スル計器ニ在リテハ本號ノ試驗ヲ省略ス

第六條 第四條ニ依リ提出セル積算電氣計器ノ始動電流ハ規定電壓ニ於テ(交流ノ場合ニ在リテ

ハ規定電壓、規定周波數及無誘導負荷ニ於テ、規定電流三アマペア以下ノモノニ在リテハ規定電流ノ百分ノ三以下又規定電流三アマペアヲ超過スルモノニ在リテハ規定電流ノ百分ノ二以下タルヘシ

第七條 電氣計器ニハ其ノ外函其ノ他適當ノ箇所ニ製造者名、番號型ノ記號、電氣方式、電壓及容量(又ハ電流)並交流ノ場合ニ在リテハ周波數ヲ表示スヘシ

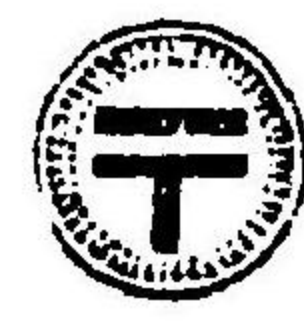
第八條 電氣計器ハ鉛ヲ以テ封印シ得ル構造ヲ有スル外函ヲ具備シ且封印ヲ剝離セスレテ電路ニ接續シ得ル様装置シタルモノタルヘシ

第九條 檢定ニ合格セル電氣計器ニ施スヘキ封印及附屬金屬片ノ離形ハ左ノ如シ

一封印



表面



裏面 直径約三分四厘

二附屬金屬片 15872 表面

45.8 裏面 長サ約八分七厘 幅約三分五厘

(輪廓内ノ數字ハ各計器ノ檢定番號ヲ表ハス)

(輪廓内ノ數字ハ左方ハ年右方ハ月ヲ表ハス)

檢定合格證書ハ第五號書式ニ依リ關製ス 電氣計器ノ檢定ノ有効期間内ニ於テ再封印ヲ爲シタルトキハ逓信省ニ於テ其ノ檢定合格證書ノ裏面ニ其ノ旨ヲ記載ス

第十條 檢定合格證書ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得 前項ノ申請ヲ爲ス者ハ手数料トシテ證書一通ニ付金二十五錢ヲ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ

第十一條 電氣計器ノ所有者ハ現ニ電氣ノ取引ニ使用スル計器ノ檢定番號、檢定年月日、製造者名、番號及其ノ種類、檢定並使用場所ヲ記載セル帳簿ヲ備フヘシ

第十二條 電氣計器ノ所有者ハ毎年三月三十一日現在電氣ノ取引ニ使用スル計器ノ箇數ヲ第六號書式ニ依リ四月三十日迄ニ逓信大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 電氣計器ノ檢定ハ申請ニ依リ計器所在地ニ於テ行フコトアルヘシ 前項ノ場合ニ於テ申請者ハ第五條及第六條ノ試驗ヲ行フニ必要ナル設備ヲ爲シ且檢定ニ要スル費用ヲ負擔スヘシ

第十四條 第十一條又ハ第十二條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則 本令ハ明治四十四年勅令第二百九十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(用紙表流紙)

電氣計器型式承認申請書

貼附シタル收入印紙ノ額 金附圖

一 計器ノ種類 積算電流計、積算電壓計、最大負荷表示器等ノ區別

二 製造者名 製造者ノ區別

三 番號 番號ノ區別

四 型 型ノ區別

五 格 定 直交流ノ區別、單相式三相式等ノ區別、二線式三線式等ノ區別、電壓容量及ハ電流ノ周波數負荷ノ性質

六 係 數 直交流ノ區別、單相式三相式等ノ區別、二線式三線式等

七 箇 數 直交流ノ區別、單相式三相式等ノ區別、二線式三線式等

八 附 屬 具 直交流ノ區別、單相式三相式等ノ區別、二線式三線式等

右電氣計器檢定規則第一條ニ依リ電氣計器型式承認ヲ申請候也

年 月 日 逓信大臣宛 住 所 申請者名印

第二號書式(用紙美濃紙)

電氣計器型式繼續承認申請書

貼附シタル收入印紙ノ額 金何圓

一 計器ノ種類 電算電力計、積算電燈計、最大負荷表示器等ノ區別

二 製造者名

三 番 號

四 型式番 號

五 型 式 番 號

六 格 式 番 號

七 係 數

八 箇 關 具 數

九 附 屬 事 項

十 變 更 事 項

右電氣計器檢定期則第三條ニ依リ電氣計器型式ノ繼續承認ヲ申請候也

年 月 日

住所

申請者名印

逓信大臣宛

電氣計器檢定期則

貼附シタル收入印紙ノ額 金何圓何十錢

一 計器ノ種類 積算電力計、積算電燈計、最大負荷表示器等ノ區別

二 製造者名

三 番 號

四 型式番 號

五 型 式 番 號

六 格 式 番 號

七 係 數

八 箇 關 具 數

九 附 屬 事 項

十 變 更 事 項

右電氣計器檢定期則第三條ニ依リ電氣計器型式ノ繼續承認ヲ申請候也

年 月 日

住所

申請者名印

逓信大臣宛

電氣計器檢定期則

第四號書式(用紙美濃紙)

電氣計器特殊試驗檢定申請書

貼附シタル收入印紙ノ額 金何圓何十錢

一 計器ノ種類 電算電力計、積算電燈計、最大負荷表示器等ノ區別

二 製造者名

三 番 號

四 型 式 番 號

五 格 式 番 號

六 係 數

七 箇 關 具 數

八 附 屬 事 項

九 變 更 事 項

右電氣計器檢定期則第四條第一項ニ依リ電氣計器ノ檢定ヲ申請候也

年 月 日

住所

申請者名印

逓信大臣宛

電氣計器特殊試驗檢定申請書

貼附シタル收入印紙ノ額 金何圓何十錢

一 計器ノ種類 電算電力計、積算電燈計、最大負荷表示器等ノ區別

二 製造者名

三 番 號

四 型 式 番 號

五 格 式 番 號

六 係 數

七 箇 關 具 數

八 附 屬 事 項

九 變 更 事 項

右電氣計器檢定期則第四條第一項ニ依リ電氣計器ノ檢定ヲ申請候也

年 月 日

住所

申請者名印

逓信大臣宛

電氣計器檢定期則



第五號書式

檢定書										
電氣計器檢定合格證書										
檢定申請者	計器ノ種類	計器製造者	計器番號	計器番號	型式番號	計器ノ型	電氣方式	電壓	電流	周波數
			第 號	第 號	第 號	型	流相線式	「ワルト」乃至「ワルト」	「アムペア」	「サイクル」
附屬器具	本證有效期間	本計器ハ電氣測定法第七條ノ檢定ニ合格シタルコトヲ證ス								
	自明治 年 月 日 至明治 年 月 日	明治 年 月 日								

逓信省 印

第六號書式

電氣計器檢定書			
明治 年十二月三十一日未現在			
住所.....		計器所有者(氏名)印	
計器種類			
製造者名			
番 號	第 號		
型式番號	第 號		
型	型		
格	電氣方式	流相線式	
	電 壓	「ワルト」乃至「ワルト」	
	電 流	「アムペア」	
	周波數	「サイクル」	
定	負荷ノ性質	負荷	
附屬器具			
有效期間	自明治 年 月 日 至明治 年 月 日		
檢定番號	第 號		
備 考			

法令全書

府令

○朝鮮總督府令第一號(宣稱一月十九日)  
郵便切手類及收入印紙賣捌規則左ノ通定ム

明治四十四年一月十四日

朝鮮總督 子爵寺内正毅

郵便切手類及收入印紙賣捌規則

第一條 郵便切手類及收入印紙ノ賣捌ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 郵便切手類及收入印紙ハ郵便局、郵便所、郵便所、郵便切手類及收入印紙賣捌所(以下單ニ賣捌所トス)ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得ス但シ朝鮮總督ニ於テ特ニ必要ヲ認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 萬國郵便條約ニ依ル國際返信切手券ノ賣捌及其ノ引換ヲ爲ス郵便局所ハ之ヲ告示ス

第四條 郵便切手類及收入印紙ハ定價ヲ以テ賣捌クヘシ

第五條 郵便切手類及收入印紙ノ汚斑毀損シタルモノ又ハ效用ヲ缺クヘキ或アルモノハ賣捌クコトヲ得ス

第六條 郵便切手類及收入印紙ノ賣捌時限ハ午前六時ヨリ午後十時マテトス但シ時間ヲ定メス受付ヲ爲スヘキ郵便物又ハ電報ヲ差出ス場合ニ要スル郵便切手類ハ本條ノ時限ニ拘ラス之カ賣捌ヲ爲スヘシ

第七條 郵便局ニ差出シ許可證ノ交付ヲ受クヘシ  
一 郵便局ノ郵便區内ニ在リテハ其ノ地ノ郵便局

明治四十四年一月 府令 朝鮮總督府第一號 郵便切手類及收入印紙賣捌規則

二 郵便所及郵便所ノ郵便区内ニ在リテハ其ノ地ヲ分掌區域トスル管理事務分掌郵便局  
三 船舶若ハ鐵道列車内ニ在リテハ其ノ船籍地若ハ當該鐵道管理廳所在地ノ郵便局  
第七條 郵便所 郵便所及賣捌所ニ賣渡スヘキ郵便切手類及收入印紙ハ定價ニ對シ左ノ割引ヲ爲ス

一 郵便切手類ハ其ノ買受高ノ千分ノ三十五

二 收入印紙ハ其ノ買受高ノ千分ノ三十

第八條 郵便所 郵便所及賣捌所ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類及收入印紙ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ買受クヘシ

一 郵便集配事務ヲ取扱ハサル郵便所及郵便局ノ郵便区内ニ在ル賣捌所ハ其ノ地ヲ郵便區トスル郵便局

二 郵便集配事務ヲ取扱フ郵便所 郵便所及其ノ郵便区内ニ在ル賣捌所ハ其ノ地ヲ分掌區域トスル管理事務分掌郵便局若ハ最寄郵便局但シ賣捌所ニ在リテハ當該分掌郵便局ニ於テ特ニ指定スル郵便局

三 船舶及鐵道列車内ノ賣捌所ハ許可證ノ交付ヲ受ケタル郵便局若ハ當該郵便局ニ於テ特ニ指定スル郵便局

第九條 前條ノ買受度數ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 一箇月賣捌高百圓未満 一箇月二回

二 一箇月賣捌高百圓以上二百圓未満 一箇月三回

三 一箇月賣捌高二百圓以上 一箇月四回

前項ノ制限ニ據リ難キ事情アルモノハ賣渡局ニ申請シ其ノ回数ヲ増加スルコトヲ得臨時多數ノ賣捌等アリタルトキ亦同シ

第十條 賣渡局ヨリ遠隔ノ場所ニ在ル郵便所 郵便所及賣捌所ニ於テハ豫メ賣渡局ノ承認ヲ得共ノ郵便局ノ通信夫ニ買受ヲ委託スルコトヲ得

第十一條 郵便切手類及收入印紙ハ破産若ハ家産分散ノ宣告ヲ受ケ又ハ財産ヲ公賣ニ附スルトキニ限り定價ニ對シ百分ノ十ノ割引ヲ以テ朝鮮總督府通信局ニ於テ之ヲ買戻スコトアルヘシ但シ汚斑毀損シタルモノ又ハ效用ヲ缺クヘキ賣戻アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 郵便所 郵便所及賣捌所カ買受ケタル郵便切手類及收入印紙ニシテ汚斑毀損シタルモノ又ハ效用ヲ缺クヘキ賣戻アルモノハ其ノ買受ヲ爲シタル郵便局ニ其ノ交換ヲ請求スルコトヲ得郵便所 郵便所及賣捌所ノ廢止又ハ郵便所長 郵便所長ノ退職若ハ死亡ノ場合ニ於テ殘存セル郵便切手類及收入印紙ハ其ノ買受ヲ爲シタル郵便局ニ買戻ヲ請求スルコトヲ得

第十三條 前條第一項ノ郵便切手類及收入印紙ハ定價ニ對シ百分ノ十ノ割引ヲ以テ交換ヲ爲スヘシ但シ天災事變及其ノ他避クヘカラサル事由ニ因リタルモノハ定價ヲ以テ交換スルコトアルヘシ

前條第二項ノ郵便切手類及收入印紙ハ定價ニ對シ第七條ノ割引額ニ相當スル金額ヲ控除シ之ヲ買戻スヘシ

第十四條 第十二條ニ依リ交換ヲ請求スル者ハ其ノ受クヘキ郵便切手類及收入印紙ノ種類 員數ヲ選擇スルコトヲ得

第十五條 第十三條第一項ノ場合ニ於テ割引計算上交換價格ニ一錢未満ノ端數ヲ生スルトキハ五厘以上ハ五厘ヲ以テ計算シ五厘未満ハ切捨トス

第十六條 郵便切手類及收入印紙賣捌人ハ自費ヲ以テ賣捌所標札(第二號乃至第四號樣式)ヲ圖製シ公衆ノ看易キ場所ニ掲示スヘシ

第十七條 郵便切手類及收入印紙賣捌人廢業セムトスルトキハ賣捌許可證ヲ添ヘ其ノ旨ヲ賣捌ノ

許可ヲ受ケタル郵便局ニ届出ツヘシ

第十八條 第二條及第三條ニ違反シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 郵便切手類及收入印紙賣捌ハ本令及其ノ他ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ郵便局所ノ配  
置變更等ニ因リ賣捌所ノ位置ヲ不適當トスルニ至リタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘレ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年統監府令第十號及光武九年度支部令第十八號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本令施行前郵便切手類及收入印紙賣捌ノ許可ヲ受ケタル者及光武九年度支部令第十八號收入印紙  
賣下規程ニ依リ免許ヲ受ケタル分賣下人ニ對シテハ本令ニ依リ其ノ賣捌ヲ許可シタルモノト看做

本令施行前光武九年度支部令第十八號收入印紙賣下規程ニ依リ原賣下人タル者ハ本令施行後滿一  
箇年間其ノ所持スル收入印紙ヲ分賣下人ニ限り賣渡スコトヲ得但シ該期限内ニ免許期間滿了ノ者  
ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ原賣下人ニシテ其ノ免許期間經過後尙收入印紙ヲ所持スルトキハ光武九年度支部令第十八  
號收入印紙賣下規程第三條ノ割引額ニ相當スル金額ヲ控除シ之ヲ買戻スヘシ但シ汚損毀損レタル  
モノ又ハ效用ヲ缺クヘキ度アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第一號様式

郵便切手類及收入印紙賣捌申請書

住所  
職 業

氏 名

右現住所(又ハ何地、船舶何丸又ハ何鐵道列車内)ニ於テ(郵便切手類及收入印紙)(賣捌致度)又ハ賣捌  
致居處同所ニ於テ(收入印紙)(郵便切手類)モ共ニ賣捌致度(賣捌許可相成度候也)

年 月 日

氏 名 ④

第二號様式

何何郵便局御中

□ 郵便切手類賣捌所  
收入印紙賣捌所

一寸法 縦二尺五寸横七寸五分但シ船舶又ハ鐵道列車内ノモノハ違立トス

一漢文ノ側ニ謄文ヲ附記スヘシ

第三號様式

□ 郵便切手類賣捌所

一仕様ハ總テ第二號様式ノ通

第四號様式

□ 收入印紙賣捌所

一仕様ハ總テ第二號様式ノ通

〔参照〕

明治四十二年五月八日(舊曆)統監府令第十號ハ本號ト同伴ナリ

明治四十四年一月 府令 朝鮮總督府第一號 郵便切手類及收入印紙賣捌規則

○朝鮮總督府令第二號(官報一月二十一日)

株式會社漢城銀行ノ資本増加及業務監督ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十四年一月十五日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

第一條 株式會社漢城銀行ハ本令ノ定ムル所ニ依リ株金全額ノ拂込前ト雖其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ増加スヘキ資本ハ現在ノ資本ヲ合セ參百萬圓トス

第二條 前條資本ノ増加ハ新株募集ノ方法ニ依ルモノトス

第三條 明治四十三年十二月三十一日現在ノ株主ニ對シテ新株割當ノ場合ニ限リ株主總會ノ決議ヲ經テ積立金ヲ以テ之カ拂込金ニ充當スルコトヲ得

第四條 新ニ募集スル株式ハ明治四十三年十二月三十一日現在ノ株主ニ割當ツルモノノ外明治四十三年勅令第三百二十九號ニ依リ下附セラレタル恩賜公債ノ所有者ニシテ當該公債證書ヲ以テ拂込ニ充當スル者ニ限リ之ヲ引受セシム

前項ノ規定ニ依リ恩賜公債ヲ以テ出資スル者ノ氏名ハ之ヲ定款ニ記載スルコトヲ要セス

第五條 前條恩賜公債ヲ以テ出資シタル株主ニシテ株金拂込ノ日ヨリ十年間其ノ所有スル株式ヲ讓渡又ハ質入セムトスルトキハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 株式會社漢城銀行ハ左ノ事項ニ付朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 取締役及監査役ノ就任
- 二 株主ニ對スル利益金ノ配當
- 三 積立金ノ使用
- 四 他ノ銀行又ハ會社ノ代理業務

第七條 株式會社漢城銀行ハ其ノ業務ニ關シテ左ノ報告書ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

- 一 毎月實際報告書
- 二 毎月末諸貸出金個人別現在高表

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第三號(官報一月二十四日)

恩津郡位置ヲ江景ニ變更ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治四十四年一月十八日

○朝鮮總督府令第四號(官報一月二十八日)

明治四十四年制令第一號第四條ニ依リ當分ノ内滿洲其ノ他ノ「ベスト」流行地ヨリ襪類、古綿、古著類、古紙類、古革皮類、古羽毛類、古敷物類、古麻袋類其ノ他病毒汚染ノ虞アル物品ノ輸入ヲ禁止ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年一月二十一日

○臺灣總督府令第一號(官報一月二十五日)

代書人取締規則左ノ通改正ス

明治四十四年一月十二日

代書人取締規則

第一條 代書人トハ他人ノ委託ヲ受ケ文書ノ作製ヲ業トスル者ヲ謂フ

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

朝鮮總督 子爵寺內正毅

明治四十四年一月 府令 朝鮮總督府第三號 第四號 臺灣總督府第一號 代書人取締規則

七

第二條 代書人ヲラムトスル者ハ營業ノ主タル場所ヲ定メ所轄廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ其ノ廢業シタルトキハ五日以内ニ之ヲ所轄廳ニ届出ヘシ

第三條 左ノ各號ニ該當スル者ハ代書人ト爲ルコトヲ得ス

- 一 懲役ノ刑ニ處セラレタル者
- 二 公務ノ執行ヲ妨害スル罪、犯人藏匿及證據湮滅ノ罪、秘密ヲ侵スル罪、文書偽造ノ罪、潰滅ノ罪、信用及業務ニ對スル罪、詐欺及恐喝ノ罪、橫領ノ罪、贓物ニ關スル罪、毀棄及隱匿ノ罪ヲ犯シ處罰セラレタル者

第四條 代書人ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 訴訟事件非訟事件民事等訟調停事件及其ノ他ノ事件ニ關シテ勸誘シ鑑定ヲ爲シ若ハ之ヲ辯護士ニ紹介シ又ハ代書以外ノ干與ヲ爲スコトヲ得ス
- 二 他人ヲレテ其ノ業務ヲ取扱ハシムルコトヲ得ス
- 三 代書ニ關スル事件ヲ他人ニ漏洩スルコトヲ得ス
- 四 同一事件ニ付利害ヲ異ニスル當事者雙方ノ代書ヲ爲スコトヲ得ス
- 五 代書ノ委託ヲ粉飾シ又ハ委託ヲ受ケタル事件ニ關シテ事實ノ虛構ヲ勸誘シ若ハ委託ニ反スル代書ヲ爲スコトヲ得ス
- 六 何等ノ名義ヲ以テスルモ認可ヲ受ケタル代書及製圖料ノ外報酬ヲ受ケ又ハ故ラニ文書ヲ冗長ニシ若ハ紙數ヲ増加スルコトヲ得ス
- 七 正當ノ理由ナクレテ代書ノ委託ヲ拒ミ又ハ文書、圖面ノ複製ヲ遲滞スルコトヲ得ス
- 八 複製シタル文書ノ末尾又ハ圖面ノ餘白ニ署名捺印スヘシ
- 九 代書及製圖料額ヲ營業所内ノ賭易キ所ニ揭示スヘシ

第五條 代書人ハ他人ノ委託ニ因リ營業所外ニ出張シ業務ヲ執ルトキハ其ノ場所及委託事件名ヲ

其ノ都度所轄廳又ハ支廳ニ届出ヘシ其ノ所轄廳區域外ニ出張シ業務ヲ執ルトキハ其ノ地ノ所轄廳又ハ支廳ニモ届出ヘシ

第六條 代書人ハ代書事件簿ヲ調製シ事件ノ名稱、書類ノ枚數、委託者ノ住所、姓名委託ヲ受ケタル年月日、代書及製圖料額ヲ記載スヘシ

前項ノ簿冊ハ使用前所轄廳又ハ支廳ノ檢印ヲ受クヘシ但シ毀損、亡失シタルトキハ三日以内ニ所轄廳又ハ支廳ニ届出ヘシ

第七條 代書事件簿ハ使用終了ノ日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

所轄廳又ハ支廳ハ必要ト認ムルトキハ使用終了ニ係ル代書事件簿ノ提出ヲ命ジ前項ノ期間内之ヲ保管スルコトアルヘシ

代書人廢業後ニ於テ前二項ノ規定ヲ適用ス

第八條 警察官ハ何時ニテモ代書事件簿ノ檢閱ヲ爲スコトヲ得

第九條 代書人ハ廳直轄、支廳所轄内毎ニ組合ヲ設ケ代書及製圖料ノ額ヲ定メ規約書ヲ添ヘ所轄廳ニ願出テ認可ヲ受クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ所轄廳ノ認可ヲ得聯合組合ヲ設クルコトヲ得

廳直轄、支廳所轄内ニ於テ代書人三名ニ滿タサルトキハ組合ヲ設ケサルコトヲ得但シ代書及製圖料額ハ前項ニ準ス

第十條 通譯ヲ雇入レムトスルトキハ本人ノ履歴書ヲ添ヘ所轄廳ニ届出テ認可ヲ受クヘシ之ヲ解雇シタルトキハ三日以内ニ届出ヘシ

第十一條 通譯ニシテ治安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊リ其ノ他不正ノ行爲アリト認ムルトキハ廳長ハ其ノ解雇ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 代書人ニシテ本令ニ違背シ又ハ公安ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ廳長ハ其ノ許可ヲ

取消シ又ハ業務ノ停止ヲ命スルコトヲ得

取消處分ヲ受ケ滿二年ヲ経過セサル者及業務停止中ノ者ハ代書ヲ爲スコトヲ得ス但シ臺灣總督ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 第二條、第四條乃至第七條第一項第三項、第十條及業務停止ノ命令ニ違背シ又ハ第七條第二項ノ提出、第八條ノ檢閲ヲ拒ミ若ハ故意ニ代書事件簿ヲ毀損滅失シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第二號(官報一月二十五日)

臺灣市場取締規則左ノ通相定ム

明治四十四年一月十七日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣市場取締規則

第一條 市場ハ廳長ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

第二條 市場外ニ於テハ多數集合シテ飲食物共ノ他ノ物品ヲ販賣スルコトヲ得ス但シ特ニ廳長ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 市場内ニ於テハ喧嘩ニ涉リ又ハ風俗ヲ紊レ若ハ公衆ノ妨害トナルヘキ行為ヲ爲スヘカラス

第四條 市場内ノ營業者ハ其ノ占有場所ノ清潔ヲ保持スヘシ

第五條 市場内ノ營業者ニシテ結核、癩、梅毒又ハ傳染性皮膚病ニ罹レルトキハ從業スルコトヲ得ス

市場内ノ營業者ハ前項ノ疾病ニ罹レル使用人ヲシテ從業セシムルコトヲ得ス

第六條 第一條又ハ第二條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス

第三條乃至第五條ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス

第七條 本人カ無能力者又ハ法人ナルトキハ本令ノ規定ニ依リ本人ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ管理人又ハ代表者ニ適用ス

代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ本人ノ指揮ニ出テサルモノト雖之ヲ本人ニ適用ス

附則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年十一月十日以前ノ縣又ハ廳ニ於テ發布シタル市場取締ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス從前縣又ハ廳ノ許可ヲ受ケタル市場ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

○關東都督府令第一號(官報一月二十四日)

明治三十九年九月府令第十六號關東都督府看守採用規則中左ノ通改正ス

明治四十四年一月十六日

關東都督 子爵大島義昌

第五條第二號中「五尺以上」ヲ「五尺一寸以上」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

關東都督府令第十六號關東都督府看守採用規則(明治三十九年九月二十二日官報)抄録  
第五條 體格檢査ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス  
一 身體五尺以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シテ呼吸器長ノ一寸以上ノ者

○關東都督府令第一號(官報一月二十四日)

「ベスト」病毒汚染ノ地ヲ發シ又ハ通過シタル者及是等ノ者ト接觸シタリト認ムル者ハ七日以上一定ノ場所ニ停留ヲ命スルコトアルヘシ

明治四十四年一月十六日

關東都督 子爵大島義昌

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

○朝鮮總督府令第五號(官報二月二日)  
明治四十三年朝鮮總督府令第五十六號憲兵隊管區及配置表中左ノ通改正ス

明治四十四年一月二十六日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

天安憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄ニ笠場派遣所稷山郡二東面ヲ加フ  
古阜憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄ニ院坪里派遣所金溝郡水流面ヲ加フ  
晉州憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄ニ辰橋派遣所長陽郡金陽面ヲ加フ  
寧越憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄中黃地里分遣所ヲ黃池里分遣所ニ改ム  
三陟憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄中葛田洞分遣所ヲ葛田洞分遣所ニ改ム  
吉州憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄中熊店洞分遣所ヲ熊店洞分遣所ニ改ム  
慶興憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄中甌山派遣所西水羅派遣所ヲ甌山分遣所西水羅分遣所ニ改ム  
副戎鎮憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄中石水洞分遣所防銀洞分遣所ヲ石水洞派遣所防銀洞派遣所ニ改ム

會寧憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄中高嶺嶺分遣所ヲ高嶺嶺派遣所ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第六號(官報二月二日)

明治四十三年朝鮮總督府令第五十七號警察署ノ職務ヲ行フ憲兵分隊名稱位置管轄區域表中左ノ通改正ス

明治四十四年一月二十六日

朝鮮總督 子爵寺內正毅



慶典憲兵分隊管轄區域ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

成鏡北道 慶源郡ノ内 新阿面、古阿面、有信面、慈明面  
鎭城郡ノ内 溪上面、溪下面

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第七號(官報二月一日)

明治四十三年統監府令第四十四號警務部及警察署ノ名稱位置及管轄區域表中左ノ通改正ス

明治四十四年一月二十六日

清津警察署管轄區域府郡名ノ欄中ハ會寧郡ノ内ヲ加フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第八號(官報二月九日)

巡査及巡査補給與品貸與品規則左ノ通定ム

明治四十四年二月四日

朝鮮總督 子爵寺内正毅

第一條 巡査及巡査補ニハ左ノ物品ヲ給與ス

帽冬服夏服甲種外套乙種外套日履下襟手套冬肌著夏肌著靴下長靴短靴

第二條 巡査及巡査補ニハ左ノ物品ヲ貸與ス

帽徽章肩章刀刀鞘刀帶外套及被服鈕釦及角釦帽領紐釦外套褲革手帖捕縄番笛  
前項ノ外乘馬勤務ノ者ニハ拍車ヲ貸與シ船舶乘込勤務ノ者ニハ短刀及短刀帶ヲ貸與ス

第三條 巡査及巡査補ニハ防塞具脚絆ゲートルヲ貸與スルコトアルヘシ

防寒具ノ種類及貸與區域ハ警務總長之ヲ定ム

第四條 給與品ハ現品ヲ以テ支給ス但シ左ノ物品ハ代料ヲ以テ支給スルコトヲ得

下襟手套冬肌著夏肌著靴下長靴短靴

制服ノ着用ヲ要セサル特別ノ勤務ニ服スル巡査及巡査補ニハ任命ノ際ニ限リ全部現品ヲ以テ之

ヲ給シ其ノ後ハ總テ代料ヲ以テ支給スルコトヲ得

前二項ノ代料ハ給與品ノ員數ニ對スル價額ヲ一年ノ總額トシ月額ヲ以テ支給ス但シ其ノ價額ハ

毎年度豫算ノ定ムル所ニ依ル

第五條 給與品ノ員數、使用期限及支給期日ハ左ノ如シ

品目	員數	使用期限	支給期日
冬帽	一	四年	五月三十一日
夏帽	一	二年	五月三十一日
冬服	一	四年	五月三十一日
夏服	一	二年	五月三十一日
甲種外套	一	四年	五月三十一日
乙種外套	一	二年	五月三十一日
日履	一	四年	五月三十一日
下襟	一	二年	五月三十一日
手套	一	二年	五月三十一日
冬肌著	一	二年	五月三十一日
夏肌著	一	二年	五月三十一日
靴下	一	二年	五月三十一日
長靴	一	二年	五月三十一日
短靴	一	二年	五月三十一日

乘馬勤務ノ者ニハ短袴及長靴ヲ給シ袴及短靴ヲ給セス短袴ハ冬服ニ在リテハ上衣一著ニ付ニ著  
 ヲ以テ一組トシ之ヲ給シ長靴ハ其ノ使用期限ヲ十二箇月トシニ足ヲ給ス  
 第六條 貸與品及給與品ハ任命ノ際ノ使用期限ヲ退職、休職、轉職、死亡ノ場合ニ於テハ貸與品ハ之ヲ  
 返納セシム使用期限ノ終ラサル給與品アルトキ亦同レ但シ給與品ノ代料ヲ以テ下付レタルモノ  
 ハ使用殘期ニ相當スル金額ヲ返納セシム  
 第七條 給與品ニシテ支給期日後ニ支給シタルモノハ次期ノ支給期日ニ於テ現品ヲ返納スルモノ  
 トス但シ特ニ使用期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス  
 第八條 貸與品又ハ使用期限ノ終ラサル給與品ヲ毀損紛失レタルトキハ他品ヲ貸與又ハ給與レ共  
 ノ過失怠慢ニ出テタルトキハ之ヲ賠償セシム  
 第九條 警務總長ハ必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ本令給與品及貸與品ノ員數ヲ  
 増減シ又ハ使用期限ヲ伸縮スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際既ニ給與シタル現品ハ舊規則ニ依リ所定ノ保存期間使用セシム

○朝鮮總督府令第九號(官報二月十四日)

郵便規則左ノ通定ス

明治四十四年二月九日

朝鮮總督 子爵寺内正毅

郵便規則

第一章 郵便物ノ種別

第一節 總則

- 第二節 通常郵便物
- 第三節 小包郵便物
- 第二章 郵便物ノ特殊取扱
- 第一節 總則
- 第二節 留置
- 第三節 書留
- 第四節 價格表記
- 第五節 引受時刻證明
- 第六節 別配達
- 第七節 配達證明
- 第八節 内容證明
- 第九節 代金引換
- 第十節 現金取立
- 第十一節 廣告郵便
- 第十二節 約束郵便
- 第十三節 郵便私書函
- 第三章 郵便物ノ差出
- 第四章 郵便物ノ配達
- 第五章 郵便物ノ轉送及還付
- 第六章 損害賠償及報酬

郵便規則

第一章 郵便物ノ種別

第一節 總則

- 第一條 左ノ物件ヲ郵便禁制品トス
  - 一 公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スヘキ文書圖畫其ノ他ノ物件
  - 二 爆發性、發火性其ノ他郵便吏員ニ危害ヲ加ヘ又ハ郵便物ニ損害ヲ與フヘキ物件但シ爆發性、發火性以外ノ藥品及生活スル病原菌或病原菌含有ノ疑アル検査材料ニシテ別ニ定ムル所ニ依リ特別ノ包装ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 通貨ハ價格表記ト爲スニ非サレハ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得ス  
金銀、寶石、珠玉其ノ他ノ貴重品ハ價格表記又ハ書留ト爲スニ非サレハ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得ス
- 第三條 通常郵便物ノ容積ハ共ノ長一尺三寸幅八寸五分厚五寸ヲ限トシ共ノ重量ハ第三種乃至第五種郵便物ニ在リテハ二百匁、商品見本及雛形ニ在リテハ百匁ヲ超過スヘカラス  
小包郵便物ノ容積ハ共ノ長幅及厚各二尺ヲ限トシ共ノ幅及厚各五寸以內ノモノハ長三尺ヲ限トシ共ノ重量ハ一貫六百匁ヲ超過スヘカラス
- 第四條 郵便物ノ容積又ハ重量ノ制限ヲ超過シ共ノ他成規ニ違反シテ差出シタル郵便物ハ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外之ヲ差出人ニ還付ス共ノ郵便料未納又ハ不足ナルトキハ共ノ不納額ノ二倍ヲ徵收ス
- 前項ノ場合ニ於テ第二條第一項ニ違反シタルモノナルトキハ通貨價格表記料ノ三倍ヲ徵收シ同條第二項ニ違反シタルモノナルトキハ書留料ノ不足額ニ對スル三倍ヲ徵收ス
- 第五條 無料郵便物ハ其ノ表面ニ「通信事務」ノ文字ヲ記載スヘシ

無料郵便物ノ差出人又ハ受取人カ官署若ハ官吏ナルトキハ共ノ官署名若ハ官職氏名、私人ナルトキハ共ノ住所氏名ヲ外部ニ明記スヘシ

前二項ノ規定ニ反スル郵便物ハ有料郵便物トシテ取扱フ

第六條 無料ノ性質ヲ有セサルモノヲ無料郵便物トシテ差出シタルトキハ差出人ニ還付シ未納額ノ二倍ヲ徵收ス

無料郵便物ニ無料ノ性質ヲ有セサル通信文ヲ記載シ又ハ有料郵便物ヲ添附シタルモノ亦前項ニ同シ

第七條 小包郵便料及特殊取扱ヲ要スル郵便ニ關スル料金ハ前納ニ限ル但シ留置ト爲シタル普通通常郵便料及特ニ規定シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條 郵便ニ關スル料金ノ未納又ハ不足カ郵便官署ノ過失ニ依リタルトキハ共ノ不納額ハ之ヲ徵收セズ

第九條 郵便ニ關スル料金ニシテ左ニ記載シタルモノハ共ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

- 一 郵便官署ノ過失ニ因リ徵收シタル郵便ニ關スル料金
- 二 特殊取扱ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便官署ノ過失ニ因リ共ノ取扱ヲ爲サザリシ場合ニ於ケル特殊取扱ノ料金
- 三 郵便官署ノ過失ニ因リ普通郵便ニ依リテ到達シ得ヘキ時刻ヨリ遅レテ受取人ニ到達シタル別配達取扱ノ料金
- 四 名宛變更、取戻、代金引換ノ取消又ハ代金引換金額變更ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便官署ノ過失ニ因リ共ノ取扱ヲ爲サザリシ場合ニ於ケル請求手数料金

- 五 亡失又ハ失効ニ因リ損害賠償ヲ爲スヘキ場合ノ書留郵便物、價格表記郵便物現金取立郵便物ノ郵便ニ關スル料金
- 第十條 前條ノ料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル郵便官署ニ之ヲ爲スヘキ其ノ期間ハ第一號乃至第四號ハ料金納付ノ日ヨリ六十日、第五號ハ損害賠償決定ノ日ヨリ三十日トス
- 第十一條 第三種乃至第五種郵便物及小包郵便物ハ其ノ外部ニ左ノ事項ニ限リ之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附スルコトヲ得
  - 一 差出人及受取人ノ住所氏名
  - 二 差出人及受取人ノ身分、職業、商標其ノ他ノ稱號等
  - 三 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語
  - 四 贈呈、納本、注文品等四字以内ノ送達上ノ慣用語
  - 五 定期刊行物ニ前金切レ又ハ何月何日限リ前金満了等ノ慣用語
  - 六 送達上郵便官署ニ必要ナル注意ヲ示ス語辭
- 前項郵便物ニハ其ノ内部ニ前項各號ノ外尙左ノ事項ニ限リ之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附スルコトヲ得
  - 一 名稱、番號、數量、金額、寸尺、重量
  - 二 定期刊行物、書籍印刷物、書畫、圖業務用書類ニ正誤、注意、點、線、批評ノ類
  - 三 圖畫及寫眞ニ説明又ハ著色
  - 四 商品見本及雛形、農産物種子及博物學上ノ標本ニ生産地及種類ヲ確知スル爲必要ノ事項
  - 五 農産物種子ニ播種ノ時季及説明
  - 六 名刺ニ四字以内ノ慣用語
- 前二項以外ノ事項ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附シタル小包郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付ス

- 第十二條 郵便ニ關スル料金納付ノ爲ニ用井タル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ハ郵便官署ニ於テ之ヲ消印ス
- 郵便物ニ貼附シタル郵便切手ハ郵便ニ關スル料金納付ノ爲ニ用井タルモノト看做シ前項ト同一ノ取扱ヲ爲ス
- 第十三條 郵便物ノ包装方ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二節 通常郵便物
- 第十四條 書狀トハ全部或ハ幾部ヲ筆記シタルト印刷シタルトニ關セズ特定ノ人ニ對スル通信文ニシテ郵便葉書ニ依ラサルモノヲ謂フ
- 第十五條 印刷シタル無封ノ書狀ハ其ノ料金ヲ重量十匁又ハ其ノ端數毎ニ金一錢トス運送狀保險申込書ノ類ニシテ大部分ヲ印刷シタル無封ノ書狀亦同シ
- 前項ノ郵便物ニ付テハ第十一條ノ規定ヲ準用ス
- 第十六條 郵便葉書ハ其ノ表面ニ左ノ事項ニ限リ之ヲ記載スルコトヲ得
  - 一 差出人及受取人ノ住所氏名身分、職業及商標其ノ他ノ稱號等
  - 二 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語
  - 三 送達上郵便官署ニ必要ナル注意ヲ示ス語辭
  - 四 郵便給葉書ノ表面下部(全面ノ約三分一以下)ニ畫スル横線以下ノ部分ニ通信文等
- 郵便葉書ハ原形ノ儘使用シ契約書、委任狀若ハ受領證等ト爲サムカ爲收入印紙ヲ裏面ニ貼附スル場合ヲ除クノ外何等ノ物件ト雖添附スルコトヲ得ス
- 前二項ノ規定ニ違反シタル郵便葉書ハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス
- 第十七條 往復葉書ニ依ル返信ノ際發信ニ使用シタル部分ヲ除去セサルトヤハ郵便官署ニ於テ之ヲ除去ス

第十八條 郵便葉書ノ料額印面ヲ汚斑シタルモノハ之ト同額ノ郵便切手ヲ貼附スルニ依リ郵便葉書ノ效力ヲ有ス其ノ未納又ハ不足ノ場合ニ於テハ其ノ不納額ノ二倍ヲ徵收ス

第十九條 別ニ定ムル規定ニ依リ關製シタル私製葉書ハ通常葉書ト看做シ之ト同額ノ料金ヲ徵收ス

第二十條 第三種郵便物ノ認可ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二十一條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物(以下單ニ定期刊行物ト稱ス)ハ其ノ刊行物初頁上部ニ其ノ名稱、發行日期、回數、逐號番號、發行年月日及何年何月何日第三種郵便物認可ノ文字、次頁以下ハ上部ニ其ノ名稱又ハ略記號發行年月日及第三種郵便物認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但レ冊子ト爲シタル刊行物ハ最初及最終ノ頁面ノミニ印刷スルコトヲ得

第二十二條 定期刊行物ハ本紙ノ重量ニ超過セス本紙ト同性質ノ記事廣告又ハ書畫、圖ヲ印刷シ之ニ本紙ノ名稱、番號並發行ノ年月日及附録ノ文字ヲ記入シ且冊子ト爲ササルモノニ限リ附録トシテ之ヲ添附スルコトヲ得

第二十三條 緊急時事ヲ報道スル爲臨時ニ刊行スル定期刊行物ノ號外ハ定期刊行物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

定期刊行物ノ號外ハ之ニ本紙ノ名稱、發行ノ年月日、何年何月何日第三種郵便物認可及號外ノ文字ヲ記入スヘシ

第二十四條 定期刊行物ニハ其ノ發行者ニ於テ其ノ記事ニ關スル物品ニシテ其ノ印刷物ノ重量ヲ超過セサルモノニ限リ之ヲ綴込又ハ貼附スルコトヲ得

第二十五條 第三種郵便物ニ非サル印刷物ニシテ毎月一回以上繼續刊行スルモノハ約東郵便物トシテ差出ストキニ限リ其ノ料金ヲ重量三十匁又ハ其ノ端數毎ニ金一錢トス

第二十六條 印刷物ニハ其ノ發行者ニ於テ其ノ記事ニ關スル物品ニシテ其ノ印刷物ノ重量ヲ超過セサルモノニ限リ綴込又ハ貼附スルコトヲ得

第二十七條 業務用書類トハ全部若ハ一部ヲ筆書シタル各種ノ文書ニシテ特定ノ人ニ對スル通信文ノ性質ヲ有セサルモノヲ謂フ

第二十八條 寫眞、書畫、圖及博物學上ノ標本ハ扁額其ノ他特殊ノ裝飾ヲ加ヘサルモノヲ謂フ但レ掛軸ト爲スハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 商品見本及雕形ハ見本又ハ雕形トシテ其ノ性質又ハ形狀ヲ示スニ足ルヘキ箇數又ハ分量ヲ限リ其ノ營業者ト往復スルモノヲ謂フ

前項ノ郵便物ニハ其ノ外部ニ差出人又ハ受取人ノ營業名及其ノ表面ニ商品見本又ハ雕形ノ文字ヲ記載スヘシ

第三節 小包郵便物

第三十條 小包郵便物ハ總テ書留トス

小包郵便物ニハ其ノ表面看易キ場所ニ「小包」ト記載スヘシ

第三十一條 小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

同一郵便區内	金八錢
便區外	十二錢
同一郵便區内	二百匁迄 四百匁迄 六百匁迄 八百匁迄 一貫二百匁迄 一貫四百匁迄 一貫六百匁迄
便區外	十二錢 十八錢 二十四錢 三十錢 三十六錢 四十二錢 四十八錢 五十四錢

第二十二條 小包郵便物ノ差出人ハ其ノ差出ノ際配達ヲ爲スヘキ郵便官署ニ於テ配達ヲ遂クルコト能ハサルトキ之ヲ轉送還付ノ爲料金増加ヲ要スル場合ニ於ケル該郵便物ノ轉送又ハ棄却ノ處分ニ付豫メ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 小包郵便物ノ受取人ハ其ノ轉送ヲ配達ヲ爲スヘキ郵便官署ニ請求スルコトヲ得

第二章 郵便物ノ特殊取扱

第一節 總則

- 第三十四條 郵便物ノ特殊ノ取扱ニ要スル料金ハ左ノ如ク
  - 一 留置通知料一箇ニ付 金三錢
  - 二 通常郵便物書留料一箇ニ付 金七錢
  - 三 價額表記料(通貨ハ表記金額十圓迄毎ニ金十錢其ノ他ノ物件ハ表記金額十圓迄毎ニ金五錢但シ通常郵便物ニ在リテハ書留料相當ノ金額ヲ加フ) 金十五錢
  - 四 引受時刻證明料一箇ニ付 金十五錢
  - 五 別配達料一箇ニ付(陸上ニ里以内ハ金二十錢、二里ヲ超過シタルトキハ一里迄毎ニ金十五錢ヲ加フ但シ陸上船舶配達證明料一箇ニ付) 金三錢
  - 六 配達證明料一箇ニ付 金三錢
  - 七 内容證明料一箇ニ付(一通ノ原本一枚ノモノハ金十錢、二枚以上ノモノハ一枚ヲ増ス毎ニ金四錢ヲ加フ、同時ニ二箇以上同文ノモノヲ送付ストキハ内一箇ヲ除キ他ハ前記料金ノ半額) 金五錢
  - 八 代金引換料一口ニ付 金五錢
  - 九 現金取立料一口ニ付 金五錢
- 外ニ取立金送達料トシテ代金引換ト同一ノ割合ニ依ル金額
- 第三十五條 左ノ郵便物ハ各其ノ下ニ記載シタル文字ヲ表面看易キ場所ニ記入スヘク
  - 一 留置郵便物 留置何局留置又ハ留置通知
  - 二 書留通常郵便物 書留
  - 三 價格表記郵便物 (通貨ニ在リテハ通貨及價格表記金額、其ノ他ノ物件ニ在リテハ品名及價格表記金額)

- 四 引受時刻證明郵便物 引受時刻證明
- 五 別配達郵便物 別配達又ハ何局別配達
- 六 配達證明郵便物 配達證明
- 七 内容證明郵便物 内容證明又ハ同文内容證明
- 八 代金引換委託郵便物 代金引換金何程

第二節 留置

- 第三十六條 留置郵便物ハ差出人指定ノ郵便官署ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス
- 第三十七條 留置郵便物ノ差出人ハ留置郵便官署ヨリ其ノ受取人ニ該郵便物到着ノ通知ヲ請求スルコトヲ得
- 第三十八條 郵便物ノ留置期間ハ三十日トス
- 交通不便ニシテ其ノ受取人前項ノ期間ニ出頭シ能ハスト認ムル地ニ宛テタル郵便物ニ限り特ニ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘク
- 第三十九條 通常郵便物ハ之ヲ書留ト爲スコトヲ得但シ價格表記ト爲シタルモノハ書留ト爲スコトヲ得ス
- 第四十條 書留郵便物ハ引受ノ際差出人ニ該郵便物ノ受領證ヲ交付ス
- 書留郵便物ヲ配達、送付又ハ交付スルトキハ受取人又ハ差出人ニ別ニ定ムル式紙ニ受領證印セシメ代人ノヲ受取ルトキハ其ノ代人タル資格及氏名ヲ記入證印セシメ之ヲ以テ送達ノ證ト爲ス
- 官廳、船舶學校、會社、旅館其ノ他多人數ノ集合スル箇所又ハ之ヲ肩書シタルモノニ配達若ハ還付スヘキ書留郵便物ヲ其ノ受付ニ引渡シタルトキハ本人ニ送達シタルモノト看做ス

第四節 價格表記

第四十一條 密封シタル郵便物ハ之ヲ價格表記ト爲スコトヲ得但シ書留ト爲シタル通常郵便物ハ價格表記ト爲スコトヲ得ス

第三十五條 第三號ノ表記金額ハ在中品通貨ナルトキハ其ノ金高ト異ナルコトヲ得ス又通貨以外ノ物件ナルトキハ其ノ市價ヲ超過スルコトヲ得ス

價格表記金額ノ制限ハ金千圓トス

第四十二條 價格表記郵便物ノ受授ニ關シテハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第五節 引受時刻證明

第四十三條 書留通常郵便物ハ引受時刻證明ト爲スコトヲ得

第四十四條 引受時刻證明郵便物ハ引受ノ際差出人ニ交付スヘキ受領證ニ其ノ引受時刻ヲ記入シテ之ヲ證明ス

第四十五條 配達郵便官署ニ於テ引受時刻證明郵便物ノ配達ヲ了シタルトキハ直ニ之ヲ差出人ニ通知ス

第六節 別配達

第四十六條 書留又ハ價格表記ノ郵便物ハ別配達ト爲スコトヲ得

別配達料ニ不足アルトキハ其ノ不足額ヲ郵便物ノ受取人ヨリ徴收ス受取人之ヲ納付セサルトキハ差出人ヨリ徴收ス受取人ニシテ船料ヲ納付セサルトキ亦同シ

郵便物ノ受取人ハ一定ノ期間ヲ限リ書留又ハ價格表記郵便物ノ別配達ヲ配達郵便官署ニ請求スルコトヲ得但シ之カ爲事務ニ差支アルトキハ拒絕スルコトアルヘシ

前項ノ別配達料金ハ配達ノ際受取人ヨリ之ヲ徴收ス

別配達ノ請求ヲ爲シタル受取人ハ何時ニテモ其ノ請求ヲ取消スコトヲ得

第四十七條 別配達ノ郵便物ハ通常ノ配達時刻ニ拘ラス直ニ特使ヲ以テ之ヲ配達ス

別配達ノ郵便物ニシテ配達ノ際受取人不在其ノ他ノ事故ニ依リ交付スルコト能ハサルトキハ別配達ノ效力ヲ失フ

第七節 配達證明

第四十八條 書留又ハ價格表記ノ郵便物ハ配達證明ト爲スコトヲ得

第四十九條 配達郵便官署ニ於テ配達證明郵便物ノ配達ヲ了シタルトキハ其ノ配達ノ證明書ヲ差出人ニ送付ス

第八節 内容證明

第五十條 封緘シタル書留通常郵便物ニシテ其ノ内容カ文書ナルトキハ内容證明ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ他ノ物件ヲ之ニ封入スルコトヲ得ス

前項ノ文書ハ日本語又ハ漢字ヲ以テ明瞭ニ記載シタルモノニ限ル

第五十一條 内容證明ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ其ノ郵便物ニ内容文書ノ謄本ニ通テ添ヘ差出スヘシ

内容文書ノ同文ナル二箇以上ノ郵便物ニ付テモ亦前項ニ同シ

第五十二條 内容證明郵便物ハ其ノ謄本ニ照シテ之ヲ検査シ相違ナキトキハ原本及謄本ノ各通ニ差出年月日及其ノ郵便物内容證明ノ旨並郵便官署名ヲ記入シ且一通ノ認證謄本ト原本及他ノ一通ノ認證謄本トハ通信日附印ヲ以テ割印ヲ施シ原本ハ立會ノ上差出人ヲシテ之ヲ封緘シテ差出サシメ認證謄本ノ一通ハ之ヲ差出人ニ交付シ一通ハ郵便官署ノ文書トシテ二年間之ヲ保存ス

第五十三條 内容證明郵便物差出後二年内ニ於テ内容文書ノ謄本ニ該郵便物ノ受領證ヲ添ヘ提出シ之カ内容検査ノ證明ヲ請求スル者アルトキハ郵便官署ニ保存スル認證謄本ニ照シテ之ヲ検査シ相違ナキトキハ前條ニ準シ相當證明ノ上之ヲ申請者ニ交付ス

前項ノ請求ヲ爲ストキハ賸本一通毎ニ第三十四條ニ定メタル内容證明料ト同一割合ノ料金ヲ納付スヘシ

第五十四條 郵便官署ニ保存スル認證賸本ヲ閱覽セムトスルトキハ該郵便物差出後二年内ニ於テ該郵便物ノ受領證ヲ提出シ之ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲ストキハ金五錢ヲ納付スヘシ但シ前條ノ請求ヲ爲スト同時ニ閱覽セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條 内容證明郵便物差出後二年内ニ於テ該郵便物ノ受領證ヲ提出シ配達ノ證明ヲ請求スル者アルトキハ之ヲ調査シ配達ノ濟否ヲ申請者ニ通知ス

前項ノ請求ヲ爲ストキハ金六錢ヲ納付スヘシ

第五十六條 第五十一條及第五十二條ノ賸本ニハ差出人及受取人ノ宿所氏名ヲ附記スヘシ二箇以上同文ノ賸本ハ受取人宿所氏名ヲ連記シ若ハ別ニ之ヲ記載シテ添附スヘシ但シ第五十三條ノ場合ニ於テ二箇以上同文ノモノニ付受取人ヲ異ニスルモノ毎ニ各別ノ賸本ヲ作製シ之カ證明ヲ求ムルトキハ其ノ各通ニ之ヲ記載スヘシ

前各項ニ依ル差出人及受取人宿所氏名ノ記載ハ料金徴收上賸本ノ枚數ニ算入セス

第五十七條 賸本ハ一行二十字詰一枚二十行以内トシ文字ヲ改竄スルコトヲ得ス文字ヲ挿入シタルトキハ其ノ字數及其ノ挿入スヘキ箇所ヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ記載シテ文字ヲ削除シタルトキハ其ノ文字ハ尙明ニ通讀シ得ヘキ様字體ヲ存シ其ノ削除シタル字數及箇所ヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ記載スヘシ

前項ノ欄外又ハ末尾記載ノ箇所ニハ通信日附印及差出人又ハ申請者ノ印ヲ捺捺スヘシ紙數二枚以上ニ互ルトキハ毎葉ノ綴目ニモ之ヲ捺捺スヘシ

第五十八條 内容證明郵便物ハ朝鮮總督府通信局長官ノ指定スル郵便官署ニ限り之カ引受ヲ爲ス

第五十九條 内容證明郵便物ニ關シテハ名宛變更ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第九節 代金引換

第六十條 價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ代金引換ト爲シ其ノ郵便物ト代金トノ引換ヲ郵便官署ニ委託スルコトヲ得

代金引換郵便ニ依ル金額ノ制限ハ金千圓トス

第六十一條 代金引換郵便物ハ到着郵便官署ニ留置キ其ノ旨ヲ受取人ニ通知シ受取人ノ出頭ヲ待テ代金ト引換ニ之ヲ交付ス其ノ留置期間ハ十日間トス

前項通知書發送後受取人ハ代金引換郵便物ニ對シ其ノ轉送ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項留置ニ關シテハ第三十八條第二項及第七條ノ規定ヲ準用ス

第六十二條 取立郵便官署ニ於テ代金引換郵便物ノ代金ヲ其ノ受取人ヨリ取立テタルトキハ引受郵便官署ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書及該郵便物ノ受領證取立金送達料ヲ差出シ之ト引換ニ取立金ノ交付ヲ受クヘシ

第六十三條 前條通知書ハ銀行ニ對シ之ヲ讓渡スコトヲ得共ノ讓渡ニ關シテハ郵便爲替證書引讓渡ノ規定ヲ準用ス

第六十四條 代金引換郵便物ノ受領證ヲ亡失シタルトキハ差出人ハ其ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ郵便官署ハ相當ノ擔保ヲ提供セシムルコトアルヘシ

第六十五條 代金引換郵便物ノ差出人代金引換ノ取消ヲ爲サトスルトキハ第四百四條郵便物取戻ノ請求ニ關スル料金又代金引換金額ノ變更ヲ爲サトスルトキハ同條郵便物名宛變更ノ請求ニ關スル料金ト同額ノ料金ヲ前納シテ之ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第四百四條第二項但書ヲ準用ス



第十節 現金取立

第六十六條 代金受領證、株式配當券、公債又ハ社債ノ利券、保險掛金受領證ニシテ持參人ニ支拂ハルヘキモノハ郵便官署ノ郵便區市内ニ限リ現金取立トシテ其ノ金額ノ取立ヲ郵便官署ニ委託スルコトヲ得

現金取立郵便ニ依ル金額ノ制限ハ一口ニ付金千圓トス

第六十七條 現金取立ハ一口ニ付二通以上ノ證券ヲ委託スルコトヲ得ス但レ同一ノ債權者ニシテ同一ノ債務者ヨリ同時ニ取立テ得ヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 現金取立ノ委託ヲ爲サントスル者ハ現金取立委託書ト共ニ金額ヲ取立ツヘキ證券ヲ郵便官署ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第六十九條 一定ノ期日ニ取立ツヘキ證券ハ債務者所在地ニ達スヘキ日數ヲ除キ該期日ヨリ早クモ十五日遅クモ五日前ニ之ヲ委託スヘシ

第七十條 現金取立郵便ニ依ル證券ヲ債務者ニ呈示ノ際其ノ金額ヲ取立フルコトヲ得サル場合ニ於テ直ニ其ノ證券ノ還付ヲ望ム者ハ委託書ニ其ノ旨記入シテ差出スヘシ

第七十一條 現金取立郵便物ノ到着郵便官署ハ債務者ニ委託證券呈示ノ期日ヲ豫告シ該期日ニ債務者ノ居所ニ就テ證券引換ニ其ノ金額ノ支拂ヲ求ムヘシ但レ債權者其ノ居所ヲ移轉シ移轉先向一取立區域内ナルトキハ其ノ移轉先ニ就テ同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十二條 委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ支拂拒絶ニ依ルニ非ズレテ其ノ金額ヲ取立フルコト能ハサルトキハ郵便官署ハ七日内ニ指定ノ郵便官署ニ出頭シテ該金額ノ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ記載シタル告知書ヲ其ノ居所ニ差置スヘシ但レ第七十條ニ依ル請求アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條 委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ所在不明ナルトキ其ノ取立區域外ニ移轉シタルトキ、債務者カ其ノ金額ノ支拂ヲ拒絶シタルトキ又ハ其ノ金額ヲ所定ノ期間内ニ支拂ハサルトキハ

郵便官署ハ委託證券受領證ト引換ニ委託ノ證券ヲ差出人ニ還付ス

第七十四條 取立郵便官署ニ於テ委託證券ノ金額ヲ其ノ債務者ヨリ取立タルトキハ引受郵便官署ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書委託證券ノ受領證及取立金送達料ヲ差出シ之ト引換ニ取立金ノ交付ヲ受クヘシ

第七十五條 前條通知書ノ讓渡ニ關シテハ第六十三條ノ規定ヲ準用ス

第七十六條 委託證券ノ受領證亡失ノ場合ニ於ケル證明書差出方ニ關シテハ第六十四條ノ規定ヲ準用ス

第七十七條 現金取立ノ取消ニ關シテハ第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第十一節 廣告郵便

第七十八條 差出人ノ指定シタル郵便官署ニ於テ受取人ヲ指定セズレテ其ノ区内ニ送達スル廣告引札等各種ノ印刷物ハ廣告郵便物ト稱ス

第七十九條 廣告郵便物ノ料金ハ百通又ハ其ノ端數毎ニ同一郵便区内ハ金五錢、同一郵便區外ハ金十二錢トス同時ニ三千一通以上ヲ差出ストキハ三千一通分ヨリ百通又ハ其ノ端數毎ニ同一郵便区内ハ金四錢、同一郵便區外ハ金十錢トス

第八十條 廣告郵便物ハ一通ニ及ブ超過スルコトヲ得ス

第八十一條 廣告郵便物ニハ看易キ場所ニ「廣告郵便」ノ文字ヲ表記スヘシ

第八十二條 廣告郵便物ハ配達ヲ要スル郵便官署毎ニ把束シ差出人ノ宿所氏名、配達ヲ要スル郵便官署名及通數ヲ記載シタル請求書ニ料金相當ノ郵便切手ヲ添ヘ之ト共ニ郵便官署ニ差出スヘシ

第八十三條 廣告郵便物ハ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ配達シ且通信日附印ヲ押捺セス

第十二節 約束郵便

第八十四條 定期刊行物書籍及印刷物ハ別ニ定ムル所ニ依リ約束郵便ト爲スコトヲ得  
第八十五條 約束郵便物ハ通知ヲ要セサル留置ト爲スモノヲ除クノ外他ノ特殊取扱ト爲スコトヲ得ス

第八十六條 約束郵便物ニハ引受日附印ノ押捺ヲ省略スルコトアルヘレ  
第八十七條 約束郵便トシテ差出ス郵便物ニハ郵便切手ヲ貼用セス一定ノ期間満了後通貨ヲ以テ其ノ期間ニ差出シタル郵便物ノ料金を納付スヘレ

第十三節 郵便私書函

第八十八條 郵便私書函ヲ使用セムトスル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ當該郵便官署ノ許可ヲ受ケヘ  
第八十九條 別ニ定ムル規定ニ依リ郵便私書函使用ノ許可ヲ受ケタル者ニ宛テタル料金完納ノ普通通常郵便物ハ其ノ私書函ニ配付ス

第九十條 郵便私書函使用者ハ別ニ定ムル規定ニ依リ豫メ許可ヲ受ケ前條以外ノ郵便物ヲ郵便官署ニ於テ受取ルコトヲ得

第三章 郵便物ノ差出

第九十一條 普通郵便ニ依ル通常郵便物ハ郵便函ニ差入ルヘレ但シ容積大ナルカ又ハ箇數多キカ爲郵便函ニ差入ルコト能ハサルモノハ郵便官署ニ差出スヘレ

小包郵便物及特殊ノ取扱ヲ要スル通常郵便物ハ郵便官署ニ差出スヘレ但シ書留又ハ價格表記ニ非サル留置郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第九十二條 郵便官署ニ於テ郵便物ノ引受ヲ爲スハ郵便取扱時間中ニ限ル但シ別記郵便物及特ニ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十三條 郵便物ノ重量ハ其ノ郵便物ニ貼用シタル郵便切手ノ重量ヲモ合算ス但シ價格表記郵便物ニ使用スル政府發行ノ封皮ニシテ其ノ表面ニ印刷シタル封皮ノ重量ハ之ヲ算入セス

第九十四條 郵便料金ノ徴收ニ關シ同一府郡内ニ數箇ノ郵便區アルトキハ特ニ告示スル場合ヲ除クノ外其ノ數箇ノ郵便區ヲ通シテ同一郵便區ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ郵便區ノ一部同一府郡外ニ涉ルモノアルトキハ其ノ部分ヲ通シテ同一郵便區ト看做ス

第九十六條ニ規定スル郵便區市内數箇連接スルトキハ其ノ全區域ヲ通シ第一項ノ同一郵便區ト看做ス

第九十五條 別記郵便料ニ關スル里程ハ郵便官署ノ定ムル所ニ依ル

第四章 郵便物ノ配達

第九十六條 郵便區ヲ分チテ市内及市外ノ二種トス  
郵便區市内ハ郵便物ノ配達ヲ爲スヘギ郵便官署所在地ヲ以テ其ノ地域トシ郵便區市外ハ郵便區市内ヲ除キタル部分ヲ以テ其ノ地域トス

前項ノ郵便區市内ハ通信局長官ノ指定ニ依リ其ノ地域ヲ擴張又ハ制限スルコトヲ得

第九十七條 深山孤島其ノ他僻陬ノ地等交通困難ノ場所ニ居住スルモノニ宛テタル郵便物ニシテ通常ノ方法ニ依リ配達シ難キモノハ郵便官署ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス差出人ニ郵便物ヲ還付スル場合亦同シ

前項ノ留置期間ハ六十日トス

第九十八條 郵便所ノ郵便區内ニ宛テタル價格表記通常郵便物及小包郵便物ハ最寄郵便官署ニ留置キ之ヲ受取人ニ通知シ其ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス差出人ニ郵便物ヲ還付スル場合亦同シ

前項ノ留置期間ハ第三十八條ノ例ニ依ル

第九十九條 二人以上ニ宛テタル郵便物ハ其ノ内ノ一人ニ配達ス

第一百條 正當受取人ニ非サル者ニシテ郵便物ノ配達ヲ受ケタル者ハ速ニ其ノ事由及居所氏名ヲ記載シタル附箋ヲ爲シ料金を納付スルコトナク再ヒ郵便ニ差出スカ又ハ郵便官署ニ申出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ郵便物ヲ誤テ開披シタルトキハ之ヲ封緘シ又ハ相當ノ手當ヲ爲シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

郵便物ヲ差出人ニ還付スヘキ場合亦前二項ニ準ス

第一百一條 郵便官署カ郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受ケタル者ニ就キ其ノ郵便物ノ封皮若ハ葉書ノ交付ヲ求メ又ハ其ノ郵便物ノ受取ニ關スル狀況ヲ探問スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第一百二條 正當ノ事由ナクシテ第五百條ノ手續ヲ爲サス又ハ前條ノ要求ニ應セサル者ハ科料ニ處ス

第五章 郵便物ノ轉送及還付

第一百三條 郵便物ノ轉送及還付ハ別ニ料金を徴收セス但シ同一郵便區内ニ發着スル小包郵便物ニシテ其ノ郵便區外ニ轉送還付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ轉送料ハ請求人ヨリ、還付料ハ差出人ヨリ各其ノ第一千一條ニ依ル料金ノ差額ヲ追徴ス

第一百四條 郵便物ノ差出人ハ未ダ配達ヲ了セサル郵便物ノ名宛變更又ハ取戻ヲ請求スルコトヲ得但シ之カ爲事務ニ差支アルトキハ拒絶スルコトアルヘシ

前項ノ請求ヲ爲サントスル者ハ郵便物差立前ナルトキハ金五錢差立後ニシテ郵便ニ依ルモノハ金八錢電信ニ依ルモノハ取戻ノ請求ニ係ルトキハ金四十錢名宛變更ノ請求ニ係ルトキハ金七十錢ヲ前納スヘシ但シ差立準備前郵便物ノ取戻請求ニ應レタルトキハ別ニ其ノ料金を徴收セス

第一百五條 郵便物ノ受取人他ニ移轉シ共ノ移轉先分明ナルトキハ之ヲ其ノ移轉先ニ轉送スヘシ郵便物ヲ差出人ニ還付スヘキ場合ニ於テ差出人他ニ移轉シタルトキ亦同シ

同一郵便區内ニ發着スル小包郵便物ノ受取人ニシテ其ノ郵便區外ニ移轉シタルトキハ前項ノ規定ニ依ラス差出人又ハ受取人ヨリ其ノ轉送ヲ請求シタルトキハ限リ之ヲ轉送ス

第一百六條 郵便物ノ受取人他ニ移轉シタルトキハ其ノ配達先ニ於テ配達ヲ受ケタル際受取人ノ所在地ヲ集配人ニ明示シ前條ノ轉送ヲ求ムルコトヲ得

普通通常郵便物ハ其ノ配達ヲ受ケタル後該郵便物ニ轉送先ヲ記載シタル附箋ヲ爲シ其ノ配達ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ料金を納付ヲ要スルコトナク再ヒ郵便ニ差出スコトヲ得其ノ期限經過後郵便ニ差出シタルトキハ新ニ差出シタルモノト看做ス

郵便物ヲ差出人ニ還付スヘキ場合ニ於テ差出人他ニ移轉シタルトキ亦前二項ニ準ス

第一百七條 郵便物ノ受取人所在不明ナルトキ、郵便料不納ナルニ依リ受取人共ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ留置期間ヲ經過シタルトキハ配達ニ能ハサル郵便物トシテ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス

前項ノ外同一郵便區内ニ發着スル小包郵便物ノ受取人共ノ郵便區外ニ移轉シタル場合ニ於テ第三十二條ニ依リ差出人ヨリ豫メ其ノ轉送若ハ棄却ノ請求ヲ爲サス又ハ第三十三條ニ依リ受取人ヨリ轉送ノ請求ヲキトキハ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス轉送ノ請求ヲ爲シタル郵便物ニシテ其ノ請求ニ依リテ配達ヲ遂クル能ハサル場合亦同シ

第六章 損害賠償及報酬

第一百八條 郵便物ニ關スル損害及郵便法第四條ニ依リ損害ノ賠償並郵便法第五條ニ依ル報酬ハ郵便官署ニ之ヲ請求スヘシ

第一百九條 郵便物ノ配達又ハ還付ノ際郵便物ニ關スル損害ノ申立アリタルトキハ申立人ヲシテ其ノ事由ヲ證明セシムヘシ郵便官署ニ於テ郵便法第三十四條ニ依リ損害ナレト看做ストキハ其ノ事由ヲ記載シタル調書ト共ニ再ヒ該郵便物ヲ申立人ニ交付スヘシ

前項郵便物ニシテ損害ナレト看做ス能ハサルトキハ申立ノ日ヨリ七日内ニ申立人ヲ立會ハシメ

之ヲ開披シテ損害ノ有無ヲ検査シ損害ナシト認メタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル調査ト共ニ郵便物ヲ申立人ニ交付シ損害アリト認メタルトキハ申立人ニ於テ其ノ郵便物ノ任意受取方ヲ申出ツル場合ヲ除クノ外損害調査ヲ作製シ之ヲ損害賠償ノ請求權ヲ有スル者ニ交付ス

第一百十條 前條第二項ノ場合ニ於テ申立人立會ヲ爲ササルトキ其ノ申立人受取人ナルトキハ郵便物ハ直ニ差出人ニ還付ス申立人差出人ナル場合ニ於テハ郵便法第十四條ニ依リ還付シ能ハサル郵便物トシテ之ヲ取扱フ

第一百十一條 郵便物ニ關スル損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ其ノ種別品名箇數實價請求金額共ノ他必要ナル事項及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出し第九條ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ請求ヲ爲サルトキハ別ニ其ノ調査ヲ添付スヘシ

郵便法第四條ニ依ル損害ノ賠償又ハ第五條ニ依ル報酬ヲ請求スル者ハ其ノ請求金額及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ

第一百十二條 損害賠償及報酬ノ請求ヲ受ケタルトキハ郵便官署ハ其ノ請求ノ當否及金額ヲ審査シ其ノ決定ヲ請求人ニ通知ス

第一百十三條 損害賠償ノ請求ヲ爲シタル者其ノ請求ヲ取消シタル場合ニ於テ郵便物ノ毀損ニ係ル請求ナルトキハ該郵便物ヲ其ノ請求人ニ交付ス

第一百十四條 郵便法第三十三條ニ依ル郵便物損害賠償ノ金額ハ左ノ割合ニ依ル

- 一 書留通常郵便物亡失ノトキハ一箇ニ付金十圓
- 二 小包郵便物ノ損害賠償額
  - 亡失ノトキハ 重量二百匁迄ハ金二圓、二百匁以上ハ二二百匁又ハ其ノ端數ヲ超過スル毎ニ金一圓ヲ加フ
  - 毀損ノトキハ 總重量ニ對スル減重量ノ割合ニ依リ重量二百匁迄ハ金一圓以内、二百匁以

上ハ二百匁又ハ其ノ端數ヲ超過スル毎ニ金五十圓以内ヲ加フ

三 價格表記郵便物全部亡失ノトキハ表記金額ノ全額一部亡失又ハ毀損ノトキハ其ノ表記金額ト殘存價格トノ差額

四 現金取立郵便ニ依ル證券ノ亡失又ハ失効ノトキハ其ノ實損額

五 代金引換郵便物ノ取立金ノ取立ヲ爲サシテ之ヲ交付シタルトキハ其ノ實損額

附則

本令ハ明治四十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年朝鮮總督府令第六十四號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治四十三年十二月二十八日府令 朝鮮總督府令第六十四號ハ朝鮮内陸著小包郵便物ニ關スル件ナリ

○朝鮮總督府令第十號(官報 二月十四日)

鐵道船舶郵便規則左ノ通定ス

朝鮮總督 子爵寺內正毅

鐵道船舶郵便規則

第一條 鐵道船舶郵便法ニ依リ運送スヘキ郵便物ニハ現ニ郵便物運送用ニ供スル必要物件ヲ包含ス

第二條 運送業者ノ郵便物運送及授受ニ關スル取扱方法並運送業者ニ交付スヘキ金額ノ仕拂方法ハ郵便官署ノ指定スル所ニ依ル

第三條 郵便物ヲ運送スヘキ區域度數時刻、列車並郵便車室又ハ郵便船室ノ容積及郵便物ノ受渡局ハ郵便官署ノ指定スル所ニ依ル

第四條 鐵道船舶郵便法第五條ニ依リ郵便車室又ハ郵便船室ニ搭乘スヘキ郵便物取扱員及其ノ監  
 視員ハ制服ヲ著シ又ハ搭乗證ヲ携帯スヘシ  
 鐵道監査員、鐵道係員又ハ船員ハ其ノ職務執行上必要アル場合ニ限り郵便車室又ハ郵便船室内  
 ニ出入スルコトヲ得

第五條 鐵道船舶郵便法第六條ニ依リ郵便官署ノ要求ニ應シ必要ナル設備及維持ヲ爲サントスル  
 トキハ運送業者ハ豫メ工事仕様書並經費豫算書ヲ提出シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 郵便物ヲ運送スル船舶ニシテ發着日時ヲ定メタルモノ其ノ日時ヲ變更スルトキハ船舶運  
 送業者ハ五日前ニ之ヲ當該郵便官署ニ報告スヘシ但シ天災其ノ他避クヘカラサル事故ノ爲發着  
 日時ヲ變更ヲ決定シタルトキハ直ニ報告スヘシ

第七條 一列車又ハ一船舶ニ於ケル郵便車室又ハ郵便船室ハ郵便官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ  
 二箇所以上ニ分離スルコトヲ得ス

第八條 郵便車室及郵便船室ノ位置ハ特ニ郵便官署ノ指定ナキトキト雖常ニ之ヲ一定スヘシ但シ  
 正當ノ理由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 郵便車室及郵便船室ノ容積ト稱スルハ各其ノ區畫障壁ノ内容積ヲ謂フ

第十條 郵便車室ノ容積ハ室内最低ノ高さニ依テ算定ス

第十一條 郵便官署ヨリ郵便車室ヲ交付シタル場合ニ於テ鐵道船舶郵便法第六條及第十條ニ依リ鐵  
 道運送業者ニ交付スヘキ金額ハ同法第十條第一項ニ掲グル各容積ニ應スル最高料金ノ五分ノ四  
 以內トス

第十二條 船舶運送業者ニ交付スヘキ運送料金ハ其ノ供給スル容積ニ應シ左ノ割合ニ依ル

三百立方尺迄	一 溼毎ニ	金四錢五厘以內
四百立方尺迄	一 溼毎ニ	金五錢八厘以內
五百立方尺迄	一 溼毎ニ	金七錢一厘以內
六百立方尺迄	一 溼毎ニ	金八錢五厘以內
七百立方尺迄	一 溼毎ニ	金十錢以內
八百立方尺迄	一 溼毎ニ	金十一錢六厘以內
九百立方尺迄	一 溼毎ニ	金十三錢三厘以內
千立方尺迄	一 溼毎ニ	金十五錢一厘以內

千立方尺ヲ超過シタル場合ニハ其ノ全容積ニ對シ百立方尺迄ニ付一溼毎ニ金一錢五厘以內

第十二條 郵便官署ニ於テ特別ノ條件ヲ附シタルトキハ前條ノ料金率ヲ增加スルコトアルヘシ

第十三條 第十一條ノ運送料金ハ鐵道船舶郵便法第十三條ノ場合ヲ除クノ外船舶運送業者ニ於テ  
 郵便官署ト船舶間ニ郵便物ヲ運送スル場合ノ費用ヲモ包含ス陸上ノ運送距離一里ヲ超過スル場  
 合ニ於テハ其ノ陸路運送ノ實費ヲ支給ス

第十四條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便物ヲ搭載シタル鐵道列車又ハ船舶ノ天災事變ニ  
 遭遇スルトキハ郵便官署又ハ郵便取扱員ノ要求ニ依リ列車又ハ船舶ニ郵便物ヲ搭載ノ儘保管シ  
 又ハ他ノ貨物ニ先キ其ノ指定ノ地ニ送達スヘシ其ノ送達ニ要スル費用ハ之ヲ支給ス

第十五條 第二條又ハ第三條ニ依ル郵便官署ノ指定ニ違反シタル者第六條又ハ第七條ニ違反シ  
 タル者及正當ノ事由ナクシテ第八條又ハ第十四條ニ違反シタル者ハ料料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府令第十一號(官報 二月十四日)  
通常郵便物市内特別取扱規則左ノ通定ム

明治四十四年二月九日

朝鮮總督 子爵寺内正毅

通常郵便物市内特別取扱規則

- 第一條 同一郵便區市内ニ發著スル左ノ郵便物ヲ同時ニ百箇以上差出ストキハ本令ノ定ムル所ニ依リ市内特別取扱ト爲スコトヲ得
- 一 全部又ハ大部分ヲ印刷シタル同文ノ有封又ハ無封書狀但シ有封書狀ニハ其ノ全部ニ對シ同様ニ返信用ノ郵便葉書郵便切手封筒又ハ印刷シタル各種ノ用紙並之ニ必要ナル收入印紙ヲ封入シテ添附スルヲ妨ケス
- 二 同一内容ノ第三種及第四種郵便物  
連接スル數箇ノ郵便區市内ハ之ヲ前項ノ同一郵便區市内ト看做ス
- 第二條 市内特別取扱郵便物ノ料金左ノ如シ
- 一 有封同文書狀一箇ニ付キ 重量四匁迄金一錢五厘四匁以上ハ四匁迄毎ニ金一錢ヲ加フ
  - 二 無封同文書狀一箇ニ付キ 重量十匁迄金一錢五厘十匁以上ハ十匁迄毎ニ金一錢ヲ加フ
  - 三 第三種郵便物一箇ニ付キ 重量二十匁迄金四厘二十匁以上ハ二十匁迄毎ニ金三厘ヲ加フ  
同時ニ三十匁以上ヲ差出ストキハ三厘ニ加フ
  - 四 第四種郵便物一箇ニ付キ 重量三十匁迄金六厘三十匁以上ハ三十匁迄毎ニ金五厘ヲ加フ  
同時ニ三十匁以上ヲ差出ストキハ三厘ニ加フ
- 第三種及第四種市内特別取扱郵便物ニシテ別ニ定ムル原簿配達ノ方法ニ依ルモノハ前項ノ外百箇迄金五錢百一箇以上ハ十箇迄毎ニ金五厘ヲ加ヘ徵收ス

第三種及第四種市内特別取扱郵便物料金切手徵收ノ際六厘以上一錢未満ノ端數ヲ生シタルトキハ五厘トシテ計算シ五厘未満ノトキハ之ヲ切捨ツ

- 第二條 市内特別取扱郵便物ハ約束郵便ニ依ルモノヲ除クノ外料金前納トス
- 第四條 市内特別取扱郵便物ハ約束郵便以外ノ特殊取扱ト爲スコトヲ得ス
- 第五條 有封同文書狀ハ差出ノ際郵便官署ニ其ノ見本一箇ヲ提出スヘシ
- 同文書狀ハ取扱中之ヲ開披點檢スルコトアルヘシ
- 第六條 第三種及第四種市内特別取扱郵便物ニシテ原簿配達ノ方法ニ依ルモノニハ受取人住所氏名ノ記入ヲ省略スルコトヲ得
- 前項ノ郵便物ニハ郵便官署ニ於テ受取人ノ氏名ヲ記入スルコトアルヘシ
- 第七條 市内特別取扱郵便物ハ其ノ表面看易キ場所ニ「市内特別」ノ文字ヲ表記スヘシ但シ原簿配達ノ方法ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 市内特別取扱郵便物ハ特ニ指定シタル郵便官署ニ差出スヘシ
- 第九條 市内特別取扱郵便物ニシテ約束郵便ニ依ラサルモノハ箇數ヲ記載シタル適宜ノ用紙ニ料金相當ノ郵便切手ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ
- 第十條 市内特別取扱郵便物ニハ通信日附印ノ押捺ヲ省略スルコトアルヘシ
- 第十一條 市内特別取扱郵便物ニシテ第一條ノ區域内ニ於テ配達ヲ了シ能ハサルモノハ之ヲ差出人ニ還付ス
- 第十二條 市内特別取扱トシテ差出シタル郵便物中内容ノ異ナリタルモノアルトキハ之ヲ差出人ニ還付シ其ノ郵便物ノ全部ニ對シ更ニ差出人ヨリ一般郵便料金ノ二倍ニ對スル不足額ヲ徵收ス
- 第十三條 市内特別取扱郵便物ハ十二月十五日ヨリ翌年一月十日迄其ノ取扱ヲ爲サス但シ差出郵便官署ノ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 本令ニ定ムルモノノ外市内特別取扱郵便物ニ關シテハ一般ノ規定ニ依ル

附則

本令ハ明治四十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス  
○朝鮮總督府令第十二號(官報 二月十四日)  
特許審判書類特別取扱郵便規則左ノ通定ス

明治四十四年二月九日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

特許審判書類特別取扱郵便規則

第一條 特許局ニ於テ特許法、意匠法、商標法及實用新案法ニ依ル左ノ書類以下凡ニ書類ヲ郵便ニ依リ送達セムトスルトキハ其ノ取扱ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

一 審判、抗告審判又ハ權利確認ノ査定ニ關スル書類  
二 前號書類ノ外査定書共ノ他期日若ハ期間ノ定アルモノ又ハ特許法第四十四條實用新案法第二十二條ニ依ル處分書

第二條 審判書類特別取扱料金ハ通常郵便物料金ノ外左ノ金額ヲ加フ  
前條第一號ノ書類 一箇ニ付金十二錢  
前條第二號ノ書類 一箇ニ付金十錢

第三條 審判書類特別取扱ヲ要スル郵便ニ關スル料金ハ前納トス

第四條 審判書類ニハ其ノ表面看易キ場所ニ第一號審判書類又ハ第二號審判書類ノ文字ヲ記載シ差出年月日及名宛ヲ記載シテ審判書類送付簿ヲ添ヘ之ヲ郵便官署ニ差出スヘシ

郵便官署ハ引受ノ際前項ノ送付簿ニ受領印ヲ押捺シ該郵便物受領證トシテ之ヲ差出人ニ還付ス第一號審判書類ヲ郵便官署ニ差出ス場合ニ於テハ該書類送達書用紙及送達告知書用紙ヲ添付スヘシ

第五條 第一號審判書類ヲ配達シタルトキハ受取人ヲシテ送達書用紙ニ受領證印セシメ代人ニ於テ其ノ書類ヲ受取ルトキハ代人タル資格及氏名ヲ記入證印セシメ之ヲ差出人ニ送付ス

第六條 第一號審判書類ノ配達ニ關シテハ民事訴訟法第四百四十四條乃至第四百四十九條及第五百五十一條第一項第二項ノ規定ヲ準用ス

第七條 第一號審判書類ノ還付ニ關シテハ郵便規則第四十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第八條 第二號審判書類ハ書留通常郵便物ノ配達證明ト同一ノ取扱ヲ爲ス但シ受取人法律上ノ理由ナクシテ受取ヲ拒ミ又ハ配達證ニ受領證印ヲ拒ミタルトキハ其ノ書類ヲ宛所ニ差置キ其ノ事由ヲ配達證明書ニ記入スヘシ

第九條 本令ニ定ムルモノノ外特許審判書類ノ取扱ニ關シテハ一般ノ規定ニ依ル

附則

本令ハ明治四十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス  
○朝鮮總督府令第十三號(官報 二月十四日)

郵便物包裝規則左ノ通定ス

明治四十四年二月九日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

郵便物包裝規則

第一條 郵便物ノ包裝ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 郵便物ハ其ノ遞送距離、容積、重量及物品ノ性質等ニ應シテ摩擦、壓迫、動搖、乾燥、浸濕等ニ耐シ内容ヲ保護シ且他ニ損傷ヲ與ヘサル様適當ニ之ヲ包裝スヘシ

第三條 無封書狀、定期刊行物、書籍、印刷物、業務用書類、寫真、畫圖ハ開封ト爲シ又ハ帶紙若ハ紐等ヲ以テ結束シ商品見本及雕形、博物館學上ノ標本、農産物種子ハ開閉自在ナル箱又ハ蓋ニ納ムル

等容易ニ内容ヲ検査シ得ヘキ様包裝スヘシ但シ各種ハ郵便官署ノ承認ヲ受ケ之ヲ密閉スルコトヲ得

第四條 小包郵便物ハ強韌ナル紙若ハ布ノ類ヲ以テ之ヲ包ミ又ハ箱若ハ罐等ニ入レ居損セサル様包裝スヘシ但シ品質形状ニ依リ其ノ儘第二條ノ目的ヲ達シ得ヘキモノハ適當ニ之ヲ結束シ其ノ他ノ包裝ヲ省略スルコトヲ妨ケス

同一郵便區市内ニ發着スル價格表記以外ノ小包郵便物ニシテ取扱上差支ナキモノハ適當ニ之ヲ結束シ其ノ他ノ包裝ヲ省略スルコトヲ得

散箇連接シタル郵便區市内ハ前項ノ同一郵便區市内ト看做ス

第五條 郵便物ノ保護ニ關シテハ前各條ニ依ルノ外包装上左ノ事項ニ注意スヘシ

- 一 帶紙ハ遞送中最モ損傷シ易キニ依リ特ニ紙質ノ強韌ナルモノヲ使用スルコト
- 二 臺紙ナキ寫眞、書畫、圖等ニシテ平面ノ儘ナルモノハ厚紙又ハ板等ニ挟ミテ差出スコト
- 三 二箇以上ノ物件ヲ合裝スルトキ又ハ郵便物自體ノ重量ニ依リ包裝ヲ破損シ脫離スルノ虞アルモノハ麻絲等ヲ以テ十字形ニ結束スルコト
- 四 汽車ノ便ナキ陸路又ハ水路ヲ經テ遠隔ノ地ニ達スヘキ郵便物ハ特ニ堅固ニ包裝スルコト

第六條 價格表記郵便物ハ其ノ封シ目ニ別ニ定ムル價格表記郵便物封紙ヲ貼附シ其ノ封紙紙ト封皮トニ掛ケ鮮明ニ封印スヘシ

第七條 通貨ヲ封入スル價格表記通常郵便物ハ適當ニ包裝シ之ヲ別ニ定ムル價格表記郵便物封皮ニ納ムヘシ

第八條 鋒刃其ノ他之ニ類スル物件ハ適當ノ箱ニ藏メ又ハ其ノ危險ノ部分ヲ覆ヒテ之ヲ箱ニ藏ムル等外覆ヲ毀損セサル様包裝スヘシ

第九條 流動體又ハ熔融若ハ潮解シ易キ物及臭氣ヲ發スヘキ物件ハ之ヲ壘又ハ罐又ハ入レ樹脂又ハ錫蠟ノ類ヲ以テ密閉シ更ニ之ヲ適當ノ箱ニ藏ムヘシ

容易ニ熔融又ハ潮解セサルモ熔融若ハ潮解シ又ハ他物ノ浸潤スヘキ虞アル物件ハ防水布又ハ澁紙ノ類ヲ以テ適當ニ之ヲ包裝スヘシ

第十條 危險性ノ藥品ハ官公署、軍隊、海軍艦船、軍衙、醫師、齒科醫、獸醫、藥劑師、製藥者若ハ藥種商又ハ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者ニ限り前各條ニ依ルノ外左ノ各號ノ包裝ヲ爲シ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得但シ爆發性又ハ發火性ノ藥品ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 藥品ノ種類ニ應ジ一定ノ容器ニ藏メ内容品ノ漏出ヲ防クニ足ルヘキ裝置ヲ爲スコト
- 二 前號ノ容器ハ外部ノ壓力ニ耐ユル様堅固ナル箱ニ納ムルコト
- 三 內器ノ動搖ヲ防ク爲容器ト外箱トノ間隙ニ綿又ハ之ニ代ルヘキモノヲ填充スルコト
- 四 二種以上ノ藥品ヲ合裝セサルコト

第十一條 生活スル病原菌及病原菌含有ノ疑アル検査材料ハ官公署、官ノ許可ヲ受ケタル細菌検査所、醫師、獸醫又ハ特別ノ規定ニ依リ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者ニ限り前各條ニ依ルノ外左ノ各號ノ包裝ヲ爲シ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得

- 一 少許ノ分量ヲ一定ノ硝子壘又ハ硝子管ニ納メ護謄紙ヲ施シ蓋帽ヲ以テ該壘ヲ固定シ又ハ管口ヲ溶閉シ内容ノ漏出ヲ防クコト
- 二 前號ノ容器ハ外部ノ壓力ニ耐ユル様綿其ノ他ノ柔軟ナル物體ヲ以テ之ヲ被包シ鐵葉製其ノ他金屬製ノ罐ニ入レ密封シ更ニ之ヲ堅固ナル箱ニ藏ムルコト
- 三 内容ノ動搖ヲ防キ且破損スルモ其ノ液體ヲ吸收セシムル爲前號ノ罐ト箱トノ間隙ニ適當ノ綿又ハ之ニ代ルヘキモノヲ填充スルコト

第十二條 第十條及第十一條ノ郵便物ニハ其ノ表面看易キ場所ニ「危險物」ト朱書シ且差出人ノ實



格ヲ記載スヘシ

附則

本令ハ明治四十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス  
○朝鮮總督府令第十四號(官報 二月十四日)  
郵便切手類記號規則左ノ通定ム

明治四十四年二月九日

朝鮮總督 子爵寺内正毅

郵便切手類記號規則

- 第一條 郵便切手類ニ穿孔又ハ打出ヲ施シ使用セムトスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ郵便官署ニ差出スヘシ
- 一 申請者ノ住所、氏名及職業
- 二 使用郵便官署名 郵便物ヲ送スルヘキ郵便面ノ集配受持郵便官署名及料金ノ納付ノ爲ニ前項ノ申請書ニハ第三條ニ依リ調製シタル穿孔又ハ打出ノ見本ヲ添附スヘシ
- 第二條 穿孔又ハ打出ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備シタルモノニ限ル
  - 一 五字以内ノ文字又ハ簡單ナル模様ナルコト
  - 二 針孔又ハ打出ハ成ルヘク小ニシテ機械ニ依リ鮮明ニ施シタルモノナルコト
  - 三 字畫等ハ成ルヘク簡單ナルコト
  - 四 穿孔又ハ打出ノ爲郵便切手類ノ原形ヲ失ヒ又ハ取扱中之カ毀損ノ虞ナキコト
- 第三條 穿孔又ハ打出ノ見本ハ郵便切手類ニ貼付シテ用井實物ヲ以テ穿孔又ハ打出ヲ施シ左ノ見本票ニ之ヲ貼附シ穿孔又ハ打出ヲ不明ナラシメサル様申請者ノ印ヲ以テ割印ヲ施スヘシ

見本票

五分

郵便切手

住所

職 業 氏 名

- 前項ノ見本ハ郵便官署ノ指示ニ從ヒ必要ノ數量ヲ提出スヘシ
- 第四條 第一條ノ申請ヲ爲ストキハ手数料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ其ノ承認ヲ與ヘサルトキハ之ヲ還付ス
- 前項ノ手数料ハ郵便切手ヲ用井申請書ニ之ヲ添附スヘシ
- 第五條 穿孔又ハ打出ノ承認ヲ受ケタル者其ノ使用官署ヲ増加又ハ變更セムトスルトキハ豫メ前承認ヲ與ヘタル郵便官署ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ第三條ニ依リ穿孔又ハ打出ノ見本ヲ届書ニ添附スヘシ
- 第六條 本令ニ依ル承認ノ效力ハ承認ヲ受ケタル月ヨリ起算シ滿五年間トス
- 第七條 承認ヲ受ケタル穿孔又ハ打出ノ變更ニ關シテハ總テ新ニ申請スルモノト同一ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第八條 穿孔又ハ打出ノ承認ヲ受ケタル者氏名ヲ變更シ又ハ移轉シタルトキハ十日内ニ之ヲ其ノ承認ヲ受ケタル郵便官署ニ届出ツヘシ
- 第九條 本令ニ違反シテ使用シタル記號附郵便切手類ハ毀損又ハ汚斑シタルモノトシテ之ヲ取扱フ

附則

本令ハ明治四十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第十五號(官報 二月十四日)  
私製葉書製式規則左ノ通定ム

明治四十四年二月九日

私製葉書製式規則

朝鮮總督 子爵寺内正毅

- 第一條 私製葉書製式ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 私製葉書ノ表面ニハ共ノ上部又ハ側部ノ中央ニ郵便葉書タルコトヲ表示スヘキ日本文字又ハ外國文字ヲ明瞭ニ印刷又ハ筆書スヘシ但シ之ヲ併記スルモ妨ナレ
- 第三條 私製葉書ノ表面ニハ宛名ノ記入ヲ妨サル限リ左ノ事項ヲ印刷スルコトヲ得
  - 一 萬國郵便聯合ノ文字
  - 二 郵便葉書表面ノ記載方及郵便切手貼付方ノ注意文
  - 三 發行所、賣捌店ノ所在、名稱
  - 四 模様附輪廓但シ廣告文等一定ノ意味ヲ有スル文字ヲ用ウルコトヲ得ス
- 前項第一號乃至第三號ノ文字ノ種類ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス
- 第四條 私製葉書ハ縦四寸五分以上四寸七分以下横二寸八分以上三寸以下トシ共ノ厚サハ政府發行ノ郵便葉書ヲ標準トス
- 第五條 私製葉書ノ重量ハ一枚八分ヲ標準トス
- 第六條 寫真又ハ裝飾トシテ薄キ紙片、織物若ハ木羽ノ全面ヲ紙ニ密著セシメ之ヲ裏面トシタルモノハ容易ニ剝脱毀損ノ虞ナク且前項ノ主旨ニ抵觸セサル限リ之ヲ私製葉書ト爲スコトヲ得
- 第七條 透シ又ハ浮出ノ文字、畫紋ハ宛名ノ記入ニ妨ナク且前條第一項ノ主旨ニ抵觸セサル限リ

之ヲ施スコトヲ得

- 第七條 私製葉書表面ノ色合ハ白色又ハ他ノ淡色タルコトヲ要ス
- 第八條 私製葉書ニハ他ノ郵便物ヲ汚斑スヘキ著色ヲ爲スコトヲ得ス
- 第九條 本令ニ違反シタル私製葉書ハ前條ノ場合ヲ除クノ外第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス但シ第二條ノ表示ナキモノハ實物ニ應ジ種類相當ノ取扱ヲ爲ス

附則

本令ハ明治四十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス  
○朝鮮總督府令第十六號(官報 二月二十一日)  
電報規則中左ノ通改正ス

明治四十四年二月十三日

朝鮮總督 子爵寺内正毅

第四條第二項中「資金ノ受授ニ關シ金庫」ノ下ニ「或特ニ指定シタル銀行」ヲ加フ

附則

本令ハ明治四十四年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

朝鮮總督府令第三十八號電報規則(明治四十三年十月三十一日及十一月十四日)抄録  
第四條第一項及第二項  
局報トハ電信事務ニ關シ電信局所相互間ニ往復スル電報ヲ謂フ  
前項ノ外電信、電話及郵便、郵便貯金ノ事務ニ關シ電信電話又ハ郵便官署相互間ニ往復スル電報ハ朝鮮總督ニ於テ必要ト認ムルモノニ限リ局報ト爲スコトヲ得郵便貯金、郵便貯金及郵便取立金ノ取扱ニ要スル資本ノ受授ニ關シ金庫相互間ニ往復スル電報亦同シ

○朝鮮總督府令第十七號(官報 二月二十一日)  
官廳用、軍用及私設電信電話並特設電話維持規程中左ノ通改正ス

明治四十四年二月十三日

朝鮮總督 子爵寺内正毅

第九條ノ二 官廳用又ハ軍用電信電話ニシテ特殊ノ事由アリト認ムルモノニ限リ朝鮮總督府通信局長官ハ其ノ維持ノ依託ニ關シ前各條ノ規定ニ拘ラス特別ノ契約ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第十八號(官報二月二十三日)

官營水道給水規則左ノ通定ム

明治四十四年二月十八日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

官營水道給水規則

- 第一條 給水ヲ分チテ左ノ五種トス
  - 一 專用給水 一戸又ハ一箇所ノ専用ニ屬スルモノ
  - 二 共用給水 二戸以上ノ共用ニ屬スルモノ
  - 三 消火用給水 消火用給水栓ニ依リ消防用ニ供給スルモノ
  - 四 船舶用給水 公設特定栓ニ依リ船舶ニ供給スルモノ
  - 五 特別共用給水 區域ヲ定メ販賣人ヲシテ需用者ニ供給セシムルモノ
- 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ専用給水トシ計量ニ依ルヘキモノトス
  - 一 鐵道病院兵營監獄劇場寄席洗滌業洗濯屋豆腐屋旅館合宿所料理屋飲食店工場製造業釀造業印刷業青物商魚商酒商漬物商牛乳榨取所理髮店其ノ他之ニ類スルモノ但シ多量ノ水ヲ使用セスト認ムルモノハ之ヲ除ク
  - 二 噴水ノ用ニ供スルモノ
  - 三 工事其ノ他一時ノ使用ニ供スルモノ
  - 四 前各號ノ外特ニ希望スルモノ又ハ多量ノ水ヲ使用スルモノ

第三條 計量ニ依ル専用給水ニ要スル量水器ハ水道事務所以下事務所之ヲ裝置シ使用者ヲシテ保管セシム

量水器使用者ハ給水區域内ニ居住シ且土地若ハ家屋ヲ所有スル保證人ノ連署ヲ以テ保管證書ヲ提出スヘシ

前項ノ保證人ハ量水器ノ保管ニ付連帶ノ責ニ任スルモノトス

第四條 事務所ハ隨時量水器ヲ點檢シ其ノ消費水量ノ検査證ヲ作り使用者ニ交付ス

量水器ニ異狀ヲ生シ又ハ給水用具ニ破損アリタル場合ノ消費水量ハ前回又ハ改修後ノ消費水量ノ平均額ニ據リ算定ス

第五條 量水器使用者ハ量水器ニ故障アリト認ムルトキハ其ノ試験ヲ事務所ニ請求スルコトヲ得

前項試験ノ結果量水器ニ百分ノ五以上ノ誤差アルトキハ料金額付未済ニ係ル消費水量ヲ訂正ス

量水器ニ誤差ナキトキ又ハ誤差百分ノ五未満ナルトキハ消費水量ヲ訂正セス試験ニ要シタル費用ハ使用者ヨリ之ヲ徴收ス

第六條 量水器不足ノ場合又ハ一時ノ給水ニ對シテハ事務所ノ認定ニ依リ消費水量ヲ定メ給水スルコトアルヘシ

第七條 同一戸内ニハ計量ニ依ル給水ト計量ニ依ラサル給水トヲ併用スルコトヲ得ス

第八條 共用給水栓使用者ニハ鑑札及鍵ヲ貸與ス

使用者ハ汲水ノ際必ス鑑札鍵ヲ携帯スヘシ

鑑札若ハ鍵ヲ毀損シ又ハ亡失シタル爲其ノ交付ヲ受クルトキハ手数料ヲ徴收ス

毀損シタル鑑札鍵又ハ亡失後發見シタル鑑札鍵ハ直ニ事務所ニ返納スヘシ給水使用ヲ中止又ハ廢止シタルトキ亦同シ

第九條 施設消火用給水栓ノ使用演習ヲ行ハムトスルトキハ豫メ事務所ノ承認ヲ受ケ所員ノ立會

ヲ要ス但シ一回ノ使用ハ十分間ヲ超過スルコトヲ得ス

第十條 事務所員ハ給水用具検査ノ爲日出ヨリ日没迄ノ間ニ於テ其ノ使用者ノ家屋内ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所員ノ證票ヲ携帯スヘシ  
給水用具ノ改造又ハ修繕ノ必要アルトキハ事務所ハ直ニ之ヲ施行シ使用者ヨリ其ノ費用ヲ徴收ス

第十一條 變災又ハ水道工事其ノ他已ムヲ得サル場合ニハ給水ヲ制限シ又ハ停止スルコトアルヘシ

第十二條 給水ヲ受ケムトスル者ハ事務所ニ請求スヘシ給水用具ノ位置變更改造修繕又ハ給水ノ中止廢止ヲ爲サムトスルトキ亦同シ  
前項ノ請求ニシテ共用給水栓ノ使用ニ係ルトキハ家主又ハ總代人ヨリ之ヲ請求スヘシ家主又ハ總代人ハ其ノ給水ニ關スル一切ノ責ニ任ス

第十三條 給水工事ヲ請求スル者ハ設計手数料ヲ納付スヘシ但シ官廳公署ノ請求ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

給水工事ノ請求ヲ取消ス場合ニ於テモ既納ノ手数料ハ之ヲ還付セス

第十四條 給水工事費及工費ヲ納付スルハ之ヲ前納スヘシ但シ官廳公署ノ請求ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス  
指定ノ期間内ニ給水工事費ヲ納付セザルトキハ給水工事ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス  
工事施行ノ際請求者ノ都合ニ依リ設計ノ變更又ハ爲シ既納工事費ニ増減ヲ生シタルトキハ竣功後之ヲ精算シ過剩アルトキハ還付セ不足アルトキハ之ヲ追徴ス

第十五條 給水用具費ヲ納付セシメテ給水ヲ受ケムトスル者ハ前條ニ拘ラス事務所ヨリ給水用具ノ貸付ヲ受ケ使用料ヲ納付シテ之ヲ使用スルコトヲ得

給水用具使用者ハ保證人ノ連署ヲ以テ保管證書ヲ提出スヘシ其ノ保證人ニ關シテハ第三條第二項及第三項ヲ準用ス

第十六條 前條ノ給水用具使用者ハ給水用具費ヲ即納又ハ分納シテ自己ノ所有ト爲スコトヲ得但シ分納ノ場合ニ於テハ其ノ完納ニ至ル迄納付金額ニ應シテ使用料ヲ還減ス

第十七條 給水用具ノ貸付ヲ受ケル者給水ヲ受ケルコトヲ廢止シ又ハ使用料ノ納付ヲ怠リタルトキハ事務所ハ其ノ給水用具ヲ撤去シ撤去ニ要シタル費用ハ使用者ヨリ徴收シ既納ノ給水用具費ハ之ヲ還付セス

第十八條 計量ニ依ラサル専用給水料ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 建坪十五坪迄ノ家屋 一月 本栓一箇ニ付金一圓 支栓一箇ニ付金三十二錢
- 二 前記建坪ニ五坪迄ヲ増ス毎ニ一月ニ付本栓金二十五錢支栓金八錢ヲ加フ
- 三 定住者ナキ官廳公署集會所銀行會社ノ給水料ハ前號料金ノ十分ノ三トシ定住者ナキ學校幼稚園等ハ十分ノ一トス但シ一月ノ料金二圓ヲ下ルコトヲ得ス
- 四 支栓ヲ設ケサル浴槽一箇毎ニ一月金二十五錢
- 五 牛馬一頭毎ニ一月金四十錢
- 六 庭園給水ヲ受ケル者ニ對シテハ前項ノ料金ノ外左ノ料金ヲ徴收ス
  - 一 邸宅ノ面積ヨリ庭園面積ノ二倍ヲ超過シ其ノ一月金八十錢
  - 二 庭園面積二十坪迄ニ付四月一日ヨリ九月末日迄
  - 三 庭園面積二十坪迄ヲ増ス毎ニ一月金二十錢ヲ加フ
- 七 第十九條 計量ニ依ル専用給水料ハ左ノ區分ニ依ル
  - 一 工事其ノ他一時ノ給水 一立方メートル金十六錢
  - 二 噴水用 一立方メートル金二十五錢